

教育に関する事務の管理及び執行状況に
係る点検評価報告

(平成28年度事業)

平成29年8月
酒田市教育委員会

目 次

1	点検・評価制度の概要	1
2	点検・評価の対象	1
3	評価の基準	1
4	教育委員会の活動状況	2
5	外部評価者の意見	6
	教育に関する事務の管理及び執行状況に係る点検評価についての意見	
	Ⅰ 全体を通じた意見	7
	Ⅱ 各事業についての意見	8
○	酒田市教育振興基本計画体系図	23
6	点検・評価の状況	
I	明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ	
1	「いのち」の教育の推進	
・	「いのち」の教育の推進	24
・	防災教育の推進	26
・	安全教育、安全対策の推進	27
2	確かな学力の向上	
・	学力向上対策の充実	28
・	時代に対応した教育の推進（国際理解教育、情報教育、科学・ものづくり教育）	29
・	読書活動の推進	31
・	特別な教育ニーズへの支援	32
・	幼保、小、中、高の連携	33
3	豊かな心と健やかな体の育成	
・	生徒指導等の充実	34
・	いじめ防止に向けた取組みの推進	35
・	道徳教育の充実	36
・	体験活動、交流活動の推進	37
・	ふるさと教育の推進	39
・	相談支援体制の充実	41
・	基礎的運動能力の向上	42
・	健康教育の推進	43
・	食育の推進	44
4	家庭・学校・地域との連携	
・	青少年の健全育成	45
・	家庭教育の支援	46
・	地域教育力の向上	47
・	地域産業界、高等教育機関との連携	48
・	青少年指導活動の推進	49

5	教育環境の整備	
・	学校施設の整備	50
・	学校規模の適正化の推進	52
・	通学の安全確保	53
・	学習バスの運行	54
・	学校 I C T 環境の整備充実	55
・	教育の機会均等	56
・	私立学校等の振興	58
6	信頼される学校、開かれた学校づくりの推進	
・	明るく楽しい元気な学校づくりの推進	59
・	学校運営の公開と学校評価の推進	60
・	教職員研修等の充実	61
・	体罰根絶に向けた取組みの推進	62
・	学校施設の地域開放の推進	63
II	世代を超えてまなびあう	
7	生涯学習の充実	
・	生涯学習推進体制の整備	64
・	生涯学習社会の基礎づくり	65
・	生涯学習機会の提供	66
・	地域活動の活性化	67
8	図書館活動の充実	
・	図書館機能の充実	68
・	光丘文庫の保全と活用	69
・	子どもの読書活動の推進（再掲）	70
III	生涯スポーツで明るく健やかに生きる	
9	スポーツ・レクリエーションの推進	
・	子どもの基礎的運動能力の向上（再掲）	71
・	生涯スポーツの推進	72
・	競技スポーツの振興	73
・	スポーツ施設の整備充実	74
IV	歴史にはぐくまれた芸術・文化を活かす	
10	芸術文化活動の推進	
・	芸術文化の振興	75
・	市民の鑑賞機会の充実	76
・	青少年の芸術文化活動の充実	78
11	歴史・文化遺産の保存と活用	
・	文化財等の保存と活用	79
・	地域における民俗文化財の保存と活用	80
・	地域資料の収集と保存	81

1 点検・評価制度の概要

この報告書は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「法」という。）」第 26 条第 1 項の規定により、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならないことに基づき作成するものである。

これにより、次年度の事業計画の検討に用いることで効果的な教育行政の推進を図るとともに、住民への説明責任を果たすことを目的とする。

《参考》

地方教育行政の組織及び運営に関する法律

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第 26 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 4 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検・評価の対象

平成 28 年度の教育委員会の権限に属する事務について、その管理及び執行の状況を対象とする。

3 評価の基準

各施策の評価については、次の視点から総合的に判断し、評価基準により A から D にランク付けを行う。

なお、事業の性質上、個別の施策にランク付けを行うことはなじまないと考えられるものについては、評価基準によるランクを示さず、今後の方向性を記載している。

（1）主な事業の取組み内容

- ・施策の目的、目標に照らして、事業の内容は妥当であるか。
- ・事業の対象者、参加者、利用者を意識して事業に取り組んでいるか。
- ・目標を達成するために、事業の対象者や事業の回数等は適切であるか。

（2）事業の成果

- ・施策の目的、目標に照らして、意義ある成果が達成されているか。
- ・二次的な成果や連鎖的な効果など新たな効果がみられたか。

【評価基準】

ランク	評価基準
A	施策の目的、目標を達成するため、各種事業に取り組んでいる。施策の成果は目標水準以上であることから、今後も積極的に施策を推進（展開）していきたい。
B	施策の目的、目標を達成するため、各種事業に取り組んでいる。施策としての成果には一部未達成の事業もある。 今後も概ね現行の方法、手法等により推進していく。
C	施策の目的、目標を達成するため、各種事業に取り組んでいる。施策の成果には一部未達成の事業もある。 今後は、課題等を踏まえ、事業の対象や手法について見直しを図りながら展開していく。
D	施策の目的、目標を達成するための課題が多く、各種事業に取り組めないでいる。大幅な事業の見直しを図る。

4 教育委員会の活動状況

(1) 教育長・委員の構成

平成 29 年 4 月 1 日現在

職名	氏名	任期
教育長	村上 幸太郎	平成 27 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日
委員	浅井 良	平成 27 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日
委員	岩間 奏子	平成 27 年 11 月 29 日～平成 31 年 11 月 28 日
委員	渡部 敦	平成 28 年 11 月 29 日～平成 32 年 11 月 28 日
委員	神田 直弥	平成 29 年 4 月 1 日～平成 29 年 11 月 28 日

(2) 教育委員会制度改正に対する取り組み

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律(平成 26 年法律第 76 号)(以下「改正地教行法」という。)が、平成 26 年 6 月 20 日に公布され、平成 27 年 4 月 1 日から施行された。

今回の改正は、教育委員会を引き続き執行機関としつつ、その代表者である教育委員会委員長と事務の統括者である教育長を一本化した新「教育長」を置くことにより、迅速な危機管理体制の構築を図ることを含め、教育行政の第一義的な責任者を明確化することとしている。

本市においても、平成 27 年 4 月 1 日より新「教育長」体制に移行し、教育委員会委員長職

については廃止となった。

教育委員会制度改正前、改正後の教育委員会の概要については、次のとおりである。

項目	改正前	改正後
性格	地方公共団体に設置される行政委員会	変更なし
組織	5人の委員で組織	教育長及び4人の委員で組織
権限	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育及び社会教育に関すること ・学校その他教育機関の設置及び廃止に関すること ・社会教育委員などの任命又は委嘱に関すること ・教科書の採択に関すること ・学校の区域に関すること ・市指定文化財に関すること 等 	変更なし
委員長	選任：委員のうちから教育委員会が選挙 権限：教育委員会を代表し、会議を主宰	廃止
教育長	選任：委員のうちから教育委員会が任命 権限：教育に関する事務をつかさどり、事務局を指揮監督 任期：教育委員の任期として4年 ※委員長と教育長は兼務不可	選任： <u>市長が議会の同意を得て、直接任命</u> 権限： <u>教育の会務を総理し、教育委員会を代表</u> 任期： <u>3年</u>

改正地教行法においては、新「教育長」が教育行政に大きな権限と責任を有することとなったことを踏まえ、酒田市教育委員会では、新「教育長」体制のもと教育委員会委員による新「教育長」へのチェック機能を強化するとともに、住民に対して開かれた教育行政を推進する観点から会議の活性化・透明化を図ることとしている。

(3) 教育委員会の活動状況

平成28年度の教育委員会の活動状況は次のとおりである。

・教育委員会会議の開催状況

項目	平成28年度
開催回数	15回
審議案件数	62件
教育長、各課等からの報告案件数	98件

・教育委員会会議の審議概要

項目	件数	主な内容
基本方針・計画策定	3件	
規則等の制定又は改廃	9件	
議会の議決を経るべき議案の意見聴取	10件	予算、物品の取得、請負契約の締結などの議会議決案件
人事案件	20件	非常勤特別職の委嘱、職員人事等
教科書採択	1件	小中学校使用教科用図書の採択
専決事項の承認	16件	規則等の改正、人事案件等
各種文化賞の受賞者の決定	2件	
市指定文化財の指定及び解除	1件	文化財の指定解除
合計	62件	

※詳細な会議録については、ホームページで公表している。

・学校訪問、関連施設視察などの活動状況

実施日	訪問・視察箇所	主な内容
7月19日	酒田特別支援学校	学校施設、授業の見学、校長との意見交換
	はまなし学園	学園見学、施設長との意見交換
	酒田市体育館、希望ホール	関連施設の視察
10月31日 ～11月1日	武蔵野市教育委員会	武蔵野市の小中一貫教育の取り組み、学校と図書館連携についての視察、武蔵野市教育委員会教育長等との意見交換
	武蔵野プレイス	施設見学、公益財団法人武蔵野生涯学習事業団理事長等との意見交換
	国立国会図書館国際子ども図書館	施設見学、企画協力課職員等との意見交換
11月9日	松陵小学校	学校施設、授業の見学、校長との意見交換
	第四中学校	学校施設、授業の見学、校長との意見交換
	光ヶ丘陸上競技場	関連施設の視察

・教育委員会委員の会議、研修、各種行事等への参加状況（主なもの）

実施日	会議、研修、各種行事等名称	備考
4月7日～9日	酒田市立小中学校入学式	
4月12日	退職教職員感謝状贈呈式	
4月14日	第5回酒田市教育委員会会議	
4月16日	山形県縦断駅伝競走大会壮行会	

4月26日	統合小学校の校名案に関する意見交換会	
5月25日	第6回酒田市教育委員会会議	
6月28日	第7回酒田市教育委員会会議	
7月3日	酒田市民体育祭	
7月4日	第1回酒田市総合教育会議	
7月8日	庄内地区教育委員会協議会総会・研修会	
7月19日	学校訪問、関連施設視察	
7月19日	第8回酒田市教育委員会会議	
7月29日	第9回酒田市教育委員会会議	
8月3日	山形県ジュニア駅伝競走大会壮行会	
8月5日	山形県市町村教育委員会大会	
8月23日	第10回酒田市教育委員会会議	
9月30日	第11回酒田市教育委員会会議	
10月6日	小中授業力向上研修会	
10月17日	第12回酒田市教育委員会会議	
10月28日	第13回酒田市教育委員会会議	
10月31日～11月1日	視察研修	
11月4日	庄内文化賞・阿部次郎文化賞授賞式	
11月9日	学校訪問、関連施設視察	
11月9日	第2回酒田市総合教育会議	
11月18日	第14回酒田市教育委員会会議	
11月17日	山形県女子駅伝競走大会壮行会	
12月3日	はばたき報告会	
12月17日	山形県女子駅伝競走大会優勝祝賀会	
12月22日	第15回酒田市教育委員会会議	
1月8日	酒田市成人式	
1月14日	少年の翼（派遣）報告会	
1月19日	酒田市・遊佐町中学校生徒会連絡協議会	
1月26日	第1回酒田市教育委員会会議	
1月27日	酒田飽海児童生徒保健研究発表会	
2月7日	酒田市教育委員会科学賞表彰式	
2月8日	少年の翼（受入）歓迎レセプション	
2月18日	白崎資金スポーツ優秀選手表彰式	
2月16日	第2回酒田市教育委員会会議	
2月23日	小林教育振興基金青少年善行奨励賞表彰式	
3月4日	第3回酒田市教育委員会会議	
3月5日	土門拳文化賞授賞式	

3月16日～18日	酒田市立小中学校卒業式	
3月17日	第4回酒田市教育委員会会議	
3月19日	内郷小学校閉校式	
3月20日	松山小学校閉校式	
3月25日	地見興屋小学校閉校式、南遊佐小学校閉校式	

(4) 酒田市総合教育会議

改正地教行法により、すべての地方公共団体に「総合教育会議」が設置されることとなった。

総合教育会議は、市長と教育委員会で構成され、教育等に関する施策の大綱の策定、教育の条件整備など重点的に講ずべき施策及び児童・生徒等の生命・身体の保護等緊急の場合に講ずべき措置についての協議・調整を行うものである。

酒田市においても、市長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、本市の教育の課題やあるべき姿を共有しながら、連携して効果的に教育行政を推進していくため、酒田市総合教育会議が設置された。

平成28年度における酒田市総合教育会議の開催状況は次のとおりである。

・酒田市総合教育会議の開催状況

区分	実施日	協議内容
第1回	7月4日	本市の教育を取り巻く諸課題について ・鳥海山・飛島ジオパーク構想について ・酒田市の国際交流事業の現状について
第2回	11月9日	本市の教育を取り巻く諸課題について ・酒田コミュニケーションポート（仮称）整備に向けた検討状況について ・本市の中学生の英語を使った交流・体験について

※詳細な会議録については、ホームページで公表している。

5 外部評価者の意見

点検・評価にあたっては、法第26条第2項の規定により、次の2名の外部評価者から各分野に関して意見をいただいた。

外部評価者

生涯学習施設「里仁館」館長 富士 直志 氏

東北公益文科大学 講師 渡辺 伸子 氏

教育に関する事務の管理及び執行状況に係る点検評価についての意見

I 全体を通じた意見

平成 28 年度は、酒田市の教育振興基本計画後期計画の初年度だった。後期計画の教育目標や基本的方向は前期計画とほぼ同じで、基本政策が 11 項目から 12 項目になった程度であった。

また、昨年度は、市の組織改革で市教育委員会にスポーツ振興課が移管され、社会教育課が社会教育文化課となって芸術文化部門が移管された初年度でもあった。

事業数は昨年度と同じく 51 事業であった。そのうち継続という事業が 3 事業で、残り 48 事業が評価対象事業であった。結果は評価 A の事業が 18、B が 30、C もしくは D 評価はなかった。この評価結果の内訳はほぼ昨年と同じであった。C や D の評価がなかったことは評価に値する。

しかしながら、数値目標や参加者などをみると、事業水準を維持しているよりはむしろ減少傾向にある。参加者数は人口減による影響もあるが、割合で示している数値も減少傾向にある。同じ事業の継続の場合、きちんと課題を把握して新たな対策や方法を講じないまま取り組んだ結果ではないかと思われる。いわゆるマンネリによって、独創性や新鮮さを失った結果ではないかと思われる。この点、再考を促したい。

そして事業を突き詰めていく中で次の新しい事業の構想が生まれてくるのではないか。多忙な中ではあると思われるが、課内であるいはグループで、事業の進め方や実施後に意見交換の場をもって事業を複合的に見ることが重要になってくるとと思われる。

また、今後の人口減の中で参加者数を増やすことは難しくなると考えられる。参加者数は補助的な資料としては参考にはなるが、数値目標としては一人当たりとか%などの割合で示すことが客観的な経年比較につながるとと思われる。

各事業は原則 1 頁にまとめられ理解しやすい体裁である。2 頁に亘るものも若干あったが、その 1、その 2 と表記してあったのでわかりやすかった。また、予算規模も従来に較べ詳しく記載されていた。ただ、評価結果が昨年に比べ変化している場合の説明や根拠については今一つわかりにくい事業もあった。

評価対象外の事業については、市民に周知する必要がある事業と思われるので、今後も引き続き、継続、新規、一部新規のような表現で明記して欲しい。

小中学校の統廃合については、今年度 2 つの地域で統合小学校が誕生した。統合後も諸行事や伝統が引継がれ、また旧校のよさをいかした新たな活動など地域の方々が元気で子どもたちを支援できるような取り組みや気風づくりも重要である。

教育委員会の活動状況が報告書の冒頭に記載されている。制度改正に伴う周知を図るとともに、教育委員の方々が委員会活動や総合教育会議を通じて酒田の子ども達のために活躍されている様子を市民に知らせることは重要だし、少なくとも P T A の場などで理解していただく努力が必要と思われる。

富士 直志

全体として、ある程度適切に事業が運営されていると感じた。

しかしながら、全体として、情報公開についてはさらなる推進の余地があるように思われる。

教育は経済活動とは異なり事業の評価が難しい部分がある。そのため、その点を補うものとして、情報公開が必要であると考えられる。例年どおりの活動であったとしても、例年どおり円滑に運営されていることがわかることによって、市民が活力を得、それが地域の活力につながる。Webサイトなども活用して、情報公開に努めてほしい。

また、事業ごとに教育活動が推進されている様子は理解できたが、総合的なデザインがやや不足しているように感じた。「メディアダイエット」「読書活動の推進」「家庭教育の支援」など個別にはよい取り組みであるが、それらの活動が全て十分に達成された場合、どのような家庭生活が実現されるのか示してほしいと思う。本市では、大人は子どもにどのようにかかわるのがよいとするのか、子どもはどのように過ごすのがよいとするのか。総合的なデザインを示さないと、効果的に運営することが難しい上、どこかにしわ寄せがいく可能性もある。課を超えて、教育を通して市民にどのような生活を提供したいのか考えてほしい。

個別の事業は着実に推進されているので、今後は統合的な視点の下、効果的な運営に努めてほしい。

渡辺 伸子

II 各事業についての意見

1 「いのち」の教育の推進

(1) 「いのち」の教育の推進

- ・児童の誕生日に、給食時に家族や仲間のメッセージを準備して、バースデーランチを楽しむことは、豊かな心を育て自己肯定感を高める活動として有効であると思われる。
- ・いのちを大切にする教育は、とくに道徳や特別活動の主たるテーマである。各学校においては、蓄積された教材集を活用してとくに若い先生方の指導力のレベルアップを図って欲しい。
- ・多様な事業を行い、「いのち」の教育が推進されている。
- ・児童の誕生日に行う「バースデーランチ」の際に家族や仲間からのメッセージを読み上げているとのことであったが、児童の家庭には個別の事情があることが想定されるため、必要があれば何らかの配慮を行うべきである。
- ・アレルギーへの対応の研修会、救命救急講習、水難事故防止の啓発など、種々の取り組みを今後も続け、児童生徒の安全確保をさらに推進してほしい。
- ・「赤ちゃん登校日」は特色のある取り組みなので、赤ちゃんの安全にも配慮したうえで、今後も継続してほしい。
- ・事故件数の報告は、在籍児童生徒数に対する割合も算出したほうが、年度を超えて比較しやすい。

(2) 防災教育の推進

- ・避難訓練は緊急時に落ち着いて行動できる児童生徒を育てると同時に、教職員自身が適切に避難指示を出せるようカラダに記憶させることにある。様々な役割を体験することでより望ましい判断が瞬時にできるようねらいを持って実践したい。
- ・様々な災害を想定した訓練を実施すると同時に、災害シミュレーションゲーム等を通じて、

学校だけでなく家庭等においても児童生徒が主体的に判断して家族の一員として避難できるよう学習することも大事である。

- ・避難訓練の回数等も報告があるとよい。
- ・避難所開設・運営に関する関係者間の協議会を定期的開催できるとよい。
- ・防災マニュアルの作成の際には、教員負担が増えないように工夫が必要である。

(3) 安全教育、安全対策の推進

- ・保護者への引き渡し訓練や保育園、コミセンとの合同訓練など地域の特性に応じた避難活動を今後も各地域で実施し、「自分の命、家族友人の命、地域の命」を守る意識を高めて欲しい。
- ・学校の統廃合で、自転車通学が増加している中、児童生徒の自転車事故は減っていない。重大事故につながらないよう基本的な交通マナーを映像で確認だけでなく、実際の乗り方指導を体験させたい。
- ・中学校での安全教室開催には難しさがあることは思うが、教材DVDを用意するなど、その他の方法で補っていく努力が必要であると思われる。
- ・自転車による歩行者への加害、賠償などについて啓発を行い、自転車保険の加入も推進してほしい。

2 確かな学力の向上

(1) 学力向上対策の充実

- ・中学校の複数の学校同士で相互の研修を進めていくホームアンドアウェイ方式による相互授業研修は、特筆すべき取り組みである。そして、今後その成果を他の小中学校に拡げて欲しいし、課題や悩みを共有できる機会にもなると思われる。
- ・全国学力学習状況調査の結果を見ると、基本的な理解については一定の成果が出ているが、活用面ではまだまだ力不足である。とくに算数、数学などの科目では不十分であり、今後小中連携した継続的かつ地道な取り組みが求められるし、このことは総合的な学力を高める上でも大きな障害になると思われる。
- ・家庭での学習時間及び読書の時間が全国平均に満たない点は大変残念である。まずは全国平均まで高めるため、児童生徒への対応のみでなく、保護者への啓発も行うなど多様な取り組みが必要である。
- ・2つの中学校をペアにして授業研究を行うホームアンドアウェイ方式は特色ある取り組みである上、教員にとっても刺激しあう場となり、効果が高いと思うので、今後も継続してほしい。

(2) 時代に対応した教育の推進（国際理解教育、情報教育、科学・ものづくり教育）

- ・「はばたき」や「中村ものづくり」事業は、酒田市ならではのユニークな活動である。これらの参加者等がさらに国際性を身につけたり、科学する心やモノづくりを伸ばせるよう例えばALTや理科センターと連携したブラッシュアップ講座が欲しい。
- ・ロサンゼルス四世交流事業は、実施する上では様々な課題があるようだが、スポーツを通じた国際交流は貴重である。都市の規模は異なっているがこの関係は大事して定期的に継

続して欲しい。

- ・理科教育センター推進事業の理科自由研究相談会について、今後は応募人数も報告し、年度を超えて比較できるようにしたほうが好ましい。
- ・報道機関への周知についても、掲載媒体ごとに掲載回数を算出し、報告してほしい。
- ・ロサンゼルス四世交流授業は特色ある取り組みであるが、事業終了の可能性が大きいとのことで、他の方法で子どもたちに国際交流の機会を提供したほうがよいのではないか。

(3) 読書活動の推進

- ・26名の図書専門員を配置したこと等で、とくに小学生の月平均貸出冊数の目標が平成31年の目標である10冊に既に到達したことは大きく評価できる。
- ・さらに、同じ本をグループやクラス単位で分担して読み合い語り合うような読書の質を深める活動も広げて欲しい。
- ・「家読（うちどく）」（家庭での読書）については、保護者の理解と声かけが重要であるが、「読書手帳」の活用は、読書記録が残る点で親子のきっかけ作りに極めて有効である。
- ・中学生の月平均の貸し出し冊数が0.98と、改善はみられるものの、目標とする2冊に届いていない。読書は学業を補完する活動であり、学業に次いで優先されるべき活動と考えられるが、実際は部活動などが優先されているのではないか。中学生が読書に向かえるように、生活全体を総合的に再デザインしていく必要がある。
- ・小学生の月平均の貸し出し冊数は10.1となっており、目標が前倒しで達成できたことは評価に値する。
- ・図書購入が推進されていることは望ましいことであるが、さらなる読書活動の推進のためには司書の配置・活用が必要と思われる。雇用の正規化を含め、読書活動の推進に対し人材面からもアプローチしてほしい。

(4) 特別な教育ニーズへの支援

- ・教育支援員を40名から60名に増員したことは、現場のニーズに合った事業で大きく評価できる。同時に発達障がいなどへの対応のために学校訪問する巡回相談員を増員したことも評価できる。
- ・一方で教員はこうした教育支援員や巡回相談員に任せきりにしないで必要な情報を共有・記録して、今後の指導や保護者との連絡を密にすることが重要である。
- ・支援が必要な児童生徒に対して取り組みが十分か判断するため、支援が必要な児童生徒数の報告があるとよい。
- ・ADHD等の支援を推進するため、多様な取り組みが行われていることは評価に値する。
- ・日本語指導講師等派遣は今後より重要度を増すものと考えられるので、支援が必要な児童生徒数に応じて適切に運営できるよう今後とも体制を維持していく必要がある。

(5) 幼保、小、中、高の連携

- ・幼保小の連携に関しては、他課（子育て支援課）と連携して、それぞれの職員同士がその育ちについて学ぶ機会があり相互の理解が深まったと思われる。
- ・小中の連携に関しては、とくに英語・数学に関して、共通テーマを下に研修したことは一定の成果につながるものと思われる。今後、中学校区にある小学校との小中一貫教育を検

討していくことは、様々な課題があるが是非実現して欲しい。

- ・中高の連携に関しては、設置者が異なるので小中に比べ難しい面があるが、高校入試に限らず定期的に情報交換する場を設定することが重要である。例えば大学入学共通テスト（仮称）や高等学校基礎学力テスト（仮称）によって大学入学システムや就職採用試験がどう変わるかについては今後の大きな課題であろう。
- ・幼保小の指導者相互職場体験研修は特色ある取り組みだと思っているので、今後も継続が期待される。
- ・各所の連携が行われており、取り組みが丁寧だと感じた。
- ・小中一貫教育は、地域や費用面での事情があつての提案と考えられるが、心理的発達の面では弊害もあるので、視察や勉強会などを行い、弊害を少なくする方法も含めて検討していくべきである。

3 豊かな心と健やかな体の育成

(1) 生徒指導等の充実

- ・全国学力学習状況調査の結果、中学校で自己肯定感や自尊感情が全国平均より高かったことは指導の成果である。
- ・担任力というのは言い換えれば総合的な指導力を身に付けることである。中堅教員のうちに教科指導力は勿論のこと生徒指導・進路指導など領域の力量を伸ばすとともに特別支援教育の研修やICT機器の操作など時代が求めている課題について習熟することが必要である。
- ・Q-Uの評価について、割合を記載してほしい。
- ・評価が「B」であるか、何がどの程度達成されたら「A」になるのかわかるような目標設定が必要と考えられる。

(2) いじめ防止に向けた取り組みの推進

- ・重大事態に陥ることはなかったが、もし万が一発生した場合を想定した問題対応委員会や対策連絡協議会の設置は、いじめ問題を早期に発見したり、いじめの「見える化」につながっていくと思われる。
- ・ネットいじめは送信者がわからず本人の知らない間に拡散するという側面があるので掲載削除など素早い対応が求められる。
- ・いじめ防止に向けて多様な取り組みが行われている点は評価できる。
- ・いじめ防止に向けた取り組みや、重大事態発生時の各委員会等の責任の所在や対応のフローを積極的に市のwebサイトで発信し、保護者がいつでも取り組みの全体像を知ることができるような情報公開を進めていくことが期待される。

(3) 道徳教育の充実

- ・道徳教育では十分指導することが難しい柔軟性や創造性を「公益の心」は併せ持っていることで総合的な幅広い心の教育として子ども達に伝えていくべきである。
- ・小中学校ではふるさとへの理解と愛着を深めていく教材を作成している。先人の知恵と功績を学ぶとともに子ども達自身が調べて発表する機会を持ちたい。

- ・新学習指導要領で定められた道徳の教科化について、適切に対応を進めてほしい。
- ・各小中学校で特色ある活動が行われている点は評価できる。

(4) 体験活動、交流活動の推進

- ・飛島体験、自然体験、少年の翼の3事業はいずれも準備が大変であるが、参加者の満足度が極めて高い活動である。さらに、昨年度は酒田市を含む3市1町で鳥海山・飛島ジオパークに認定されたことを機に自然遺産の価値を子ども達にも体験させたいし、伝えたい。
- ・とくに鳥海山については、その地質学的な変遷を伝えるとともに優れた米や農産物そして海産物がある恵みによって支えられていることを伝える教材が欲しい。
- ・アンケートを用いて各活動の満足度を把握しており、大変よい。
- ・多様な活動が行われており、地域への理解を深めるよい機会となっていると感じられた。

(5) ふるさと教育の推進

- ・基本的には、上記(3)(4)の事業をふるさと教育の視点からまとめた枠組みであるが、新学習指導要領に準拠した社会科副読本の作成では、それを指導する多くの教員の理解があつてこそ初めて成り立つ事業である。保護者にも伝える機会を持ちたい。
- ・酒田っ子はぐくみ事業では、現場のニーズに即した企画で柔軟性が感じられる。各学校の実態に応じたテーマで学校の活性化につながる事業として活用して欲しい。
- ・「酒田っ子はぐくみ事業」は「ふるさと教育の推進」の目的とズレているように感じる。特に、キャリア教育はふるさととの関係の薄い一般的な内容だと思う。この施策の中で実施すべきなのか改めて検討し、必要であれば異なる施策の中に位置づけるべきだと感じた。
- ・副読本「わたしたちのまちさかた」の作成は重要な事業だと感じた。よい内容なので、学校教育場面での活用に留まらず、保護者や一般市民が読めるように展示したり配布したりする社会教育場面での活用も考えてはいかかかと思う。
- ・評価が「B」であるが、「A」になるためには何が必要なのか、目標が曖昧であると感じた。開催規模、開催校数など、できる範囲で数値目標を定めるべきではないか。

(6) 相談支援体制の充実

- ・不登校児童生徒数については、小学校では15人前後で推移しているが、中学生では増加傾向にある。しかしながら、教育相談事業や適応指導教室では高校進学や学校復帰につながるきめの細かい指導を継続して一定の成果も生みだしている。
- ・発達障がい児が増加しているなかでスクールカウンセラーや家庭訪問相談員の助言訪問活動は学校にとって必要不可欠である。
- ・中学校に上がると不登校が増えるということなので、今後も中学校を中心にきめ細かな指導を進めてほしい。
- ・視察もさせてもらったが、適応指導教室（ふれあい教室）では、種々の体験活動の中で生徒の自主性やコミュニケーション能力が涵養されている様子が感じられた。地域の人のかかわりがある施設での運営は珍しく、生徒によい影響があると感じた。今後とも、活発な取り組みを期待したい。

(7) 基礎的運動能力の向上

- ・50m走に関して小3・小5ではタイムが遅くなっているが、逆に中2では部活動の影響な

のか速くなっている。子ども達がスポーツに親しみながら運動能力を高められるよう、講師を招聘するなど適切な実地研修を実施して成果を上げて欲しい。

- ・ 今後は走るだけでなく跳ぶ・投げる能力を含めた総合的な運動能力の伸長に意を尽くして、競技スポーツや生涯スポーツへつながる指導を小中学校を通じて実施して欲しい。
- ・ 陸上や武道の指導員等を派遣する事業を行っているが、できるだけ科学的な知見を取り入れ、体育・部活動ともに効率よく体力と技能の向上が図られるように取り組んでほしい。そのような知識のある指導員を選んで派遣してほしい。

(8) 健康教育の推進

- ・ 「早寝早起き朝ごはん」のキャッチフレーズは子どもの健康のバロメーターとして永く語り継がれているが、朝食を摂っている割合が小中とも減りつつあるのはやはり問題である。児童生徒のみならず保護者にもその重要性はきちんと伝えると同時に栄養学的にどのような食事が望ましいかも理解して貰う必要がある。
- ・ 一方でスマホやゲームに熱中する習慣を変えていくメディアコントロールからアウトメディアへと望ましい生活習慣の確立が急務である。
- ・ 数値目標にBMIを新たに加え、肥満予防の指標としてはどうか。

(9) 食育の推進

- ・ 地元産（庄内産）食材の利用率が、小学校では既に平成31年度目標を達成したことは評価できるが、中学校ではやや停滞している状況である。気候変動で十分な収穫が無い場合もあるが、栄養教諭や栄養士との連携も含めて適切な食材の提供に努めて欲しい。
- ・ しかしながら「アランマーレ」バレーボールチームやジオパーク認定を契機とした大地の恵みを発信した「ジオ給食通信」は新たな工夫で評価できる。
- ・ 「ジオ給食通信」の発行はよいことだと思うが、文章での周知は読み手としては手間がかかる上、他の学校配付物と競合するので、視覚に訴えるような周知方法も検討してほしい。
- ・ 小学校給食は庄内産食材の使用率が目標値に届いており、評価できる。食を通じて、生まれ育った地域のよいところを認識する機会になると考えられる。
- ・ 中学校の給食での庄内産食材の使用率が目標に満たないが、民間業者に委託しているとのことなので、民間業者の収益に支障がない範囲で進めていくしかないと感じた。

4 家庭・学校・地域との連携

(1) 青少年の健全育成

- ・ 成人式では、吉野弘の詩の朗読とともに市長の動画出演や「あののん」との共演など実行委員が主体的にイベントづくりに貢献している。
- ・ 高校生ボランティア「かざみどり」は今年も巨大迷路づくりやお泊り会のお手伝いなど異年齢との交流も含め地域の中で活躍している。会員確保の課題はあるが、今後は他のボランティア団体と連携して大きなプロジェクトに挑戦して欲しい。
- ・ 高校生ボランティア「かざみどり」の会員数が減少したことが評価が前年度より下がった要因であるとのことであるが、人数ではなく、市内在住高校生に対する会員の割合などを

算出して参考にするべきではないか。

(2) 家庭教育の支援

- ・家庭教育講座では、子育て支援課と社会教育文化課とで守備範囲を整理して、7つの事業を実施したが昨年を超える3千人の参加者を集め、一定の成果を得たものと思われる。
- ・今後は子育て講座にまだ参加していない親への声掛けや支援についてどう働きかけていくのか。幼稚園や保育園等関係課と連携しながら地道に進めていく必要がある。
- ・「誰に対し」「何について(テーマ)」行うのが定まっておらず、適切に運営されているのか判断しにくい。
- ・全国的に、男性の育児参加について、子どもと遊ぶような楽しいイベントばかりが開催される傾向にある。しかし、実際には、男性も家事に参加するほうが家庭運営上有益であるので、男性向けに子育てのための料理や栄養の講座などあってもいいように感じた。
- ・既存のテーマありきではなく、住民のニーズに応えるようにテーマを変えていく必要もあると感じた。住民のニーズを反映する方法を検討してほしい。

(3) 地域教育力の向上

- ・地域の教育力向上事業はコミ振毎に主体性を発揮して、三世代交流や地域文化の伝承、地域の自然理解などについて開催したが、いわゆる「地域の先生」に活躍いただきながら学校支援に大きく貢献している。
- ・社会教育指導員をはじめとする社会教育文化課の関係職員がすべてのコミ振を訪問して実施状況や課題を伺い、場合によっては助言するなどして青少年と地域の交流を後押ししている。
- ・目標が数値化されていないので、開催数など数値があってもいいように感じた。
- ・現状では、活発に活動が行われている。

(4) 地域産業界、高等教育機関との連携

- ・中学生職場体験は、短期間で効果が上がるよう各職場と事前の打ち合わせを十分行い生徒が適切な労働観を獲得できるよう双方が支援していくことが重要である。
- ・サイエンス発明教室やものづくり塾では「中村ものづくり事業」と相まって相乗的な効果が期待できる。これらを体験することで継続してものづくりに親しむと同時にその背景にある科学的な法則やしぐみを理解する絶好の機会となるのではないかと。
- ・そしてこれらを後押しする高校、高専、技術短大等との連携は貴重な財産である。これらの積み重ねをもとに参加者のレベルアップをさらに図って欲しい。
- ・中学校職場体験は、2、3日間と、中学生のキャリア教育にとって適切な長さだと考えられる。
- ・中村ものづくり事業による連携は、実施回数も報告してほしい。

(5) 青少年指導活動の推進

- ・万引きや粗暴な非行は減少している。市の青少年指導センターが中心となって生活安全課や各学校の生徒指導担当と連携しながら声掛けをしたり定期的な情報交換をしていることが功を奏したものと思われる。
- ・ネット上のトラブルやいじめは複雑化しているが、小学生段階から親子でマナーや危険性

を理解すると同時に、発生時に機敏に対応できるようなネット巡視活動が重要である。

- ・ネットトラブルは近年問題になっている事柄なので、今後も防止のための啓発を進めてほしい。
- ・ネットの巡視活動の体制がどのようになっているか、情報の公開に努めてほしい。
- ・非行が減少しているとのことで、よいことだと感じた。
- ・万引きは減少しているとのことだが、万引きをする児童生徒は心理的な問題を抱えていることもあるので、そのような背景が疑われる場合にはカウンセラーへつなげることも必要だと思う。体制を整備してほしい。

5 教育環境の整備

(1) 学校施設の整備

- ・耐震化工事や小中学校の校舎及びグラウンドの整備も計画的に進んでいると思われる。とくに各学校のトイレの洋式化も小中学校の双方で改修工事が進められている。また、各学校の特別教室等での冷房設備の設置も少しずつ進んでいる。
- ・多くの学校でそろそろ施設設備が傷んでくる時期に差し掛かっている。それらを長持ちさせる「長寿命化計画」を策定して、点検結果から、適切な改修、更新の時期を設定するなど、持続可能な施設管理の視点が求められている。
- ・トイレの洋式化のための改修を行っているということだが、改修によるトイレの美化ははじめ防止などに積極的な意味も持つので、評価できる。
- ・学校は災害発生時の避難場所となるので、安全性や快適性に配慮して整備を進めてほしい。

(2) 学校規模の適正化の推進

- ・2つの地域（鳥海小学校と南遊佐小学校、地見興屋小学校と松山小学校、内郷小学校）において、平成29年4月に統合小学校が誕生した。今後、それぞれの学校がもっていた良き伝統と校風を継承して、地域住民の理解を得ながら新たな歴史を刻んで欲しい。
- ・また、今後複式学級となる人口減少地域では、将来の教育人口統計などの客観的な状況を伝えながら、話し合いの場を設定する必要がある。
- ・統合について地域の理解を重んじた点は評価できる。
- ・母校がなくなることや、地域に小学校がなくなるとは地域の活気をなくすことにつながるもので、配慮が必要だと感じた。

(3) 通学の安全確保

- ・各学校の見守り隊、地域学校安全指導員、警察署等との協力で、重大事故を防ぐことができたことは児童生徒は勿論のこと、保護者や地域住民にも安心感を与えている。
- ・メール配信システムは、従来の不審者情報のみならず交通事故情報や熊出没などの緊急情報に用途は広がってきたことから、多くの家庭で情報を享受できる環境整備や登録化が望まれる。
- ・児童生徒の通学時の安全を確保するため、十分な取り組みが行われていると感じた。

(4) 学習バスの運行

- ・校外学習におけるバス使用については増加傾向にあり、事業予算も1億円を超える規模で

ある。基本的には、児童生徒が現地に移動して体験する点で、生きた学習に繋がっている。活動内容にもよると思われるが、これらの効果や成果を検証して欲しい。

- ・ 予算規模が大きな事業なので、活動が学力向上に結びついているか、また、学校ごとに利用の程度が適切なのか、評価方法を確立する必要がある。しかしながら、その際、市の周辺部に立地する学校や人数の少ない学校に不利益が生じないよう配慮する必要がある。
- ・ 予算規模が大きな事業なので、市民に対し情報を公開していくことが望ましいと考える。珍しい場所を見学した取り組みなどを何らかの方法でまとめ、webや広報誌などで報告していくとよいのではないか。

(5) 学校ICT環境の整備充実

- ・ いわゆるアクティブ・ラーニングの普及とともにタブレットやプロジェクターなどの教育機器が新設校を中心に設置されていると聞いている。財政的な問題もあるが、効果的なICT機器の活用について研究テーマにして、その成果を共有したらどうか。
- ・ 近年、個人情報の流出が問題になっているので、今後とも成績の漏洩、記録媒体の紛失などが起こらないよう、情報管理やウイルス対策を徹底してほしい。
- ・ 校務用コンピューターの更新に合わせて、希望者には校務の効率化のためのコンピューター活用講座のようなことを企画してもよいかもしれない。教員は大学時代に情報の必修科目でコンピューターを教わって以降はなかなか教わる機会がない一方で、コンピューターは更新で新しい機能が加わっていくので、スキルアップしていくためにはサポートが必要であると思う。

(6) 教育の機会均等

- ・ 京野基金や利子補給、私学授業料軽減事業などについては給付交付型で国や県の制度を補完している。生徒保護者の負担を軽減する施策であり、評価できる。是非継続して欲しい。とくに京野基金は財源が枯渇化しているため後継事業の基金化が望まれる。
- ・ 私立高等学校生徒授業料軽減事業はよい制度だが、所得の要件が複雑で、制度が利用できるか判断するのが難しいという点が残念である。事前に面談による相談日などを設け、利用できそうか見通しを伝えるような機会が必要ではないか。

(7) 私立学校等の振興

- ・ 減額せずに特色ある私立高等学校へ補助金を交付している点は評価できる。
- ・ この補助金は、私学に通学している高校生や保護者にとっても意義ある支援対策費と思われる。是非継続して欲しい。
- ・ 適切に運営されている。

6 信頼される学校、開かれた学校づくりの推進

(1) 明るく楽しい元気な学校づくりの推進

- ・ 学校裁量交付金は、学校独自の活動を支援できる有効な事業で学校の満足度も高い。しかしマンネリにならないようこれまでの活動を見直すとともに各学校の特色を生かした創意ある事業構築が求められている。
- ・ 平成28年度評価は「B」であり、平成27年度の「A」と比較すると下がっている。しか

しながら、活動内容に規模の縮小など、評価が下がる要因が見当たらなかった。今後、評価が下がった場合には、根拠がどの部分であるのかわかるように説明を記載してほしい。

- ・各学校で特色のある取り組みをしているということなので、今後も継続してほしい。

(2) 学校運営の公開と学校評価の推進

- ・児童生徒、保護者、教職員そして学校評議員や学校関係者評価などの評価結果は関係者や地域にわかりやすく公表するとともに、課題になっている点については校長が責任をもって対応策や方向性について述べることが重要である。
- ・学校評議員や学校関係者評価者の人選については、年齢構成、役職、男女比などを考慮して意欲的な方を選抜している学校が出てきたことは評価できる。
- ・学校運営に様々な人の意見を取り入れていくための取り組みが十分に行われていると感じた。
- ・学校に意見を言う人が偏らないよう、配慮を行う必要がある。

(3) 教職員研修等の充実

- ・学校内でベテランが後輩に教える同僚性の教育風土を醸成することが重要である。とくに教員同士が互いに切磋琢磨して成長していくことが研修の基本的な心構えである。
- ・初任者、5年目、10年目の制度的な総合研修のほか、現代的な課題を含む様々な領域の研修を学んで実践していくことがとくに中堅教員には求められている。
- ・教員の習熟段階に応じた研修が円滑に行われていると感じた。

(4) 体罰根絶に向けた取組みの推進

- ・アンガーマネージメントなど研修等を通じて、教員が自らの怒りを鎮める様々なスキルを持つことが重要である。
- ・部活動の外部コーチといえども学校の関係職員であるという意識をもって、校長や顧問教師は、年度当初に体罰禁止を確認すると同時に勝利至上主義に陥ることなく、教育的配慮をもって子どもを育成することをきちんと確認することが大事である。
- ・体罰がなぜ発生するのかについて、科学的な見方を理解し、予防のための環境づくりを進めていく必要がある。
- ・教職員へのソーシャルサポートも体罰防止には効果的であるので、体制を整える必要がある。
- ・学校における部活動のコーチの位置づけを明確にし、校長の指導の下、体罰防止を徹底していく必要がある。

(5) 学校施設の地域開放の推進

- ・学校施設は十分に開放されており、かつまた十分利用されており、学校と地域が関わる機会の提供にもつながっている。
- ・地域の利用者にとっては貴重な施設で、住民の生涯スポーツや生涯学習に大きく寄与していることは間違いない。
- ・適切に運営されている。

7 生涯学習の充実

(1) 生涯学習推進体制の整備

- ・総合文化センターは現在、酒田市街地の生涯学習の最大の拠点となっている。今夏、このセンター内にある社会教育文化課が新庁舎に移転する。学校教育課をはじめ市教委各課との連携はしやすくなるが生涯学習活動の生の現場から遠ざかることになる。
- ・今後とも市民の生涯学習に寄せる声が庁舎に反映されるよう、よりいっそうアンケートや市民の声に耳を傾け、ニーズに合った事業構築が望まれる。
- ・シニア版親カモンくんニュースなどを作成して、生涯学習利用団体等に配布することで新事業の紹介や参加者募集さらには新しい団体の紹介などを広報してはどうか。
- ・「カモンくんこどもニュース」がwebで閲覧できる点は評価できる。

(2) 生涯学習社会の基礎づくり

- ・各世代を対象にした生涯学習推進講座事業を展開して、昨年より3,000人を超える参加人数を達成したことは大きく評価したい。
- ・英語で発信できる子どもの育成事業は、他課から社会教育文化課に移管された事業であるが、市教委全体が学校支援を進めていく中での措置であり、従来の方法にこだわらずに社会教育的発想で取り組むことが大事だと思われる。
- ・今後は学校教育課が社会教育文化課の事業に取り組むことも市民や地域の状況を理解する上では必要だし、さらに教員が街づくりの一翼になることも求められている。
- ・青年講座の参加人数が少ないので、来年度はさらに積極的な広報に努めてほしい。若い人が多く働く会社などに依頼し、ポスターなどを貼らせてもらってはどうか。

(3) 生涯学習機会の提供

- ・新たな市民大学講座として企画した100人ワークショップは学生や若者を取り込む画期的な講座であった。今後は、例えば「酒田のラーメン文化」など柔らかいテーマで若者の声を反映させることも良いのではないか。
- ・生涯学習まつりをさらに盛り上げてほしい。

(4) 地域活動の活性化

- ・地域の教育力スキルアップ講座には、とくに世代交代した自治会やコミセンの役員を対象に開催し、住民の地域理解や学校支援につなげるとともに地域のコーディネーター役として活躍できるようなノウハウも伝達して欲しい。
- ・目的が曖昧なので、この活動により地域がどうなることがゴールなのか、より明確にして示してほしい。

8 図書館活動の充実

(1) 図書館機能の充実

- ・3週間毎に企画展示を開催したり、本のリサイクルコーナーを設けたり、雑誌スポンサー制度を活用するなど様々な試みが、市民が図書館に足を運んだり、本や活字に興味関心を持つきっかけになっていると思われる。
- ・今後、図書館は駅前に移転してリニューアルすると聞いているが、是非図書館が酒田市の

「新しい知の拠点」として市民が集えるような施設になって欲しいし、読書の街酒田を全国に紹介して欲しい。

- ・適切に運営されていると感じた。
- ・雑誌スポンサー制度は興味深い試みだと感じた。今後、さらに参加企業が増えていくように周知を行ってほしい。
- ・未利用者への周知に努めてほしい。
- ・企画展示が 17 回あったとのことで、市民が普段手に取らない分野の本に触れる機会になったものと思われる。今後とも地域のトピックや季節の話題に関係した展示を行ってほしい。

(2) 光丘文庫の保全と活用

- ・昨年度、光丘文庫は中町庁舎に一部移転した。書籍類の移転は終了したが雑誌、新聞はまだ残っているという。新しい環境の中でこれらの資料を保管するノウハウはまだないと思われるが、全国から問い合わせがある貴重な文書館であることから、早急な対応と予算化が求められている。
- ・すでに企画展示やギャラリートークも開催していると聞いているが、今後の課題としては、ICT化に対応した所属資料のデータ化やこうした企画展示やギャラリートークを市民に広報して多くの方に参加していただくことが課題と思われる。
- ・資料の保全について、原本自体の補修を積極的に進めるとともに、目録や中身の ICT 化も進めてほしい。保存のためでもあるが、結果的に利用を促進することになる。
- ・光丘文庫の移転に伴い、土日に開館できなくなったとのことであるが、光丘文庫を研究目的で利用する遠方の人については何らかの対応ができないか、今後検討を行ってほしい。研究利用により、文庫の周知がさらに進むものと考えられるので、市にとってもメリットがあると考えられる。
- ・移転先の中町庁舎は温度と湿度の管理ができるため、保存の点ではこれまでより望ましい環境となったものと考えられる。遮光の問題は今後解決される見込みとの説明を受けたが、一方で燻蒸を行うことが難しいとのことであった。この点についても、代替案等を検討していく必要がある。
- ・本があるだけでは知識は保存されないので、一般の人々への啓発や教育を行い、光丘文庫の意義や内容について保存を図る必要がある。

(3) 子どもの読書活動の推進（再掲）

- ・「土曜おはなし会」「赤ちゃんの読み聞かせ教室」「おやこ手作り絵本講座」「絵本作家講演会」など様々な子ども読書活動推進事業を実施した結果、15 歳以下の一人あたりの貸出冊数が着実に増えていることが表から読み取れる。
- ・一昨年 3 月に策定された第 2 次子ども読書活動推進計画に沿って、さらなる事業を展開し、本好きの酒田っ子、読書のまち酒田と呼ばれる気風を創って欲しい。
- ・15 歳以下の子どもの一人当たりの年間貸し出し冊数は 12.5 冊となり、平成 32 年度目標値の 12.7 冊まであと少しとなっている。取り組みが順調であると感じた。
- ・「読み聞かせボランティア講座」でボランティアを育成したことにより、読み聞かせ活動

が広がったとのことで、今後も育成を積極的に推進してほしい。

Ⅲ 生涯スポーツで明るく健やかに生きる

9 スポーツ・レクリエーションの推進

(1) 子どもの基礎的運動能力の向上（再掲）

- ・総合型スポーツクラブが新たに設立予定と伺っているが、地区体育団体や体協と連携を取りながら、是非新しいタイプの団体として他の団体の参考になるような魅力的で成果の上がる運営をめざして欲しい。
- ・子ども達の二極化（する・しない）によるスポーツ離れを食い止めるために運動の楽しさやスポーツが健康な生涯を築く基盤になることを地域などにも出向いて理解させたい。
- ・目標の数値化が望まれる。
- ・スポ少の加入率の低下を、スポーツをする子どもとしない子どもの二極化として理解しているとのことで、今後、少しだけ行うことのできるスポーツ団体も検討していくべきと考えた。また、その際、体育や部活動では触れることのない競技や、大人と子どもが一緒にできる競技を取り入れていくことが、スポーツをしない子どもへのアプローチとして適切である気がした。

(2) 生涯スポーツの推進

- ・ノルディック・ウォーキングのように市民の生涯スポーツにつながるスポーツ教室を各地域で開催し、新しい種目のルールや冬場のスポーツ推進に積極的に働きかけて欲しい。
- ・酒田ハーフマラソンは伝統ある2つの大会を統合した一大スポーツイベントである。様々な工夫を凝らしているが、更なる参加者増を促して、トライアスロン大会のように全国の代表的なマラソン大会となるよう実績を積んでほしい。
- ・ノルディック・ウォーキング事業で、新たにスポーツに参加する人々が出てきたとのことで、望ましいことだと感じた。今後も、ニュースポーツ等のイベントを行い、無関心層にリーチしてほしい。

(3) 競技スポーツの振興

- ・国体や各全国選手権等に多くの出場者を増やすとともに、世界大会で活躍できるようなトップレベルの選手の育成も重要である。次期東京オリンピック・パラリンピックでは、是非本市出身の選手が出場して欲しい。
- ・競技力向上の前提は底辺の拡大である。未普及種目も含め、様々なスポーツに触れる機会を提供し、科学的な分析の下に有力な選手を育成して欲しい。
- ・「各種大会出場選手賞賜事業」については、競技数や団体数まで明記し、多様なスポーツに対し助成していることや、多くの市民を助成していることがわかるようにしてほしい。

(4) スポーツ施設の整備充実

- ・南東北インターハイ大会では体操競技が国体記念体育館を会場に開催されたが、照明の全灯LED化など好適な環境の中でスムーズに実施されたと聞いている。
- ・日本卓球リーグ全国大会（実業団）の誘致は明るい話題である。平成30年11月開催にむけて必要な整備をして欲しい。卓球の面白さやトップ技術を間近で見ることができる絶好

の機会である。

- ・今後も、施設の老朽化対策や耐震補強を適切に行っていく必要がある。
- ・国体記念体育館のトイレを洋式化し、ユニバーサルデザインに配慮したとのことであったが、他の施設も同様にユニバーサルデザイン化に努めてほしい。障がいの有無にかかわらず、スポーツに親しむことのできる酒田市を目指してほしい。

IV 歴史にはぐくまれた芸術・文化を活かす

10 芸術文化活動の推進

(1) 芸術文化の振興

- ・昨年度は、酒田のもつ芸術の力を全国や世界に発信することができた。まず1つは写真家土門拳の作品展がイタリアのローマで開催され、熱烈な喝采を浴びた。これを契機に、世界に向かって土門拳のもつ写真芸術の素晴らしさや日本の伝統文化の心を伝える機会を増やすとともに地元の土門拳ファンを増やす工夫をして欲しい。
- ・もう1つは、世界的なテノール歌手で欧州の伝統ある歌劇場でソリストを務めた市原多朗氏（前芸大教授）が酒田で開催された「全国豊かな海づくり大会」の席上、天皇皇后両陛下の前で県民歌「最上川」を披露して、参加者に強い感動を与えた。今後も加藤千恵、岸洋子など地元出身の音楽家を顕彰する機会をもちたい。
- ・十分な活動が行われている。
- ・阿部次郎に関しては、文化賞の運営以外にも、普及のための活動を行うべきではないかと感じた。文化についての取り組みなので、長期的な展望を持って取り組んでほしい。

(2) 市民の鑑賞機会の充実

- ・希望音楽祭に新日本フィルハーモニー交響楽団を招聘して、そのリハーサル風景などを子ども達に公開して、プロの技術を見聞きすることができる生の機会を得たことは貴重な体験になるであろう。
- ・市立美術館は、芸術性だけでなく子どもや底辺の拡大を配慮した企画展示を配置して市民のミュージアムとして機能しているだけでなく、ユニークな企画には他地区からも数多くの参観者を得ている。
- ・十分な活動が行われている。
- ・美術館等の施設は、解説付きの鑑賞会など、アクティブな活動を増やすことにより入館者増を図るべきと考えた。

(3) 青少年の芸術文化活動の充実

- ・「能狂言」のワークショップを市内のすべての小学校の児童生徒（5年生）が体験した。プロの指導で歌舞伎とともに日本の伝統文化の1つである能や狂言を身体を通して理解するとともに、今後松山に伝わる能狂言に関心を持つきっかけになっている。
- ・コンテンポラリーダンスが体験できるのは珍しく、特色ある活動だと感じた。
- ・児童生徒を「お客さん」として扱うだけではなく、学芸員体験など、将来文化の担い手となることを意識させるような活動が実施できるとよいと感じた。

11 歴史・文化遺産の保存と活用

(1) 文化財等の保存と活用

- ・旧鑑屋の修復工事の完成が待たれる。立地条件の良い場所にあるのでインバウンド事業で外国人が見ても価値ある文化財である。多言語による施設の紹介が作成されれば観光客でもスマホなどで簡単に知ることができるであろう。
- ・市立資料館は貴重な資料を所蔵しているが、駐車場を含め本施設はお世辞にも広いとは言えない。しかしながら、最近の企画展示は中身の濃い内容で多くの市民や子どもたちに見て欲しい資料だ。移転・改修・統合などの視点から酒田の総合文化歴史資料館としてのリニューアルを切に期待する。
- ・障がいのある人も利用できるよう、施設の整備や周知を行っていくとよい。
- ・歴史ある文化施設の保存を今後も適切に行ってほしい。

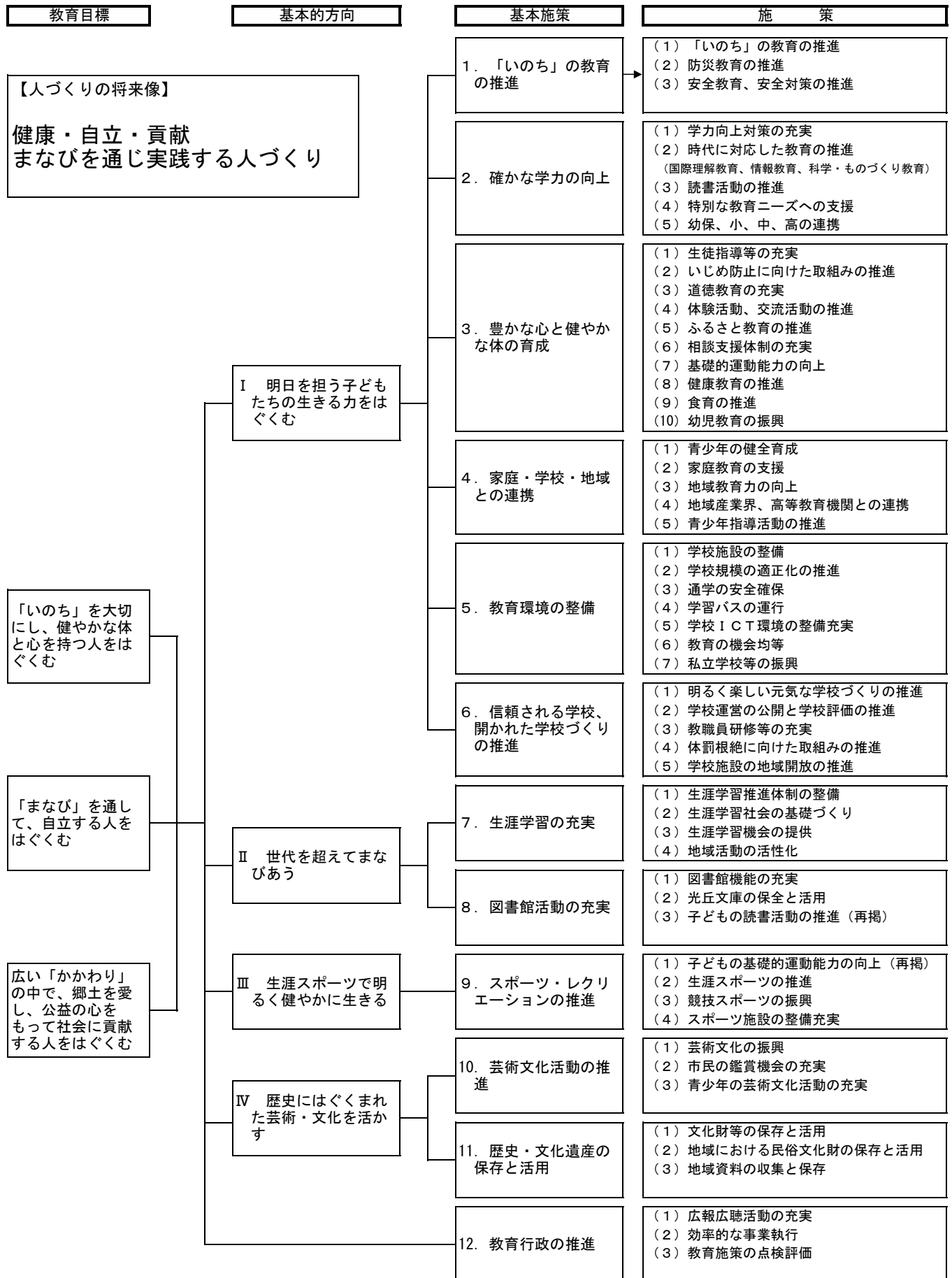
(2) 地域における民俗文化財の保存と活用

- ・黒森歌舞伎や松山能など民俗芸能を伝承させる後継者の育成はこの少子化の時代にあっては大きな課題である。小学校で演技を止めることがないよう中学生になっても演習したり小学生を指導することができる環境を創っていくことが課題である。
- ・松山城址館の運営は指定管理になっているが、能狂言や茶会だけの施設ではなくて多目的施設として設計された建物なので、講演会・研修会での活用や隣の文化伝承館や歴史公園とのセットでの利用が求められている。
- ・松山城址館での小学5年生向けの狂言ワークショップは特色ある取り組みなので、今後の継続が期待される。

(3) 地域資料の収集と保存

- ・国や県の文化財指定を受けるためにも専門職員の養成・配置が急務ではないか。文化財指定は概ね、市文化財→県文化財→国重要文化財→国宝という経路を辿る場合が多いと思われるが、それぞれの格上げには担当の専門職員が必要と思われる。
- ・阿部記念館では、昨年企画展示として、明治大正期に作成された地元の商店のチラシが展示されたが、カラー多色刷りの美人画ともいえるポスターで見応えがあった。阿部記念館に限らず、こうした隠れた資料の公開も考えて欲しい。
- ・入館者数の増加のために企画展示の工夫を行いたいと記載されているが、展示の工夫には知識や技術が必要であり、そのためには学芸員の常勤雇用での配置が望ましいと思われる。
- ・展示の工夫だけでなく、駐車場やトイレなどの展示場所以外の整備や、それらの周知なども必要ではないか。
- ・酒田市にある施設間の連携だけでなく、市外・県外の関係施設と定期的に交流を行うことを検討してほしい。そのような交流を行うことにより、展示内容の位置づけをさらに明確にしていくことができると考えられる。市内の施設との対比だけでは、各施設がどういった点で貴重であったり、特色があったりするのかわかりづらい。市内にこもらずに広く交流と情報収集に努めてほしい。

酒田市教育振興基本計画後期計画体系図



基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	1 「いのち」の教育の推進		
施策	(1) 「いのち」の教育の推進 (その1)		
担当部署	学校教育課、社会教育文化課	平成28年度 担当部署	学校教育課、社会教育文化課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・命と生き方を大切にする「いのち」の教育を推進し、健やかな体と心を持つ人を育てる。 ・自らのいのちと存在を大切に思える気持ち（自尊感情）と他の人のいのちを尊重する気持ちを育てる。 ・命を守る安全教育を推進し、児童生徒自らが主体的に判断し、行動できる能力を高める。 ・乳児と母親とのふれあいを通し、子どもたちが自らも家族の愛情にはぐくまれ成長してきたことの喜びを感じてもらうことで、自己肯定感といのちの大切さを実感できる教育を推進する。 ・これから親になる世代に対しての学習機会の充実に努める。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らのいのちと存在を大切に思える気持ち（自尊感情）と自らのいのちを守るために主体的に判断し、行動できる能力を高めていく。 ・命と生き方を大切にする学校づくりと創意ある教育課程の編成を推進する。 ・自尊感情と思いやりの心を育む道徳教育、社会性を育む集団づくりと自己実現につながる生徒指導、いじめのない学校づくりを推進する。 ・日常の安全に関する知識や対応・行動の仕方についての教職員の資質の向上と児童生徒の危険回避能力の育成を図る。 ・学校と連携し、限られた授業時間で充実した内容を提供する。 			
平成28年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○学校教育の重点に「いのち」を大切にする学校づくりを掲げ、各校で創意ある取り組みを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6年生が行なっているボランティア活動を全校の取り組みに広げ、振り返りを大切にしながら思いやりの心を育み、自己有用感を高める体験活動を行なった。（小学校） ・年間を通して栽培活動や小動物の世話、地域の学習での米づくりやサクラマスの放流など命のつながりや命の大切さについて学ぶ活動が展開できた。（小学校） ・児童の誕生日に、給食（バースデーランチ）の際に家族や仲間からのメッセージカードを準備し愛情に囲まれて成長してきた喜びと自己肯定感を実感する場を設定した。（小学校） ・道徳と特別活動の充実に努め、話し合いと実践による問題解決の機会を意図的に設定したことで、生徒の自尊感情の高まりが見られた。（中学校） <p>○教職員一人ひとりが実際の場面で対応できるようにAED操作、心肺蘇生の講習会で研修を深めた。また、アレルギー対応についても各学校で研修会を開くなど対応できるように取り組んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救命救急講習会（第二中学校会場 参加者 教職員32名） ・各小学校でプール指導前にPTAと連携して救命救急講習会を実施し、心肺蘇生やAED操作の講習を行った。 <p>○児童生徒が安全、安心に学校生活を送ることができるよう、「いのち」を大切にする学校づくりを「学校教育の重点」の最重要課題とし、会議、経営訪問等で繰り返し学校に伝えた。</p> <p>○離岸流、熱中症、蜂等の有毒生物等に対する事故防止と長期休業前の心と体の事故防止について心配される時期に適時に通知し、学校での指導に活かせるようにした。</p> <p>○市内全小中学校教員を対象にしての救命救急講習会は「子どもの命を守る安全教育推進事業」で27年度より実施している。中学校会場でAED講習を含めた救命救急講習会を実施した。</p> <p>○水難事故防止のため、離岸流による事故の防止の啓発文書を配布し、各学校で児童生徒への指導を行った。</p> <p>○赤ちゃん登校日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内の小学校（6年生）と中学生を対象し、2～3組の親子（赤ちゃん）とコーディネーター（1人）とともに学校を訪問して、子育てについての話や子どもへの思い等を聞き、赤ちゃんに触れ合う。 <p>小学校7校、中学校2校で22回開催。総参加人数590人。</p>			

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	1 「いのち」の教育の推進		
施策	(1) 「いのち」の教育の推進 (その2)		
担当部署	学校教育課、社会教育文化課	平成28年度 担当部署	学校教育課、社会教育文化課
平成28年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○第一中学校で東北道徳研究協議会の題材に「赤ちゃん登校日」が取り上げられた。</p> <p>○赤ちゃん、母親に加え祖母も参加してくれた回があり3世代で授業に協力していただいた。</p>			
事業の効果・課題			
<p>○「いのち」を大切にす学校づくりに向けて各校で取り組みを行い成果を上げている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全ての教育活動の基底に「いのちの教育」を据え、「いのちの教育全体計画」を踏まえた実践を継続してきた。思いやりと正義感があり、支えあう子どもの具現化に近づいている。(小学校) ・授業、生徒会活動、行事等の様々な場面で活躍し生き生きと取り組んでいる生徒の姿をたくさん見ることができた。(中学校) <p>○28年度は生命に関わる重大事故はなかったが、交通事故、熱中症、校内・外での負傷事故、事故があり、今後も事故の未然防止に向けて取り組んでいく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通事故件数 小10件 中6件 ・熱中症で医療機関を受診した件数 小2件 中15件 入院なし ・校内外での負傷事故件数 小13件 中7件 <p>○赤ちゃん登校日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちは緊張しながらも赤ちゃんを抱っこしたり、おもちゃであやしたり、一生懸命に向き合っていた。その中で、命の重さや大切さを感じるとともに、自分もこんなふうに愛情いっぱい育ててもらったことを実感し、親へ感謝する気持ちも生まれていた。 ・小学生の実施が1校増えて7校となったが、希望校が年々少しずつ増加している。 ・実施回数の増加に伴う赤ちゃんへの依頼とスケジュールの調整に苦労している。 ・クラス毎に実施するため、中学校では1校で4～5回の訪問となる。 			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
28年度評価	A	<p>○学校教育の重点に「いのち」を大切にす学校づくりを掲げ、各校で創意ある取り組みを行うことができた。</p> <p>○事前打合せを行い学校教諭と連携した授業の実施ができています。</p> <p>○赤ちゃんを実際に抱っこしたり、母親から子育ての苦労ややりがいや聞く事で、命の重さや、生まれてから今まで親から育ててもらったことを考える機会となっている。</p> <p>○平成28年度の実施回数を概ね上限として今後も継続していく。</p>	
【参考】27年度評価	A		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	1 「いのち」の教育の推進		
施策	(2) 防災教育の推進		
担当部署	学校教育課	平成28年度 担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大規模な災害が発生した場合の学校としての体制づくりと児童生徒が主体的に考え、判断し、行動できる危険回避能力を育てる。 ・児童生徒が適切に避難できるように各校の防災マニュアルと防災管理体制の見直しを図る。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害発生時に適切な対応ができるように、教職員への防災教育研修会等を実施する。 ・各校の防災マニュアルの見直しを行うための、学校防災マニュアル作成ハンドブックを作成する。 			
平成28年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○子どもの命を守る安全教育推進事業【予算現額371千円・支出済額227千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「子どもの命を守る安全教育推進会議」の開催（年2回） ・児童・生徒への防災教育及び教職員への防災管理研修（小学校3校、中学校2校） ・防災教育研修会（1回 参加者 教職員30名） ・救命救急講習会（1回 参加者 教職員32名） 			
平成28年度における改善点・新たな取り組み			
○各校の防災マニュアルの見直しを行うため、学校防災マニュアル作成ハンドブックを関係各課と連携しながら作成し、各校に配布することができた。			
事業の効果・課題			
<p>○防災教育アドバイザーによる児童生徒向けの講話では、地震の基本的な知識や避難行動の留意点を、キーワードとしておさえ理解を深めることができた。また、画像を適切に使い、視覚をとおして理解を深めることができた。</p> <p>○各校とも、毎年災害に応じた避難訓練を実施しているが、その基本的な避難の仕方を今回の研修会で改めて見直すことができた。児童は、災害の恐ろしさを実感するとともに、万が一に備えて、しっかりと学ぶことができた。</p> <p>○地域での避難は小学校学区のコミュニティが中心となる。避難場所、避難経路を市民全体が理解し、避難は学校だけでなく、市民全体のことと位置づけなければならない。作成した学校防災マニュアル作成ハンドブックをもとに、地域と学校と行政が連携して進めていく必要がある。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
28年度評価	A	<p>○大規模な災害が発生した場合の学校としての体制づくりと児童生徒が主体的に考え、判断し、行動できる危険回避能力を育てる取り組みを進めることができた。</p> <p>○各校の防災マニュアルを見直し、安全で安心できる学校の安全体制を確立する。</p> <p>○避難所開設・運営について、学校、地域、行政で話し合う場を設ける。</p>	
【参考】27年度評価	A		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	1 「いのち」の教育の推進		
施策	(3) 安全教育、安全対策の推進		
担当部署	学校教育課	平成28年度 担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生活安全」「交通安全」「災害安全」に関する指導を通して、命を守る安全教育の推進を図る。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生活安全」「交通安全」「災害安全」に関する知識や対応、行動の仕方について、具体的な場面を想定した実践的指導を推進する。 ・日常的な指導を工夫することにより、児童生徒が安全に関して主体的に判断し行動できる能力を高める。 			
平成28年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○「非常災害対策と防止計画」の各学校での作成（昨年度に作成したものの見直し）と実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・火災発生時、地震及び津波発生時、不審者侵入時など、具体的な場面を想定した訓練を実施し、避難場所や経路など実施をふまえた改善を進めるよう指導した。 <p>○年間指導計画に基づいた交通安全教育の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期の初発指導や特別活動等の時間において、交通安全教室や安全な登下校についての指導が行われている。 <p>○通学路の安全点検</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度始めに各校から提出されて通学路の危険箇所をもとに安全点検を行った。 <p>○安全な登下校に向けた「見守り隊」との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域学校安全指導員による学校訪問を通じて、登下校の様子や通学路の要注意箇所について情報交換を行った。 			
平成28年度における改善点・新たな取り組み			
<p>事業の効果・課題</p> <p>○「非常災害対策と防止計画」の策定と改善によって、実際のその状況における行動とを想定した訓練が行われるようになってきている。</p> <p>○年度始めの「通学路の安全点検」と、「学区安全マップ」による経年の点検箇所を照らし合わせながら、危険地点の洗い出しとその対応を行うことができた。</p> <p>○各校における「見守り隊との対面式及びお礼の会」や「こども110番連絡所」の設定箇所確認を通して、登下校時に危険を感じたときや困ったとき、頼れる人や場所がすぐ思い浮かぶような体制づくりが整ってきた。</p> <p>○自転車使用について違反者、加害者にならない指導を各校で丁寧に繰り返し行っていく。</p> <p>○自転車保険の加入やヘルメットの着用についても検討する必要がある。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
28年度評価	B	<p>○「生活安全」「交通安全」「災害安全」に関する指導を通して、命を守る安全教育の推進を図ることができた。</p> <p>○交通事故など事故の防止に向けて繰り返し指導を行っていく必要がある。</p> <p>○通学路の危険箇所については、引き続き、改善に向けて関係機関と連携していく。</p>	
27年度評価	B		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	2 確かな学力の向上		
施策	(1) 学力向上対策の充実		
担当部署	学校教育課	平成28年度 担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の能力・学力を把握し、教師の授業改善や読書活動の充実を図る取り組みを通して、児童生徒の学力向上に資する。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校訪問指導を通し「確かな学力」を育成するために授業改善を図る。 ・小学校4年生から中学校3年生全員を対象に学力検査を実施し、児童生徒の学力の傾向を分析するとともに、各校での指導に生かす。 ・全教科に、全国標準以上の学力を目指す。 			
平成28年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○学校訪問指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各小中学校で実施した47回の授業研究会に延べ117名の指導主事を派遣し、授業改善に向けた指導・助言を行った。 <p>○学力向上対策事業【予算現額15,704千円・支出済額14,306千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Q-U（楽しい学校生活を送るためのアンケート）やNRT（標準学力テスト）については学力の状況と学級の人間関係等を把握し、指導を改善するために活用している。 ・小中授業力向上研修会では、算数・数学に特化し、鳥海八幡中学区の小中学校それぞれで授業改善へ向けた実践的な研修を行った。 <p>○教育研究所運営事業【予算現額746千円・支出済額565千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科、領域ごとの研究部で授業研究会や研修会を延べ58回実施した。 			
平成28年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○教員の「単元を構成する力」、「教科の本質やつけたい力を明確にした1時間の授業をつくる力」を高めるために単元研究委嘱を行なった。（委嘱校：亀ヶ崎小、新堀小、平田小）</p> <p>○課題であった数学、英語の指導力向上に向けて、中学校教員県外視察（数学科、英語科）を実施し、先進校の実践を学ぶことが出来た。また同時に、ホームアンドアウェイの授業研究会を実施することで、研修の成果を共有することができた。</p>			
事業の効果・課題			
<p>○Q-Uについて、市全体や各学校で活用のための研修会を実施し効果的であった。希望した13校へ講師を派遣した。</p> <p>○学力向上推進会議を開催し、学力向上対策について有識者からご意見をいただき、様々な視点から具体的な施策について示唆をいただいた。</p> <p>○小中授業力向上研修会では、公開授業を通して、思考力を高めるための言語活動などについて理解を深めることができた。延べ約110名参加。</p> <p>○NRTについては、各担任、学校が、個々の児童生徒やクラス、学校全体、市全体の学力の状況を把握し、指導を改善するために活用している。</p> <p>○社会教育文化課、図書館等とも連携し、家庭で学習時間と読書の時間が確保できる環境づくりを進めていく。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
28年度評価	B	<p>○Q-UとNRTの授業改善への活用については、教員の理解が深まってきており、学級づくり、学力向上に向け継続して取り組んでいる。特に、小中学校ともにQ-Uの結果では、満足群が全国平均を上回っている。</p> <p>○NRTの国語の結果では小中全学年（3年を除く）が全国平均を上回っている。読書量も増え一定の成果は出ている。家庭での学習時間が全国に比べると少ないことから、今後も家庭と連携した取り組みを行なっていく。</p> <p>○単元委嘱研究、学力の3本柱（教育環境の充実、教員の指導力の向上、学習習慣の形成）を推進し、NRTとQ-Uの結果を受けて対策を一層充実させていく。</p>	
【参考】27年度評価	B		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	2 確かな学力の向上		
施策	(2) 時代に対応した教育の推進 (国際理解教育、情報教育、科学・ものづくり教育) (その1)		
担当部署	企画管理課、学校教育課	平成28年度 担当部署	企画管理課、学校教育課

施策の目的及び目標					
○目的					
・時代の進展と社会の変化に伴い、国際理解教育、情報教育、科学・ものづくり教育などを推進することにより、子どもたちに時代にふさわしい能力を身につけさせる。					
○目標					
・ALTを効果的に活用することで、英語を使つてのコミュニケーションへの興味・関心を高めるとともに、中学生海外派遣事業「はばたき」や四世交流事業等を通して、国際感覚の基礎を身につける。					
・情報教育担当者会での研修を通して教員の指導力を高め、児童生徒の情報モラル及び情報活用能力の向上を図る。					
算出方法		H26	H27	H28	H31(目標)
授業でICT機器を活用できる教員の割合	小	87%	90%	89%	100%
	中	76%	78%	81%	100%
・理科教育センター各事業及び中村ものづくり事業の活動を通し、身近な現象を科学的に解き明かす力の育成やものづくりの楽しさを感じさせるようにする。					
・言語や生活習慣等の相違を越えた心と心のふれあいを行うことで、異文化に対する理解と認識を深め、国際社会に貢献する豊かな人間形成に資する。					
・ロサンゼルス四世交流事業では、参加者の事業に対する満足度を90%以上とすることを目標とする。					

平成28年度 主な事業の概要及び実施状況

- 外国人英語講師招致事業【予算現額13,157千円・支出済額12,738千円】
 - ・中学校では外国語週4時間に対応してALTとのTT(ティームティーチング)を実施し、ネイティブイングリッシュに触れる機会をもった。小学校では外国語活動が位置づけられている5、6年生全クラスでALTとのTTを12時間実施した。
- 中学生海外派遣事業「はばたき」【予算現額6,273千円・支出済額5,897千円】
 - ・20名(男子9名、女子11名)の中学生をオハイオ州デンプシー中学へ派遣した。体験入学やホームステイでは、団員が積極的に国際交流を図り、国際的な視野を広げることができた。
- 中村ものづくり事業【予算現額2,041千円・支出済額2,041千円】
 - ・チャレンジものづくり塾(年間5回開催、塾生28名)、サイエンス発明教室①(5領域78名)、サイエンス発明教室②(2領域64組)、ものづくり出前授業(延べ7校316名)を実施した。
- 理科教育センター推進事業において、理科自由研究相談会を実施し、酒田市教育委員会科学賞に多くの児童が応募した。
- ロサンゼルス四世交流事業【予算現額6,500千円・支出済額6,493千円】
 - ・平成28年7月30日から8月5日にかけて、平成27年度にホームステイを受け入れた中学生、家族等(中学生男子10名、女子12名、家族33名、団長等6名)61名がロサンゼルスを訪れ、バスケットボールの試合やホームステイ、歓迎セレモニー等を通じて交流を行った。

月日	主な内容
7月30日(土)	庄内空港出発→羽田空港着 成田空港出発→ロサンゼルス到着 歓迎会 ホームステイ①
7月31日(日)	開会式・交流試合 ホームステイ②
8月1日(月)	交流試合 ホームステイ③
8月2日(火)	自由行動 ホームステイ④
8月3日(水)	交流試合・送別会 ホームステイ⑤
8月4日(木)	ロサンゼルス出発
8月5日(水)	成田空港到着 羽田空港出発→庄内空港到着

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	2 確かな学力の向上		
施策	(2) 時代に対応した教育の推進 (国際理解教育、情報教育、科学・ものづくり教育) (その2)		
担当部署	企画管理課、学校教育課	平成28年度 担当部署	企画管理課、学校教育課
平成28年度における改善点・新たな取り組み			
<ul style="list-style-type: none"> ○情報モラルを行動として身に付けられるような指導を進めることができた。 ○2回のサイエンス発明教室、通年のものづくり塾、出前授業の内容を整理・統合し、参加対象者が大きな負担を感じずに気軽に参加できるようにした。 ○サイエンス発明教室のコースを各分野ごとに5コース設定し、新しいニーズにこたえるようにした。 ○各報道機関にこの事業を周知し、一般市民の方々に広く知ってもらうことができた。 			
事業の効果・課題			
<ul style="list-style-type: none"> ○小学校への12時間ALTを派遣し、児童が英語に慣れ親しみ、積極的に英語を使ってコミュニケーションを図ろうとする意欲を高めることができた。中学校への派遣回数を増やしたい。 ○「はばたき」では、デンプシー中学校の中学生に日本文化を英語で紹介したり、体験させたりして積極的にコミュニケーションを図ることで、英語への興味・関心を深めることができた。また、報告会の実施と報告集の作成が団員の英語学習への意欲を高め、さらには他の生徒の「はばたき」への関心につながっている。 ○情報モラルを行動として身に付けられるような指導を進めることができた。 ○中村ものづくり事業の2回のサイエンス発明教室、通年のものづくり塾、出前授業を通じ、ものを創ることの喜びを実感すると同時に、科学への興味関心を高める機会となった。 ○ロサンゼルス四世交流事業では、ロサンゼルス四世バスケットボール協会側の温かい歓迎のもと、事業に参加した選手や家族たちは、異文化に対する理解と認識を深め、言語や生活習慣等の相違を越えた心と心のふれあいを行うことができた。参加者の事業に対する満足度は91%であった。 			
点検結果・自己評価 (今後の方向性)			
28年度評価	A	<ul style="list-style-type: none"> ○国際理解教育、情報教育、科学・ものづくり教育などを推進することにより、子どもたちに時代にふさわしい能力を身につけさせることができた。 ○新学習指導要領に対応して、外国語活動、外国語でのALTを活用を一層充実させるとともに、英語を使ってのコミュニケーションへの興味、関心を高めていく。 	
【参考】27年度評価	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ロサンゼルス四世交流事業は相互交流で実施しており、受け入れを行った27年度、訪問を行った28年度の2か年をもって終了となる。参加者の満足度は高く一定の効果があったものと考えるが、日米の夏休み期間のずれが年々大きくなっており、日程の確保が困難になることが考えられることから、今後も本事業を継続するかは未定である。 	

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ					
基本施策	2 確かな学力の向上					
施策	(3) 読書活動の推進					
担当部署	学校教育課	平成28年度 担当部署			学校教育課	
施策の目的及び目標						
○目的						
・読書活動を推進するため、本との多様な出会いを工夫するとともに、読書に親しめる環境の整備と充実を目指す。						
○目標						
算出方法		H25	H26	H27	H28	H31目標
学校図書室貸出冊数 (1人当たり月平均)	小	8.8冊	9.2冊	9.9冊	10.1冊	10冊
	中	0.63冊	0.73冊	0.78冊	0.98冊	2冊
全国学力・学習状況 調査の質問53「読書 は好きですか」回答 による	小	小6 80.4%	小6 74.1%	小6 78.2%	小6 80.8%	小6 80.0%
	中	中3 74.2%	中3 73.6%	中3 71.2%	中3 74.5%	中3 80.0%
平成28年度 主な事業の概要及び実施状況						
○各小中学校への図書専門員の配置						
・26名の図書専門員を全小中学校に週2～3日配置し、学校図書の環境整備を行った。						
○図書購入費の各小中学校への配当						
・小学校15,791千円(充足率114.6%)、中学校11,896千円(充足率152.6%)の図書を購入した。						
○図書館教育・読書指導研修会の実施						
・図書室と授業を効果的に結び付ける取り組みについて研修した。前半は、教科書教材で完結する学びから本と結び付けることで活用力・応用力が向上すること、また、後半は探究的な姿勢を育むためには「シンキングツール」が有効であることを体験を通じて実感できた。						
平成28年度における改善点・新たな取り組み						
○「家読」の更なる推奨						
・学校において多様な読書活動を展開するとともに、家庭と連携しながら、本とふれあう機会の充実を図った(メディアダイエットに加え、親子で読書する機会が増えたり、読書について親子で話をする時間が増えるよう、「読書手帳」の活用を推奨した。)						
事業の効果・課題						
○図書専門員の間で管理システムの活用や読書環境整備に対する意識が向上し、特に小学校においては読書量や読書意欲が高い水準で維持されている。						
○どの学校でも集団読書の機会(読み聞かせや朝読書)を工夫し、読書意欲向上を図っている。						
○図書館教育・読書指導研修会の後、各校では内容の伝達がなされ、日々の授業改善や図書館運営の工夫につながった。平成31年度に開催される東北大会に向け、図書の活用を位置付けた授業づくりを推進する。						
○小学校において、学校図書を年間1人100冊以上借りている学校が18校ある。						
点検結果・自己評価(今後の方向性)						
28年度 評価	B	○小学生はどの学校でも読書に力を入れており、本を読む習慣が身につけてきている。 ○中学生の読書は各学校の読書環境の整備(新刊本やお薦め本の効果的な展示、紹介)により、本を手にする生徒が徐々に増えてきている。忙しい生活の中でも読書の時間を大切にするよう、今後も読書への興味や関心を高めていく。				
【参考】 27年度 評価	B					

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	2 確かな学力の向上		
施策	(4) 特別な教育ニーズへの支援		
担当部署	学校教育課	平成28年度 担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別な教育的支援を必要とする児童生徒や日本語でのコミュニケーションが困難な児童生徒等に対して、個別のニーズに応じた支援を行う。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育コーディネーターを中心に、相談や支援が組織的に行われるようにする。 ・教育支援員等の適正な配置により、個別のニーズに沿った指導・支援を行う。 ・日本語指導講師等の派遣により、日本語や病気で困難さを抱える児童生徒が、学校での生活に早期に適応できるようにする。 			
平成28年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○教育支援員充実事業【予算現額79,569千円・支出済額78,182千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育支援員60名を小学校22校・中学校7校に配置した。(6時間×200日、研修3回) <p>○ADHD等支援体制推進事業【予算現額5,827千円・支出済額5,618千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育コーディネーター等を対象とし、研修会を実施した。(2回) ・保護者研修会(ペアレントトレーニング)を開催した。(5回×1グループ) ・3名の特別支援教育巡回相談員による巡回指導を実施した。(25校延べ341回) H27は273回 <p>○日本語指導講師等派遣事業【予算現額1,127千円・支出済額1,085千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語指導講師を335回派遣した。(対象児童生徒数5名) 			
平成28年度における改善点・新たな取り組み			
○小・中学校において教育支援員を60名配置し、児童生徒の学校生活・学習活動の充実を図った。			
事業の効果・課題			
<p>○教育支援員充実事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年3回の研修会・情報交換会を通して、特別な教育的支援を必要とする児童生徒への適切な対応について研修をすることができ、また60名に増員されたことで以前よりも対象児童生徒が落ち着いた学校生活を送れるようになってきた。 ・巡回相談員が3名体制になったことで、学校との連携をより深めることができた。 <p>○日本語指導講師等派遣事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個の困り感に応じた対応をすることにより、児童生徒が学校での授業や友達とのコミュニケーションに適応することに大いに役立っている。 <p>○各種研修の実施や、酒田特別支援学校や福祉課発達支援室との連携により、各小・中学校や保護者との相談等のケースを多く設定し、丁寧な対応ができています。</p> <p>○学校と巡回相談員との連携がスムーズに進み、保護者との面談や担任への指導方法の助言が効果的に行われている。巡回指導の依頼が増えていることから、個別のニーズに沿った指導・支援を行うため巡回相談員の増員が望まれる。</p> <p>○日本語指導講師が児童生徒に寄り添った指導と、講師と学校の緊密な連携のおかげで、児童生徒が安心して学校生活を送ることができた。</p>			
点検結果・自己評価(今後の方向性)			
28年度評価	A	<p>○教育支援員は、学校の実態に配慮し配置を行った。児童生徒の状況に細やかに対応して支援を行い、教育効果が大きいと考えている。学校のニーズも非常に高い。</p> <p>○教育支援員の研修を充実させ、さらに資質能力の向上を高めていく。</p>	
【参考】27年度評価	A		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	2 確かな学力の向上		
施策	(5) 幼保、小、中、高の連携		
担当部署	学校教育課	平成28年度 担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園・保育園と小学校、小学校と中学校と高等学校が連携を図り、育ち・学びのつながりを重視した幼児・児童・生徒への指導・支援を行う。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園・保育園と小学校が連携し、保育や指導についての相互理解を深め、学びの連続性を考慮しながら卒園後の小学校教育及び生活への円滑な接続を図る。 ・小学校と中学校が連携し、各中学校区をまとまりとした教職員の相互研修会を実施することで、9年間を通したまなびのつながりを見据え、見通しを持って指導を行う。 ・中学校と高等学校が連携し、キャリア教育の視点に立った進路指導の充実を推進する。 			
平成28年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○「酒田っ子すくすく育成会議」（子育て支援課）の場で、幼保小の今後の連携のあり方について話し合った。</p> <p>○幼保小指導者研修会（子育て支援課）で、東北公益文科大学の國眼眞理子先生から、「幼保小連携における育ちや学びの相互理解と共通理解」について講話をいただいた。その後、「つながりに留意した接続期のカリキュラム」について演習シートを基に、生活する力・人と関わる力・学ぶ力に関する指導内容を話し合いながらまとめる活動にグループで取り組んだ。</p> <p>○幼保小の指導者相互職場体験研修（子育て支援課）において、幼保小の職員が互いの教育観、保育観を理解したり、子どもの様子を観察することができた。</p> <p>○「小中授業力向上研修会」で外部講師を招聘し、小中学校の教員を対象として算数・数学、英語の授業改善に向けた実践的な研修を行った。</p> <p>○「H28山形の未来をひらく教育推進事業」の中高教員相互派遣研修において、高校、中学校で英語の授業参観を行い、コミュニケーション能力を高めるための授業づくりについて研修を深めた。</p>			
平成28年度における改善点・新たな取り組み			
○園訪問では共通の視点を持って丁寧に情報共有することに努めた。			
事業の効果・課題			
<p>○「酒田っ子すくすく育成会議」では、これからの幼保小のスムーズな接続について話し合い、方向性を確認することができた。</p> <p>○幼保小指導者研修会では、グループ演習を取り入れ、接続期における指導内容について話し合い「接続期のプログラム」をまとめることができた。幼保小の先生方が、それぞれの子どもの見取り方を出し合い、さらに伸ばしていくために話し合うことができた。</p> <p>○幼保小の指導者相互職場体験研修では、子どもの発達段階を理解し、指導や保育に係る課題を共有化し、日常の実践につなげることができた。</p> <p>○小中授業力向上研修会を通して、算数・数学では推進校の提案授業を基に小中学校の校種を超えて学習指導要領が求める授業のあり方について理解を深めることができた。英語の研修会では意欲的に英語を使って話す・読む・聞く・書く活動が充実するための指導のあり方について研修できた。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
28年度評価	B	<p>○幼稚園、保育園と小学校が連携し、就学前後において子どもに関する情報換を行うことで学びの連続性が図られた。</p> <p>○中学校区ごとに、小中の連携をさらに推進し、義務教育終了を見据えながら社会を生き抜く基盤となる確かな学力を育成していく必要がある。各中学校区での小中一貫教育を検討していく。</p>	
【参考】27年度評価	B		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	3 豊かな心と健やかな体の育成		
施策	(1) 生徒指導等の充実		
担当部署	学校教育課	平成28年度 担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 健全な自尊感情と響き合うあたたかな心をはぐくむ生徒指導の充実を図る。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育指導（経営訪問、計画訪問、要請訪問）等を通して、心が通い合い、高め合う集団づくりを目指すと共に、一人ひとりの自尊感情を高め、自己実現につなげる。 			
平成28年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○学校教育指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育の重点に沿った各校の経営構想及び取り組みの重点を立案する際、児童生徒の自尊感情や所属感を高める指導、担任力（学習指導力、生徒指導力、特別支援教育力）の向上を大切にしよう指導した。 <p>○心が通い合い高め合う集団づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 酒田市生徒指導主事会議、小学校生活指導連絡協議会、中学校生徒指導連絡協議会において情報交換を行い、児童生徒の主体性を大切に児童会、生徒会活動の推進を指導した。 中学校生徒指導主事会を年2回開催し、各校の実態と取り組みを共有し合うことで、事故や問題行動の未然防止と適切な対応（生徒のつながりの広域化への留意等）につなげている。 教育相談事例研修会を中学校区単位で開催し、小中合同で児童生徒理解を深めている。事例をもとに話し合い、抱える課題の背景を探りながら、子どもを見る目を磨いている。 Q-U（楽しい学校生活を送るためのアンケート）により、学級における人間関係と一人ひとりの集団に対する思いを把握し、1回目と2回目の変容もふまえて指導に生かしている。 			
平成28年度における改善点・新たな取り組み			
<p>事業の効果・課題</p> <p>○特別支援教育への理解と校内体制整備が進み、一人ひとりに寄り添った支援が行われている。</p> <p>○学校行事、児童会・生徒会活動では児童生徒の主体性を生かした活動が展開されている。</p> <p>○丁寧なアンケート調査を複数回行うことで、早期発見に向けたアンテナが鋭くなっている。認知件数は増加しているものの、保護者と連携したすばやく適切な対応がなされてきている。</p> <p>○「全国学力学習状況調査」の「自分にはよいところがあると思うか」という質問項目では、「そう思う」及び「どちらかというと思う」の割合が中学校で全国平均を上回っている。小学校における自己肯定感・自尊感情も高めるべく、学校への指導と支援を進めていく。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
28年度評価	B	<p>○Q-U（楽しい学校生活を送るためのアンケート）の分析と結果考察により、全校体制で心が通い合い、高め合う集団づくりの構築を目指して取り組んでいる。</p> <p>○授業を通じた生徒指導を今後も意識し、全員参加を保証した「わかる授業」、自己有用感・自己存在感を感じられる授業づくりを進めていく。</p>	
【参考】27年度評価	B		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	3 豊かな心と健やかな体の育成		
施策	(2) いじめ防止に向けた取組みの推進		
担当部署	学校教育課	平成28年度 担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> すべての児童生徒が安心して学校生活を送り、さまざまな活動に取り組めるようにいじめ防止を推進する。 市、学校、地域住民、家庭、その他の関係者が連携し、いじめの問題を解決する。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> いじめ問題を学校のみならず、市民及び社会総がかりで進め、いじめの未然防止、早期発見、対応等をより実効的なものとなるように推進していく。 			
平成28年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○酒田市いじめ問題対策連絡協議会の開催（6月）</p> <p>○平成27年3月に制定された「酒田市いじめ防止対策の推進に関する条例」に基づきいじめ防止等の対策を総合的かつ効果的に推進するため「酒田市いじめ問題対策連絡協議会」を開催した。大きく「ネットいじめの防止」と「いじめの早期発見」の2つをテーマに各委員からご意見をいただき、酒田市の児童生徒のいじめの防止と対応について確認した。</p> <p>○酒田市いじめ問題対応委員会（継続）</p> <ul style="list-style-type: none"> 対応委員会は酒田市教育委員会が主体となって調査を行う場合における重大事態に係る事実関係に関する調査及び審議を行う組織である。 調査及び審議を行う必要のある重大事態が生じなかったため、委員会の開催はなかった。 <p>○中学校生徒会連絡協議会支援事業【予算現額90千円・支出済額90千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> 酒田市・遊佐町中学校生徒会連絡協議会の分科会で「いじめ撲滅」をテーマとした話し合いが行われた。各校の取り組みを紹介し合い、「よりよい人間関係をつくるための生徒会の活動」について協議し、今後の活動の手がかりを各校に持ち帰った。 <p>○児童生徒だけでなく保護者にもいじめアンケートを実施し、学校と家庭が連携して早期発見と適切な対応に取り組んだ。</p>			
平成28年度における改善点・新たな取り組み			
<p>事業の効果・課題</p> <p>○各校では丁寧なアンケート調査と面談を数回行っている。認知件数の総数は増加している。今後も未然防止、早期発見、適切な対応に努めていきたい。</p> <p>○いじめのない学校づくりに向け、授業、学級活動、児童会・生徒会活動で児童生徒の主体的な活動を充実させ、子ども同士が支え合い、相談しあえる関係を育てる活動が実践されている。</p> <p>○「酒田市いじめ問題対策連絡協議会」「酒田市いじめ問題対応委員会」の設置で、学校だけでなく地域、関係機関・団体の大人がいじめについて協議し、実際に対応できる体制を整えている。連絡協議会を通じて各団体の動きが互いに見え、連携や協働の意識が高まりつつある。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
28年度評価	B	<p>○各学校ではアンケート調査や面談など未然防止、早期発見に向けた取り組みを行い、初期段階でいじめを認知し、解消に向けて取り組んでいる。</p> <p>○国のいじめ防止基本方針改定を受け、市や学校においても未然防止、早期発見、適切な対応ができる基本方針の見直しを図り、学校・家庭・地域が一体となったいじめ防止の取り組みを今後も推進していく。</p>	
【参考】27年度評価	B		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	3 豊かな心と健やかな体の育成		
施策	(3) 道徳教育の充実		
担当部署	学校教育課	平成28年度 担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校の教育活動全体を通じた道徳性の向上並びに「公益の心」の涵養を目指し、道徳教育の充実を図る。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 心に響く資料を活用した、自己の生き方について考えを深める道徳授業の工夫を促す。 学校や地域で自分にできることを考え、実践することを通して「公益の心」を育む。 			
平成28年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○要請訪問を通じた授業づくりと授業改善に向けた指導・助言</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業研究会や道徳教育推進教員の情報交換会の中で、学校の重点や各学年の重点に沿った計画的な指導を行うように指導した。 道徳の教科化に向けて、児童生徒が主体的に取り組む「考える道徳」に向けた授業づくりを助言した。 <p>○地域教材の活用と地域貢献活動の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学生用「わたしたちのまち さかた」や中学生用「ジュニア版酒田の歴史（改訂版）」などの地域教材を活用して、先人の知恵と功績に学び、ふるさとへの理解と愛着を深めている。 小学校では多くの学校で地区ボランティアへの参加がなされており、中学校では地域貢献活動を企画立案の段階から自治会と協力し、中学生が主体となって行っている学校が増えている。 			
平成28年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○道徳教育の充実に向けた、地区内の統一した取り組みと実践の共有化並びに地区外への発信</p> <ul style="list-style-type: none"> 教材や資料の開発と活用、道徳教育の充実を目指した家庭や地域との連携等について、各小中学校における取り組みを重ね、東北地区小中学校道徳研究大会で授業の提案と実践の発表を行った。 			
事業の効果・課題			
<p>○子どもたちの主体的な取り組みを促し、考え、議論・討論する道徳授業づくりが進んでいる。</p> <p>○公益の心の涵養につながる勤労奉仕的体験活動及び社会奉仕活動が、多くの学校で実施されており、事前事後に関連した道徳授業を行うことで体験的な学びが深められている。</p> <p>○「全国学力学習状況調査」の「地域とのつながり」に関する質問項目でも、肯定的な回答が小中共に全国平均を上回っていた。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
28年度評価	A	<p>○各学校での道徳教育に加え、飽海地区、市内の学校で授業公開を行い、「考え、議論・討論する」道徳の授業づくりを推進している。</p> <p>○地区全体で道徳の授業改善・道徳教育の充実を図ってきた実践の積み重ね、教職員の意識向上といった大会の成果を一過性のものにせず、今後も児童生徒の「道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度」の育成に向けて、各学校における日常の取り組みに還元していく。</p>	
【参考】27年度評価	A	<p>○今後も、道徳の授業のあり方、教科書の有効的な活用のしかたについて研修していく必要がある。</p>	

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	3 豊かな心と健やかな体の育成		
施策	(4) 体験活動、交流活動の推進 (その1)		
担当部署	学校教育課、社会教育文化課	平成28年度 担当部署	学校教育課、社会教育文化課

施策の目的及び目標

○目的

- ・日本国内の異なった地域の文化に触れる機会を与えることで、自分の育った地域のよさの再認識を図るとともに、自主性や協調性を養い、生きる力を育む。
- ・学校を超えた異年齢の子ども達の協同した体験活動を通して、心豊かな人間性と自立心を育み、仲間づくりとリーダーの育成を図る。
- ・事業に参加した子どもたちの自主性と協調性を養い、それぞれの学校、地域、家庭において積極的に物事に取り組んでいける子どもを育む。

○目標

- ・体験活動や交流活動を通し、人や自然とのかかわりの中で思いやりの心と健やかな体を育み、自然の営みへの感謝の心の育成を図る。

算出方法		H26	H27	H28	H31
交流活動参加児童の満足度 (アンケートによる)	飛島いきいき体験スクール	100%	96%	98%	100%
	自然体験学習	92%	92%	92%	100%
	少年の翼	100%	100%	100%	100%

平成28年度 主な事業の概要及び実施状況

- 飛島いきいき体験スクール支援事業【予算現額775千円・支出済額760千円】
 - ・2小学校、児童114名参加 (H27: 3校114名、H26: 4校215名、H25: 6校328名)
- 自然体験学習推進事業【予算現額2,206千円・支出済額2,184千円】
 - ・10小学校、児童501名参加 (H27: 11校554名、H26: 8校408名、H25: 7校367名)
- 少年の翼交流事業【予算現額3,572千円・支出済額2,989千円】
 - ・沖縄訪問: 12月11日(日)～15日(木) 5年生20名、6年生12名、受け入れ: 今帰仁小学校
 - ・受け入れ: 2月6日(月)～9日(木) 今帰仁村 6年生35名、交流担当校: 鳥海小学校
- 「酒田っ子ミステリーバスツアー」
 - ・7月29日開催、参加者36名、夏休みの1日を使い学校や家庭を離れ団体行動をすることで生きる力を養った。また、地元の良いところや企業を見学し、郷土愛を醸成した。
- 「冬遊びお泊まり会」
 - ・2月18日～19日開催、参加者26名、ボランティア5名、外遊びや調理実習等で集団行動を行った。高校生が小学生の面倒をみる経験をとおり成長することができた。

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	3 豊かな心と健やかな体の育成		
施策	(4) 体験活動、交流活動の推進 (その2)		
担当部署	学校教育課、社会教育文化課	平成28年度 担当部署	学校教育課、社会教育文化課
平成28年度における改善点・新たな取り組み			
<ul style="list-style-type: none"> ○自然体験学習推進事業 <ul style="list-style-type: none"> ・雨天プログラムに係る費用について、実際に使用した分だけ学校が負担するようにした。(以前は雨天時に備えて事前に学校で購入していた。) ○「酒田っ子ミステリーバスツアー」では、庄内空港の滑走路を歩き、本間美術館でうぐいす笛を作った。普段経験できないことを体験させたいという思いで企画をした。 ○「冬あそびお泊まり会」では屋外での雪遊びのほか、携帯用ゲーム機で遊ぶ機会の多い子ども達に対して、昔から親しまれているボードゲームを教え、複数の友達と楽しく遊んだ。外国人の先生がルール説明や進行を行いネイティブスピーカーとの交流も行った。 			
事業の効果・課題			
<ul style="list-style-type: none"> ○離島の自然・歴史・文化等について学び、島民と触れ合うことを通して、飛島のよさについて児童自ら考えるとともに、自然や人とのかかわりの大切さを実感することができた。 ○本市の鳥海高原を利用した体験活動を行うことで、自然に触れ合うことの素晴らしさ、酒田の自然の美しさを実感することができた。また、仲間やボランティアスタッフとのふれあいを通して、人とのかかわりの大切さを学ぶことができた。 ○少年の翼については、体験後の「報告会」と「記録集」によって、交流を通じた相互理解と友好が図られたかについて振り返る機会をつくることができた。アンケートによる満足度の把握と合わせて、児童の成長につなげたい。 ○修学旅行の時期と重なり、航空機の確保が難しかった。今後も航空機の確保には課題が残る。 ○「酒田っ子ミステリーバスツアー」では庄内空港、酒田米菓、東北公益文科大、本間美術館などを見学し、地元企業見学を取り入れることで職業観を養い、ふるさと学習も行った。 ○「冬あそびお泊まり会」では、冬遊びの野外活動や調理実習、布団敷きや入浴、掃除などの集団行動に加え、ボードゲームは事業終了後も友達と一緒に遊びたいとの感想が得られた。ボランティアの中高生が、主体的に子どもをサポートすることができた。 			
点検結果・自己評価 (今後の方向性)			
28年度評価	A	<ul style="list-style-type: none"> ○飛島、鳥海山の自然に触れることは、子どもたちのたくましい成長につながっている。今後、ジオガイド、ジオ資料の活用などプログラムの見直しや予測される様々な危険に対応できるよう安全対策、環境整備を行っていく。 ○少年の翼では、沖縄の小学生との交流を通して互いの地域を理解し合うことができた。 ○子ども達が自然の中で遊び、自分たちで食事の準備をし、中高生ボランティアや学校、学年の違う児童と2日間過ごしとても良い経験をしている。 ○民間団体や県の自然体験事業などが増えていることから、平成25年度よりチャレンジ冒険団を休止した。平成26年度から実施した冬あそびお泊まり会や、酒田っ子ミステリーツアーでは参加者も多く集まり、ニーズがあることを確認した。今後はミステリーバスツアーの代わりに、飛島をフィールドにしたミステリージオツアーを実施してく。 	
【参考】27年度評価	A		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	3 豊かな心と健やかな体の育成		
施策	(5) ふるさと教育の推進 (その1)		
担当部署	学校教育課、社会教育文化課	平成28年度 担当部署	学校教育課、社会教育文化課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域を理解し、ふるさと（地域）への愛着を育む。 ・これからを担う子どもたちが、現代社会を生き抜くうえで確かな力、身に付けなければならない基本的な知識の習得や職業観の醸成、コミュニケーション能力の向上に加え、郷土愛の醸成を図ることを目的として実施する。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域で活躍している方々との交流や地域の歴史や文化等を学ぶことで地域理解し、ふるさと（地域）への愛着を持つ児童生徒の育成を図る。 ・鳥海山と飛島の自然に触れ、その成り立ちや生態系、人々の暮らしについての学習を推進する。 ・地域の職場での体験活動や地域の方々をゲストティーチャーとして招いての講演会の実施など、地域の特色や資源を活かして教育活動を推進する。 ・開催小中学校の拡大。 			

平成28年度 主な事業の概要及び実施状況				
<p>○副読本「わたしたちのまちさかた」の編集と授業での取り組み 【予算現額3,036千円・支出済額2,913千円】（社会科副読本編集事業）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校3・4年社会科で使用する副読本「わたしたちのまちさかた」をもとに、地域産業、地理的環境、地域発展に尽くした先人の働きなどについて学習し、「ふるさと酒田」に対する誇りと愛着を育てる学習に取り組んだ。 <p>○総合的な学習で「ふるさと酒田」の良さを発見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間で地域文化、産業、歴史、人との関わりなどについて学習し「ふるさと酒田」の良さを発見する学習に取り組んだ。 ・飛島いきいき体験スクール支援事業では、子どもたちが飛島ならではの自然・歴史・文化等について島民と触れ合いながら学び、郷土を愛し、大切にしようとする心を育む体験ができた。 ・自然体験学習推進事業では、生まれ育った酒田の自然を体験し、鳥海山の雄大さに触れるとともに、仲間と協力して活動する力の育成を目指して活動を行った。 <p>○酒田っ子はぐくみ事業 実施回数9、延べ参加者数913人</p>				
マナーを身につけよう： 佐藤万里子氏	第一中学校	2学年148人	6月22日（水）	14：35～15：25
キャリア教育： 國眼眞理子氏	第一中学校	2学年148人	5月10日（火）	13：40～15：00
音楽でコミュニケーション： 鍋谷志麻氏	鳥海小学校	2学年24人	6月10日（金）	10：40～11：25
	松原小学校	2学年96人	9月29日（木）	9：30～10：15
	西荒瀬小学校	1・2学年37人	12月16日（金）	10：45～11：30
モシエノ大學出前： 松浦祐治氏	第六中学校	1学年126人	6月9日（木）	13：40～15：10
	第六中学校	2学年152人	7月8日（金）	13：40～15：10
	第六中学校	3学年141人	9月28日（水）	13：40～15：10
各校選択方式： 東海林正樹氏	南平田小学校	6学年41人	3月3日（金）	10：40～11：25

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	3 豊かな心と健やかな体の育成		
施策	(5) ふるさと教育の推進 (その2)		
担当部署	学校教育課、社会教育文化課	平成28年度 担当部署	学校教育課、社会教育文化課
平成28年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○社会科副読本においては、随時、新しい情報や資料を掲載し、改訂版を発行した。また、「指導の手引き」についても、特徴的な農家や工場等の写真資料について見直しを行った。</p> <p>○職員及び社会教育指導員で分担し、各学校に事業説明のための訪問を行った。</p> <p>○「酒田っ子はぐくみ事業」で、地域の若者が運営する職業講話「モシエノ大學」の出前を追加した。地元で前向きに働く若者がどのような子ども時代や学生時代を過ごし、社会に出てから様々な選択を経て、現在地元で充実した生活を送っていることなどを司会とのトーク形式で映像も交えながら語っていただいた。</p>			
事業の効果・課題			
<p>○各学校では、地域の方との交流を継続的に行っている。地域の先生、読み聞かせ、地域を題材にした学習、発表など工夫を凝らして取り組んでいる。</p> <p>○将来の仕事について、一步踏み込んで考える機会を提供することができた。</p> <p>○モシエノ大學出前の追加で今までにない職業講話を提供することができ、好評であった。</p> <p>○キャリア教育を担当されていた東北公益文科大学の國眼教授が退職されたため、キャリア教育のメニューについて新たな講師を大学と相談している。</p> <p>○施策の目的が達成されるように「酒田っ子はぐくみ事業」の講師やメニューの充実が課題。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
28年度評価	B	<p>○社会科、総合的な学習の時間などを通して地域への愛着や誇りを継続的に育てていく。</p> <p>○社会科副読本においては、平成32年度の新学習指導要領実施に向けて3か年計画で、学習指導要領に対応した副読本の編集を進めていく。（可能な範囲で3か年同じ編集委員に委嘱していく。）</p> <p>○鳥海山・飛島ジオパーク構想に関連する学習活動の教材開発等を検討していく。</p>	
【参考】27年度評価	B	<p>○中学生の職業体験の事前学習に活用されるケースが多いが、子どもの自立をはぐくむことと郷土愛の醸成という二つの目的があり、要望等も確認しながらねらいを明確にして事業に実施に組みたい。</p> <p>○学校のニーズにあったメニューを提供し、講師の充実に努めながら継続をしていく。</p>	

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ				
基本施策	3 豊かな心と健やかな体の育成				
施策	(6) 相談支援体制の充実				
担当部署	学校教育課	平成28年度 担当部署	学校教育課		
施策の目的及び目標					
○目的					
・いじめや不登校等としてあらわれてくる児童生徒の心の問題について、学校内外で相談できる環境整備を行い、児童生徒の心身の健全育成を図る。					
○目標					
算出方法		H26	H27	H28	H31
不登校児童生徒の割合（全児童生徒に対する出現率）	小	16人0.3%	15人0.29%	13人0.30%	5人0.1%未満
	中	52人1.76%	57人1.95%	90人3.12%	40人1.3%未満
平成28年度 主な事業の概要及び実施状況					
○教育相談充実事業【予算現額8,593千円・支出済額8,167千円】					
・教育相談室での来室・電話相談を実施（平成28年度288件（新規76件）平成27年度176件（新規64件））、不登校児童生徒の保護者研修会を3回実施した。					
・教育相談研修講座を3回実施、各校教育相談担当者の資質向上のための研修を4回実施した。					
・適応指導教室では、不登校児童生徒の集団適応能力を育成し学校への復帰を目指すような支援を行い、高校に進学（中3、6名）することができた。（小学生1名、中学生13名通級）					
○スクールカウンセラー等活用事業【予算現額9,973千円・支出済額8,042千円】					
・県の事業と合わせながら、スクールカウンセラー8名と教育相談員7名を各中学校に配置するとともに、3名の家庭訪問相談員を要請に応じて派遣した。					
平成28年度における改善点・新たな取り組み					
○拡大木曜の会（市の教育相談専門員と特別支援教育巡回相談員との連絡会）を年2回実施し、小中一貫した支援の在り方について情報交換した。					
○スーパーバイザー研修会に教育相談担当者だけでなく、希望する教員にも出席してもらうよう呼びかけた。					
事業の効果・課題					
○本市の教育相談の課題に対応した各種研修会を実施することで、教員の日々の指導に生かすことができた。					
○適応指導教室（ふれあい教室）での日常活動や体験活動を通じ、他の通級生や相談専門員・講師と安心して関わることができるようになり、自信を取り戻せた児童生徒が多かった。さらに学校に復帰したり、不定期ではあるが登校したりできるようになった。					
○発達障がい起因する不登校も増加していることから、拡大木曜の会での情報交換がとても有効だった。さらに、発達に関する専門医からの教育相談研修講座も行っていく。					
○毎月の長期欠席調査から、事態が重くなってからの教育相談ではなく、早期対応を心掛けていく。					
点検結果・自己評価（今後の方向性）					
28年度評価	B	○不登校児童生徒数は小学校で横ばい、中学校で増加している。各学校の教育相談の組織を活かして相談活動を行い、スクールカウンセラーや相談員等との連携が進んでいる一方で、思春期特有の心情から複雑な要因が絡み合い学校に足が向かない生徒が増えていることも事実である。			
【参考】27年度評価	B	○迅速な対応ができるよう教職員の力量を高めていくとともに、課題に対応した研修やQ-U等の活用も図りながら未然防止にも全力をあげていく。			
		○各相談機関と学校との連携がスムーズにいくようにコーディネートするとともに、その後の経過についても確認していく。			

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ				
基本施策	3 豊かな心と健やかな体の育成				
施策	(7) 基礎的運動能力の向上				
担当部署	学校教育課	平成28年度 担当部署	学校教育課		
施策の目的及び目標					
○目的					
・基礎的運動能力向上のための指導内容の充実を図り、児童生徒が、運動の楽しさや喜びを体感しながら、体力・運動能力を高めることができるようにする。					
○目標					
・小学校中学年の「走・跳・投の運動」を中心とした指導内容の充実を図り、基礎体力向上に向けた取組みを支援する。					
算出方法		H26	H27	H28	H31
小学校3年生の 50m走の平均	男子	10.13秒	10.20秒	10.46秒	10.11秒
	女子	10.39秒	10.45秒	10.54秒	10.45秒
小学校5年生の 50m走の平均	男子	9.44秒	9.45秒	9.54秒	9.26秒
	女子	9.70秒	9.54秒	9.63秒	9.55秒
中学校2年生の 50m走の平均	男子	8.14秒	8.07秒	8.07秒	7.85秒
	女子	9.11秒	8.88秒	8.78秒	8.75秒
・希望する中学校（中学1・2年生対象）に、柔道の授業を専門的な立場から支援する指導協力者を派遣し、授業の支援または教員の研修を行い、安全で充実したものにする。					
平成28年度 主な事業の概要及び実施状況					
○小中学校スポーツ振興事業【予算現額1,016千円・支出済額936千円】					
・市内全小学校の参加による陸上競技記録会及び水泳競技記録会を開催した。 （参加者：陸上競技記録会 441名、水泳競技記録会 381名）					
・陸上指導サポーター派遣 希望のあった小学校15校に講師を派遣し、3、4年の児童を対象に、年間3回「走・跳・投」に関連する運動を実際に行うとともに、教員に指導内容を周知し指導に生かす。					
・中学校武道指導協力者派遣 希望のあった中学校に指導協力者を派遣し、専門的な立場から支援することができた。 （派遣校数 2校、指導時数 22時間、派遣人数 2名）					
平成28年度における改善点・新たな取り組み					
○実際に指導を受けた教員だけでなく、指導後に校内研修会を実施して、他の学年の教員の指導力向上に向けて取り組んだ学校もあった。					
事業の効果・課題					
○陸上指導サポーター派遣事業を通して、中学年担当教員に、3・4年生で経験させたい「走・跳・投に関連する運動例」について、児童への指導も踏まえ周知を進め指導に生かすことができた。					
○陸上競技記録会や水泳競技記録会への参加を通して、記録への挑戦やチャレンジする意欲を高めるとともに、自己記録を目指し大会に向けて努力する気持ちを育成することができた。					
○柔道の指導協力者を派遣したことにより、安全に配慮しながら授業を進めることができた。示範していただくことで、技をかける際のポイントや指導する際の具体的な練習方法を研修することができた。					
点検結果・自己評価（今後の方向性）					
28年度 評価	B	○陸上指導サポーター、中学校武道指導者の派遣は、小・中学校のニーズに応じて派遣を行い、教員の指導力向上に生かすことができた。			
【参考】 27年度 評価	B	○運動能力テストの結果、小学校5年生女子、中学校2年生男子・女子に伸びは見られたが、他学年、50m走以外の種目でも体力向上が図られるように取り組んでいく。			

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ				
基本施策	3 豊かな心と健やかな体の育成				
施策	(8) 健康教育の推進				
担当部署	学校教育課	平成28年度 担当部署	学校教育課		
施策の目的及び目標					
○目的					
・健やかでたくましい体を育む指導を通して、健康的な生活行動が実践できる態度や能力を身につけるための教育活動を推進する。					
○目標					
・自己の健康課題をとらえ、日常生活での具体的実践に結びつく保健学習の充実を図る。					
・自校の健康課題を家庭、地域の関係機関と共有し、解決のための取り組みを推進する。					
算出方法		26年度 実績	27年度 実績	28年度 実績	31年度 目標
全国学力・学習状況調査「朝食を毎日食べていますか」の回答による		小6 91.1%	小6 90.5%	小6 86.9%	小6 95%以上
		中3 84.7%	中3 85.5%	中3 84.4%	中3 95%以上
平成28年度 主な事業の概要及び実施状況					
○小学校保健管理事業【予算現額51,411千円・支出済額50,344千円】					
○中学校保健管理事業【予算現額20,041千円・支出済額19,496千円】					
○年間指導計画に基づいた保健学習の充実					
・心身の健康の保持増進を目指す実践力の育成のため、年間計画に基づいた保健学習を適切に行うよう指導した。					
○学校保健委員会の推進					
・学校保健委員会等を中心に、児童生徒の健康に関する生活習慣の実態調査等を行い、問題点の洗い出しや改善方策について検討するように指導した。					
○酒田飽海児童生徒保健研究発表会の実施					
・児童や生徒主体の取り組みを発表し、お互いに見合うことで、健康に対する意識を高めたり自校の取組みを振り返らせたりすることができた。					
・発表内容をDVDにまとめて各小・中学校に送付した。他校の取り組みを知らせることで、自校の取組みに生かせるようにした。					
・平成28年度発表校（酒田市） 琢成小、亀ヶ崎小、第四中、第六中、鳥海八幡中					
○学校医等による専門的な指導・助言のもと疾病の予防や健康相談を通して児童生徒の健康管理を行った。					
平成28年度における改善点・新たな取り組み					
事業の効果・課題					
○自校の健康課題についての取組みを児童生徒が主体的にまとめて発表する活動を通して、心身の健康の保持増進を目指す実践力を育てることにつながっている。 （メディアコントロール、食育、う歯・風邪予防、生活リズム）					
○学校保健委員会やPTAの活動として、「早寝早起き朝ごはん」等の生活リズムを目的にした取組みやアウトメディアなどが多くの学校で行われるようになった。					
○校医とも連携し、うがい、手洗いの励行など、感染症予防の取組みやアレルギー対策の取組みが、多くの学校で行われた。					
○保健学習などにおいても、ゲストティーチャーを招聘して、より専門的な学習に取り組む学校もあった。計画的な保健学習を行うことで、生涯にわたる健康の保持を意識することができた。					
点検結果・自己評価（今後の方向性）					
28年度 評価	B	○学校教育指導（経営訪問、計画訪問）を通して継続的に健康教育の推進を図っている。また、児童生徒保健研究発表会での発表内容や日頃の児童生徒の保健活動の様子を各学校へ広める活動を行っている。			
【参考】27年度 評価	B	○がん、ドラッグ、アレルギー、感染症、生活リズム、睡眠など疾病や健康に関する今日的な課題に、予防も含め総合的に指導し対応していく必要がある。			

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ																					
基本施策	3 豊かな心と健やかな体の育成																					
施策	(9) 食育の推進																					
担当部署	企画管理課	平成28年度 担当部署		企画管理課																		
施策の目的及び目標																						
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒に食に関する正しい知識や望ましい食習慣を身につけさせるとともに、自然の恵みや生産者への感謝の心をはぐくむ。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元産食材を積極的に学校給食に取り入れるために、学校給食での地元産食材の利用率の目標を、小学校75%以上、中学校72%以上とする。 																						
平成28年度 主な事業の概要及び実施状況																						
<p>○週5日、庄内産100%の米を利用した米飯学校給食を実施しているが、平成28年度は年12回「つや姫給食」を実施した。</p> <p>○酒田の郷土料理や旬の食材を伝えるため、「食育の日献立」を実施した。(毎月19日)</p> <p>○栄養教諭等による巡回指導を実施した。(指導回数83回)</p> <p>○毎月「給食だより」を発行し、食材の情報提供を行った。</p> <p>○保護者に対し、栄養教諭等が食に関する講話(3回)を実施したり、「食育だより」を発行(10回)した。</p> <p>○「鳥海山・飛島ジオパーク」が日本ジオパーク認定を受けたことから、大地の恵みをいただいていることを伝えるため、「ジオ給食通信」を年4回発行した。</p> <p>○酒田産米を100%使用した「米粉パン」給食を全小中学校で各2回実施した。</p> <p>○酒田産乳使用の「県産ヨーグルト」給食を1月に実施した。</p> <p>○バレーボールチーム「アランマーレ」による食育活動を、小学校3校で実施した。</p> <p>○地元産食材の利用率</p> <table border="1" data-bbox="502 1059 1436 1171"> <thead> <tr> <th></th> <th>H26(実績)</th> <th>H27(実績)</th> <th>H28(実績)</th> <th>H31(目標)</th> <th>算出方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校</td> <td>73.1%</td> <td>77.7%</td> <td>75.0%</td> <td>75%以上</td> <td rowspan="2">重量ベースによる庄内産食材の利用率</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>71.5%</td> <td>71.6%</td> <td>66.7%</td> <td>72%以上</td> </tr> </tbody> </table>							H26(実績)	H27(実績)	H28(実績)	H31(目標)	算出方法	小学校	73.1%	77.7%	75.0%	75%以上	重量ベースによる庄内産食材の利用率	中学校	71.5%	71.6%	66.7%	72%以上
	H26(実績)	H27(実績)	H28(実績)	H31(目標)	算出方法																	
小学校	73.1%	77.7%	75.0%	75%以上	重量ベースによる庄内産食材の利用率																	
中学校	71.5%	71.6%	66.7%	72%以上																		
平成28年度における改善点・新たな取り組み																						
<p>○地元産食材の利用拡大のため、酒田産米100%使用した「米粉パン」給食について、平成27年度は全小中学校で各1回実施したが、平成28年度は全小中学校で各2回実施した。</p> <p>○「鳥海山・飛島ジオパーク」が日本ジオパーク認定を受けたことから、大地の恵みをいただいていることを伝えるため、「ジオ給食通信」を年4回発行した。</p> <p>○バレーボールチーム「アランマーレ」による食育活動を、小学校3校で実施した。</p>																						
事業の効果・課題																						
<p>○米飯給食、食育の日献立等の実施を通して、酒田らしい給食を提供することができた。</p> <p>○栄養教諭等が食と健康についての巡回指導を行い、児童生徒の食に対する興味、理解を深めることができた。</p> <p>○講話や「食育だより」等の発行により、家庭に対して食の大切さを伝えることができた。</p> <p>○安全安心な給食の提供を最優先として、食材の安全性を確認するとともに衛生管理の徹底を図っていく。また、農産加工品等も含め、幅広く地元産食材の利用拡大を進めていく。</p>																						
点検結果・自己評価(今後の方向性)																						
28年度評価	B	<p>○学校給食は、学びや運動の基礎となる健康づくりや給食ができるまでの社会の仕組みを教える等、生きた教材として活用されている。また、児童生徒への意識付けをし、家庭で実践をしてもらうため、栄養教諭等による子どもたちへの指導、保護者に対する食育指導にも取り組んでいる。これらの継続した取り組みが、将来自立した健康管理、食事管理ができる大人になることにつながるものと期待される。</p>																				
【参考】27年度評価	A	<p>○学校給食では、情報収集をしながら旬の地元産野菜の利用につなげているが、天候不順等により収穫時期がずれたり、入手できない野菜等があるため、その年ごとの変動が大きくなる。平成26年度からは「米粉パン給食」「県産ヨーグルト給食」など野菜以外の地元産食材を利用した給食を実施しており、地元産食材として農産加工品等も含めた利用拡大を図り、一層の地産地消を進めていく。</p>																				

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	4 家庭・学校・地域との連携		
施策	(1) 青少年の健全育成		
担当部署	社会教育文化課	平成28年度 担当部署	社会教育文化課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青少年の健全育成のため、学校、PTA、地域が協同した、青少年の健全育成のための場とライフステージに応じた学習機会の提供に支援するとともに、リーダーや指導者を育成する研修会の実施、中高生ボランティアの自主活動の支援を実施する。また、成人となったことの自覚を促す成人式を開催する。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校、PTA、地域が協同して行う学習機会の充実を図る。また、青少年のボランティア活動を推進し、中高生の地域活動への促進を図るとともに地域のリーダー育成につなげる。 			
平成28年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○少年団体リーダー研修会 参加者数81名</p> <p>○高校生ボランティア（かざみどり）が巨大迷路の運営プランに参画し、市内の高校ボランティア部や中学生ボランティアと協力しながら当日までの準備と運営を行った。（入場者7,379人）</p> <p>○成人式は、立候補者及び地域からの推薦メンバーで実行委員会を組織し（実行委員14人）、式の企画運営を行った。（式出席者906人）</p> <p>関連事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域人材交流講座 ○地域の教育力向上事業 			
平成28年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○少年団体リーダー研修会に中学生ボランティア（SUN）が、赤い羽根共同募金活動に高校生ボランティア（かざみどり）が初めて参加した。</p> <p>○成人式実行委員は自分たちで企画をして、動画に市長から出演いただいたり、式典で市マスコットキャラクター「あののん」と共演したりして、自分たちの企画を実現させる経験ができた。</p>			
事業の効果・課題			
<p>○中高生ボランティアが中央公民館主催事業「冬遊びお泊り会」に参加し、社会参画できたとともに、参加した小学生とのかかわりを通じ、異年齢間の交流が図られた。また、巨大迷路の運営を行ったことで、イベント企画に必要なことを学び、一緒に活動した仲間との交流も図られるなど青少年の人材育成につながった。</p> <p>○成人式は、実行委員となった新成人が協力して動画を作り交流を深めることができた。しかし、実行委員の人数が少なくなり実行委員一人一人の負担が増えている。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
28年度評価	B	<p>○前年に比べ、かざみどりの会員数が少なくなった。このため、各支所地域の中高生ボランティアとかざみどりが一体となって活動する機会が増え交流を図ることができた面もあるが、今後はかざみどりの会員募集に努め、かざみどりとしての活動の充実を図りたい。</p> <p>○成人式の式典と実行委員企画の間に、酒田詩の朗読会を招き吉野弘の詩を映像とともに朗読していただき、新成人に酒田市出身の詩人として吉野弘を周知する機会を提供できた。</p>	
【参考】27年度評価	A		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	4 家庭・学校・地域との連携		
施策	(2) 家庭教育の支援		
担当部署	社会教育文化課	平成28年度 担当部署	社会教育文化課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者の学びを支援するため、子どもの成長に応じた課題を設定しながら、読み聞かせや親子のふれあいの大切さなどに関する各種家庭教育講座や出前講座、全市的な家庭教育講演会等を実施する。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 切れ目のない家庭教育支援の充実のため、庁内各課との事業連携・調整を図りながら学習機会の充実を図る。 子どもは、「社会の宝」として親と子の学校・地域のつながりを作る取り組みを推進するとともに、子どもの成長段階に応じた学習と親の学びを支援する学習の機会を提供し、切れ目のない家庭教育に関する学習機会を充実させることで、家庭の教育力向上を図る。 			
平成28年度 主な事業の概要及び実施状況			
事業名	講座内容及び実施状況	実施回数	人数
みんなで遊ぼう「さんさん学級」 (未就学児と保護者)	就園前の親子の触れ合いを推進するとともに、集団行動を学ぶ機会を提供した。また、収穫体験では地域の方々との交流も図ることができた。(親子リトミック、陶芸、収穫体験、パステルアート、クリスマス会)	6回	142
親子ですくすく出前講座 (保育園・幼稚園児と保護者)	親子体験・幼児体験を通して親子でのふれあい、遊びを通じた人間形成の基礎を培った(ネイチャー、リトミック、陶芸、ダンス、積木)。また、保護者向けに子育て講話を通して家庭教育の支援を行った。	20回	987
地域家庭教育講座 (小中学校児童と保護者)	学校と連携し、家庭教育に係る講演会等(生活習慣・親の心構えと関わり方、親子レク等)実施した。	18校実施 22回	1,353
もっと仲良くなるう「パパと一緒に」	父親の育児参加を支援し、親としての成長を促す(フットサル、収穫体験等)。	4回	100
かんたん!かわいい! 巻き寿司つくっちゃお♪	巻き寿司作りを通して、食の大切さを学ぶとともに、親子で協力して調理を行った。	2回	25
家庭教育講演会	「日本の未来は庄内から～慶應先端研の新・英才教育」と題し慶應義塾大学先端生命科学研究所 所長富田勝氏の子育てを含めた講演をPTA連合会と連携して実施。	1回	224
ステキな子育て応援団☆ イマドキの孫育て講座	昔と今の子育ての違いなど、グループワーク形式による講義と手づくりおもちゃ、読み聞かせ、お菓子づくりなどの実践を取り入れた。参加者同士の交流の場を提供することができた。	4回	23
平成28年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○幼児対象の講座や事業について、子育て支援課(子育て支援センター)と類似するものを確認し、就園前の幼児についての事業を主に子育て支援課で手厚く実施し、社会教育文化課では、就園後の幼児に対しての幼稚園、保育園等への出前講座や親子講座を主に実施していくよう整理を行った。</p>			
事業の効果・課題			
<p>○酒田飽海地区のPTA連合会の研修会に「日本の未来は庄内から～慶應先端研の新・英才教育」と題し慶應義塾大学先端生命科学研究所 所長富田勝氏の子育てを含めた講演をしていただき効果的な手法で多くの保護者に貴重な講演を聞いてもらうことができた。</p> <p>○保育園・幼稚園・学校での実施は、保護者がより参加しやすいため効果的である。今後も各部署との連携を図りながら実施する。</p>			
点検結果・自己評価(今後の方向性)			
28年度 評価	A	<p>○幼児を子育てしている母親の交流が図られ、日頃の悩みなどを共有できる場を持つことができた。</p> <p>○育児中母子だけの環境から事業に参加することで、体験活動で息抜きができたなどの感想が寄せられた。</p>	
【参考】 27年度 評価	B	<p>○多くの保護者に家庭教育の支援ができるよう、今後もPTA連合会等と連携しながら学習の機会を提供していく。</p> <p>○孫育て講座など内容は充実しているが、参加者の少ない講座については、健康課や関連団体にもお願いし、参加者を増やす方を工夫していきたい。</p>	

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	4 家庭・学校・地域との連携		
施策	(3) 地域教育力の向上		
担当部署	社会教育文化課	平成28年度 担当部署	社会教育文化課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域全体で「地域の子」「社会の子」として、子どもと地域の人々との交流する機会を設け地域の教育力向上に取り組む。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の特色を生かして行う青少年の体験活動や健全育成に関わる事業を通して、地域全体で取り組む体制づくりと地域の人材育成を推進し、地域教育力の向上を図る。 			
平成28年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○地域の教育力向上事業【予算はひとづくり・まちづくり総合交付金へ統合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親子での共同作業や三世代交流事業、地域文化の学習と伝承、地域の自然理解などの事業を通し、地域全体で「地域の子」「社会の子」として子どもたちの健全な育成を図った。 (実施団体：25団体、延べ事業数：157事業、延べ参加人数：14,241人) <p>○地域人材交流講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合の授業や、道徳、読み聞かせなどで地域住民が先生として指導を行い、身近な地域住民と生徒の交流が図られた。(実施日数275、延べ参加者数5,761人) 			
平成28年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○地域の教育力向上事業が交付金化されコミュニティ振興会の事務軽減が図られたとともに新たな事業への取組みを後押しするため、予算編成も自由度が高く、使いやすくなった。</p>			
事業の効果・課題			
<p>○地域人材交流講座では、各校で「地域の先生」と連携をしながら、全市的に事業を展開できている。総合の授業などに活用してもらい地域の学校支援に役立っている。</p> <p>○地域の教育力向上事業は交付金の加算として含まれ、コミュニティ振興会でも予算の使い方の幅が広がり新しい事業なども検討し始めている。より効果的な事業展開ができるよう、社会教育指導員も企画に関わっていけるような関係の構築が課題。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
28年度評価	A	<p>○自発的、積極的に地域の特色をだしながら教育力向上につながる事業を各コミ振で実施しており、企画運営のスキルアップがみられる。</p> <p>○地域の教育力向上事業委託料が、ひとづくり・まちづくり総合交付金に統合され、平成28年度から交付手続き等はまちづくり推進課が担当しているが、地域の活性化、地域の教育力の向上は生涯学習推進計画の柱であり、これまでと同様にコミュニティ振興会の訪問を行い、青少年と地域との交流推進を支援していく。</p>	
【参考】27年度評価	A		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	4 家庭・学校・地域との連携		
施策	(4) 地域産業界、高等教育機関との連携		
担当部署	学校教育課	平成28年度 担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の職業観の涵養や地域の理解、専門的な分野の体験のため地域の産業界や高等教育機関との連携を推進する。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校の職場体験学習（インターンシップ）の充実を図り、キャリア教育を推進する。 ・中村ものづくり事業の活動を通して、地域の高等教育機関、産業界との連携を推進する。 			
平成28年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○中学生職場体験学習推進事業【予算現額900千円・支出済額828千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場体験は該当学年のいる7中学校において、2日間実施が3校、3日間実施が4校、延べ37業種であった。 <p>○中村ものづくり事業における連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師として、産業技術短期大学庄内校、鶴岡工業高等専門学校、酒田光陵高等学校の教授、准教授、教諭及び産業技術大学や酒田光陵高等学校の学生ボランティアの協力を得て事業を実施した。 ・地元の企業への職場訪問を通して、専門的なものづくりの現場を体験した。 			
平成28年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○中村ものづくり事業における連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「サイエンス発明教室」で、今年度も5つのコースを設定し、幅広い選択肢を確保した。 ・「ものづくり塾」では、2つのタイプのロボット製作に取り組み、成果の発表の場として10月のさかた産業フェアに出展し、一般市民の方々に披露することができた。 ・「ものづくり出前授業」では、小学校向けに加えて中学校向けの2コースを設定した。 			
事業の効果・課題			
<p>○中学生職場体験学習推進事業では、市内中学校で2日間以上の職場体験学習を実施した。生徒にとって、働くことの意義を考え、自立して自己実現を図るために自分自身を振り返る良い機会となった。また、子どもたちのために地元の各事業所の協力を得ながら実施し、職場の方々と交流することができた。</p> <p>○ものづくり事業においては、年間8回の「ものづくり塾」の他、「サイエンス発明教室」においては、酒田光陵高等学校の生徒からもボランティアスタッフとして参加してもらい、参加児童生徒にとっても、キャリア教育の良い機会となっている。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
28年度評価	B	<p>○中学生職場体験学習推進事業と中村ものづくり事業は、自らの適性や生き方を学ぶ大切な機会であり、精神的な成長にもつながっている。</p> <p>○職業人を招いた講話や職場体験など、今後も働くことの意義を考える場や仕事に触れる学習に継続して取り組んでいく必要がある。</p>	
【参考】27年度評価	B		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	4 家庭・学校・地域との連携		
施策	(5) 青少年指導活動の推進		
担当部署	学校教育課	平成28年度 担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次代を担う青少年が地域や社会の一員として主体的に未来を切り拓いていく資質を身につけ、その能力を発揮できるよう、青少年指導センターが中心となり青少年の健全育成を図る。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心豊かでたくましい青少年の育成と非行の未然防止に努める。 ・小・中・高等学校の生活指導・生徒指導担当者、警察等関係機関と連携を図りながら、幅広い活動を展開する。 			
平成28年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○街頭巡回指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昼間街頭指導、夜間街頭指導、特別街頭指導、広域列車乗車指導等を指導委員の延べ543名が行った。 <p>○相談業務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非行防止と問題行動の未然防止等、電話及び直接相談を行った。 <p>○環境浄化・広報活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもを取り巻く有害な環境を排除していくための活動を行った。 ・ネット巡視活動を行った。 <p>○子どもの健全育成活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援課主催の「酒田市こども祭り」実施に協力した。 			
平成28年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○ネットトラブル防止啓発用のリーフレットを作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネットに触れる時期の低年齢化に対応するため、29年度に小学生に配布し、活用につなげる。親子で読み合うことを意図し、保護者に向けて家庭のルールづくりを呼びかけるなど、トラブルの未然防止につながる具体的な情報を掲載している。 			
事業の効果・課題			
<p>○民生委員・児童委員協議会連合会、保護司会、更生保護女性会、警友会、少年補導員連絡会、青少年育成推進員連絡協議会、各小学校・中学校・高等学校より推薦いただいた指導委員239名の方々から協力をいただき、酒田市全域を通年にわたり、児童生徒への声かけを含む総合的な街頭指導を実施することができた。注意・指導を要する児童生徒の数は減少している。 (注意・指導した少年の延べ人数H28年度：245名、H27年度：260名、H26年度：356名)</p> <p>○青少年育成推進員の方々が、地域の見守り隊と一緒に児童生徒の見守り活動を行った。</p> <p>○相談の内容は問題行動に関するものが減り、いじめに関わるもの、引きこもりや家庭内の問題など、対人関係と自立に関わる問題が増えている。(相談延べH28年度件21件、H27年度13件)</p> <p>○ネット上のトラブルやいじめは全国的にもますます複雑化しているため、個人が特定される可能性のある情報や誹謗中傷などが無いかについて、ネットの巡視活動(サイトや掲示板の定期的なチェック)を継続する。</p>			
点検結果・自己評価(今後の方向性)			
28年度評価	B	<p>○補導活動の強化や「声かけ」を増やしたことで、コンビニでの万引きは減少している。巡回回数や人数を増やすなど「目に見える街頭指導」が抑止力につながっている。</p> <p>○粗暴な非行、万引きが減少している。</p> <p>○不審者による実害は少なくなったものの、声かけや付きまといといった事案は変わらず発生している。今後も警察や学校をはじめとする関係機関と連携しながら、街頭指導活動を充実させていく。</p>	
【参考】27年度評価	B		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ																
基本施策	5 教育環境の整備																
施策	(1) 学校施設の整備 (その1)																
担当部署	企画管理課	平成28年度 担当部署	企画管理課														
施策の目的及び目標																	
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校施設は子どもたちの学びの場、地域住民の生涯学習、生涯スポーツの場であるとともに、災害時の身近な避難所であり、引き続き耐震化を進める。 老朽化した施設・設備の改修や更新を進めるほか、和式から洋式へのトイレ改修に取り組み、児童・生徒の良好な教育環境の整備を図る。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 酒田市の耐震化計画に基づき、平成31年度を目標に耐震化を図り、学校の安全な教育環境の整備を目指す。 <p>【学校施設の耐震化の割合】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>算出方法</th> <th>項目</th> <th>27年度 (実績)</th> <th>28年度 (実績)</th> <th>31年度 (目標)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">耐震化済みの学校施設割合(校舎、体育館)</td> <td>小学校</td> <td>93.6%</td> <td>95.5%</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> </tr> </tbody> </table>				算出方法	項目	27年度 (実績)	28年度 (実績)	31年度 (目標)	耐震化済みの学校施設割合(校舎、体育館)	小学校	93.6%	95.5%	100.0%	中学校	100.0%	100.0%	100.0%
算出方法	項目	27年度 (実績)	28年度 (実績)	31年度 (目標)													
耐震化済みの学校施設割合(校舎、体育館)	小学校	93.6%	95.5%	100.0%													
	中学校	100.0%	100.0%	100.0%													
平成28年度 主な事業の概要及び実施状況																	
<p>〔耐震関係事業〕</p> <p>○田沢小学校改修事業【予算現額81,614千円・支出済額3,398千円・翌年度繰越額78,210千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成27年度の耐震診断結果に基づき、屋内運動場の耐震改修のための設計業務を行った。 平成28年度の国の補正予算に伴い、屋内運動場の耐震改修にかかる工事費等を予算化し、平成29年度に繰り越した。 <p>○(繰越明許費)松山小学校改修事業【予算現額80,108千円・支出済額77,360千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> 松山小学校の改修事業にかかる設計業務を、平成27年度から平成28年度にかけて実施した。 <p>○松山小学校改修事業【予算現額201,950千円・翌年度繰越額201,950千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成28年度の国の補正予算に伴い、校舎改修、給食室改築にかかる工事費を予算化し、平成29年度に繰り越した。 <p>〔その他の改修事業〕</p> <p>○平田小学校駐車場整備事業【予算現額41,554千円・支出済額40,017千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成27年度に測量調査を実施した農地について、地権者と用地交渉を行い用地を取得した。 取得した土地と既存の土地を利用して、スクールバス駐車場の整備を行った。 <p>○学校トイレ改修事業(小学校)</p> <p>【予算現額27,212千円・支出済額1,242千円・翌年度繰越額25,970千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> 広野小学校のトイレ改修のための設計業務を行った。 平成28年度の国の補正予算に伴い、トイレ改修にかかる工事費等を予算化し、平成29年度に繰り越した。 <p>○学校トイレ改修事業(中学校)</p> <p>【予算現額40,998千円・支出済額3,104千円・翌年度繰越額37,894千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> 第三中学校のトイレ改修のための設計業務を行った。 平成28年度の国の補正予算に伴い、トイレ改修にかかる工事費等を予算化し、平成29年度に繰り越した。 <p>○学校グラウンド改修事業(中学校)【予算現額877千円・支出額297千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> 第三中学校のグラウンドの補修整備を行った。 <p>○学校グラウンド改修事業(小学校)</p> <p>【予算現額122,120千円・支出済額1,227千円・翌年度繰越額120,626千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> 松陵小学校、内郷小学校のグラウンドの補修整備を行った。 平成28年度の国の補正予算に伴い、グラウンド改修にかかる工事費等を予算化し、平成29年度に繰り越した。 																	

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	5 教育環境の整備		
施策	(1) 学校施設の整備 (その2)		
担当部署	企画管理課	平成28年度 担当部署	企画管理課
平成28年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○施設整備事業（小学校）【予算現額22,179千円・支出済額22,179千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プール塗装修繕（松陵小学校、新堀小学校） ・受電設備更新修繕（宮野浦小学校） ・プールろ材交換修繕（新堀小学校、鳥海小学校） ・放送設備更新（南平田小学校） ・FFストーブ改修修繕（宮野浦小学校、平田小学校） <p>○施設整備事業（中学校）【予算現額18,013千円・支出済額18,012千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガラスブロック改修修繕（第六中学校） ・FFストーブ改修修繕（第六中学校、鳥海八幡中学校） ・冷房設備設置工事（鳥海八幡中学校） 			
平成28年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○学校施設の耐震化を進めるため、田沢小学校及び松山小学校の改修や改築に必要な設計業務を行った。</p> <p>○中学校の特別教室（音楽室）に冷房設備を設置し、良好な教育環境の整備を推進した。</p> <p>○生活環境の変化によりトイレの洋式化が進んでいることから、和式が多い学校のトイレの改修を実施するにあたり設計業務を行った。</p>			
事業の効果・課題			
<p>○耐震診断の結果に基づいて改修や改築の設計業務を行い、学校施設の耐震化を推進することができた。</p> <p>○老朽化した設備の更新や改修のほか、冷房設備の設置を実施し、安全で良好な教育環境の整備を図ることができた。</p> <p>○和式のトイレが設置されている学校から、トイレの洋式化の要望を受けている状況にある。年次計画により設計とともに改修工事を進めていきたい。</p> <p>○金額が大きな工事の場合は国の補助金の活用を伴うが、国の予算も厳しい状況にあり、予定している工事に対して見込みどおりに補助金が交付されるか不透明な部分がある。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
28年度評価	A	<p>○耐震化を進める上で対応が必要となる田沢小学校、松山小学校の建物について、耐震補強や改築の設計業務を実施した。今後は実際に工事に入ることから、地域とのかかわりが今まで以上に必要になる。</p> <p>○学校施設・設備の老朽化改善のため、状態の確認、改修や更新を年次的に進めて施設・設備の長寿命化を図り、安全で良好な教育環境の整備に今後取り組んでいく。</p>	
【参考】27年度評価	A		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	5 教育環境の整備		
施策	(2) 学校規模の適正化の推進		
担当部署	企画管理課	平成28年度 担当部署	企画管理課
施策の目的及び目標			
○目的			
・ 少子化による児童生徒の減少と学校の小規模化が進む中、児童及び生徒の教育の機会均等と維持向上を図るため、学校規模の適正化を進め、教育環境の整備を図る。			
○目標			
・ 酒田市立小・中学校の学校規模に関する基本方針に基づいて適正化を進める。			
基本方針			
1. 学校規模に関する基本的な考え (1) 小学校、中学校の標準とする学校規模は、12～18学級とする。 (2) 複式学級の解消に努める。 (3) 過大規模校（31学級以上）は設置しない。			
2. 当面存続する規模 当面存続する学校規模及び学級規模の指針として、次のように設定する。 (1) 小学校 ①学校規模 児童数は100人程度以上が確保できる規模 ②学級規模 1学級15人程度以上が確保できる規模 (2) 中学校 ①学校規模 生徒数は270人程度以上が確保できる規模 ②学級規模 1学年3学級以上が確保できる規模			
3. 配慮事項 学区の改編を進める際は、地域住民と十分な時間をかけて話し合い、理解と合意のもとに進める。			
平成28年度 主な事業の概要及び実施状況			
○学区改編推進事業【予算現額660千円・支出済額518千円】			
・ 小中学校の適正規模及び適正配置について審議する学区改編審議会を開催した。（2回）			
・ 「学校規模に関する基本方針」に基づき、統合を進めている学校			
①鳥海小学校、南遊佐小学校 ⇒ 鳥海小学校			
②地見興屋小学校、松山小学校、内郷小学校 ⇒ 松山小学校			
・ 「鳥海小・南遊佐小」「地見興屋小・松山小・内郷小」の統合準備委員会と各部会を開催し、統合に向けた諸課題を協議した。（統合準備委員会：鳥海・南遊佐2回、松山4回）			
・ 「学区改編だより」（鳥海・南遊佐：3回 松山地区：5回）を発行し、地域や保護者の方々に統合の計画や進捗状況等についての周知を図った。			
○学校統合事業【予算現額12,875千円・支出済額12,069千円】			
・ 南遊佐小、地見興屋小、松山小及び内郷小学校の閉校（閉校式、閉校記念事業補助金等）及び松山小の開校（開校式、校歌・校章デザイン作成委託等）に向けた諸準備を行った。			
平成28年度における改善点・新たな取り組み			
○地域と保護者の理解をいただきながら、学校及び教育委員会内の連携を密にして、閉校と開校に向けた丁寧な調整を心がけた。			
事業の効果・課題			
○鳥海小と南遊佐小、松山地域3小学校の統合に向けた準備は、それぞれの地域等の理解と協力により、順調に進めることができ、平成29年4月に統合した。これにより、当該地域における適正規模の教育環境を整えることができた。			
○適正規模等に課題のある学区における説明については、教育人口統計の説明などによる児童生徒数や学級数、複式学級について情報提供は行えたものの、地域及び保護者への統合に向けた具体的な説明会の実施までには至らなかった。			
○地域の理解と合意を得るためには、時間をかけ丁寧な説明が必要である。			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
28年度評価	A	○地域や保護者の理解が得られ、最重要課題であった2つの地域の小学校が統合されたことで、当該地域における学校規模の適正化が図られ、教育環境が整備された。	
【参考】27年度評価	B	○適正規模等に課題のある学区においては、今後も、地域や保護者への説明を継続的かつ丁寧に行い、地域の理解を更に深める必要がある。 ○これからの児童数の動きや複式学級編制の見込みなど、子どもを取り巻く教育環境について地域と共有を図るため、広報などを活用して情報発信していく。	

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	5 教育環境の整備		
施策	(3) 通学の安全確保		
担当部署	学校教育課	平成28年度 担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の通学の安全を確保するために、地域学校安全指導員の活動など、学校と地域の連携を深めるとともに、遠距離通学対策の充実を図る。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域学校安全指導員や各学校の見守り隊及び関係機関との連携を図ることで、児童生徒が安全安心に登下校できるようにする。 			
平成28年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○子どもの安全安心通学対策事業【予算現額2,099千円・支出済額2,017千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域学校安全指導員5名及び各学校の見守り隊や酒田警察署との連絡調整を行った。 ・青色回転灯装備車両による防犯パトロールについては、警察より証明を受けた巡回協力者と学校教職員により、市教委による回転灯の貸与・パトロール車表示用ステッカー貸与のもとで実施した。 <p>○遠距離通学対策事業【予算現額60,721千円・支出済額57,640千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冬期間は、小中学校とも概ね3km以上を対象とし、借上バス対応を約60日行った。 <p>○スクールバスの運行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通年は、小学校概ね4km、中学校が概ね6km以上を対象として、スクールバス運行またはバス定期券の交付により実施している。 ・運行学区 松原小、平田小、鳥海小、八幡小、田沢小、南平田小 一中、二中、四中、鳥海八幡中、東部中 <p>○通学路の安全点検</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校が把握する通学路の危険箇所については、個別での対応・各機関合同での対応を行い、改善すべき箇所について、児童生徒の安全な登下校に向けて対策を講じることができた。 			
平成28年度における改善点・新たな取り組み			
○不審者に関する情報や交通安全上の注意喚起をメール配信しているが、28年度よりくま出没情報についても配信することとした。			
事業の効果・課題			
<p>○青色回転灯を装備してのパトロールが定着することで、安全安心な通学に寄与している。</p> <p>○遠距離通学対策事業、スクールバス運行とも市の基準に照らしながら対応し、児童生徒の安全を確保するとともに、通学費用に係る保護者の負担軽減を図ることができた。</p> <p>○見守り隊や地域学校安全指導員との情報交換と協力連携を通して、パトロール実施者の増員を今後とも呼びかけていく必要がある。</p> <p>○年度当初にメール配信システムの登録を呼びかけているが、登録の仕方を分かりやすくするための広報活動を引き続き実施していく。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
28年度評価	A	<p>○見守り隊や地域学校安全指導員との協力連携を通して、児童生徒の安全な登下校の見守りを行うことができた。</p> <p>○学校統合による通学路の変更は、児童の安全に十分配慮しながら進めていく。</p>	
【参考】27年度評価	A		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	5 教育環境の整備		
施策	(5) 学校ICT環境の整備充実		
担当部署	学校教育課	平成28年度 担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時代に対応したICT環境としていくために、教育用パソコン及び校務用パソコン等の充実と適正な運用を図る。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育用パソコンは、今後も児童生徒の情報活用能力の育成の為、定期的に更新しながら賃貸借契約による整備を継続していく。 ・校務用パソコンは、平成22年に一括導入した経緯も踏まえ、計画的に新しい機種に更新していく。 			
平成28年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○デジタルキャンパスネットワーク事業【予算現額60,742千円・支出済額59,940千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校704台、中学校286台の教育用パソコンを賃貸借契約により整備しており、年度ごと更新している。 ・校務用パソコンのサポート、サーバーの保守を実施した。 ・校務用グループウェアの研修会を実施した。 ・市教研視聴覚部会は、デジタル機器、パソコンを効果的に活用する具体的方法を学ぶ授業研究会を実施している。 ・情報教育担当者会、市教研視聴覚部会において、情報モラル教育及びICTを活用した授業について研修会を実施した。 			
平成28年度における改善点・新たな取り組み			
事業の効果・課題			
<p>○パソコンの操作や授業においてICT機器を活用することを通して、情報化社会に生きる児童生徒に情報活用能力を育てることができた。</p> <p>○校務用グループウェア活用の研修会を通して、教育情報のデータベースを職員間で共有できるようになり、校務の効率化につながっている。</p> <p>○授業においてデジタルテレビを活用したり、パソコンや実物投影機等のICT機器を活用した授業を展開することにより、児童生徒の学習意欲を高め、理解を深めることができてきた。</p> <p>○平成28年度末、授業でICT機器を活用できる教員の割合は、小学校89%、中学校81%であり、小・中学校とも日常的にICT機器を活用した授業が行われるようになった。</p> <p>○平成29年度から2か年計画で、校務用パソコンの更新を行なうと共に、各学校で提示用にも活用できるタブレット端末の整備を検討する。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
28年度評価	B	<p>○平成28年度末、授業でICT機器を活用できる教員の割合は、小学校89%、中学校81%であり、小・中学校とも日常的にICT機器を活用した授業が行われるようになった。</p> <p>○教科の特質に応じたICT機器活用方法について、更に研修を深めていく必要がある。</p> <p>○パソコンに限らず、実物投影機の活用が大きく広がり、電子黒板の活用も増えつつある。</p>	
【参考】27年度評価	B		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	5 教育環境の整備		
施策	(6) 教育の機会均等 (その1)		
担当部署	企画管理課	平成28年度 担当部署	企画管理課

施策の目的及び目標			
○目的			
・家庭の経済状況にかかわらず、高等学校や高等教育機関での修学が確保されるよう市独自の制度により経済的支援を行うことで子ども達の教育を受ける機会の確保に資する。			
○目標			
・国、県など他の支援制度とのバランスを考慮しながら本市の支援制度を検討、維持し、経済情勢の変動等に関わらず広く市民に周知され、支援制度が必要な市民が利用できるようにする。			

平成28年度 主な事業の概要及び実施状況

○私立高等学校生徒授業料軽減事業【予算現額3,444千円・支出済額3,444千円】
 私立高等学校生徒授業料軽減事業は、私立高等学校に在学している生徒の授業料等に係る保護者等の経済的な負担軽減を図るため、毎年6月1日において私立高等学校に在学している生徒を有し、かつ、本市に住所を有する保護者等で、その世帯が次のいずれかに該当するものに対し私立高等学校生徒授業料軽減補助金を交付するものである。

(1) 生活保護法の規定による被保護世帯 【補助金額：60千円】
 (2) 当該年度の市民税が非課税の世帯 【補助金額：36千円】
 (3) 当該年度の市民税のうち、均等割額だけを課税される世帯（年少扶養控除及び特定扶養控除廃止前の基準で算定し均等割のみ課税となる場合を含む） 【補助金額：36千円】

区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度
生活保護世帯	2件	1件	1件
市民税非課税世帯	68件	68件	55件
均等割額のみ課税世帯	43件	40件	39件
交付件数 計	113件	109件	95件
交付額	4,116,000円	3,948,000円	3,444,000円

【周知実績】 県内各私立高等学校に配布（市内3校、市外13校）

○京野基金大学修学奨励事業【予算現額306千円・支出済額306千円】
 京野基金大学修学奨励事業は、本市出身の優秀な学生の大学修学に係る経済的支援を図る目的で、平成22年度に新設した制度であり、次のいずれにも該当する学生のうちから別に選考されたものの保護者に京野教育振興基金大学修学奨学金を学生1人につき300千円交付するものである。

(1) 学生の保護者等及び世帯の年収額を生活保護法による保護基準表の例によって算出した当該家庭の需要額で除した率が120パーセントに満たない者
 (2) 高等学校を卒業した年度の翌年度に、国立大学法人立大学又は公立大学若しくは市長が特に認めた大学に入学した者（医学部及び歯学部は除く）
 (3) 高等学校在学中の成績が優秀であると認められる者
 (4) 学生の保護者が本市に住所を有し、引き続き1年以上居住し、かつ、当該世帯に本市の市税等の滞納がない者

区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度
交付件数	4件	3件	1件
大学修学奨学金交付額	1,200,000円	900,000円	300,000円

【周知実績】 市内高等学校7校に配布

京野教育振興基金の推移

区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度
年度当初残高	5,810,637円	4,621,408円	3,731,650円
取崩額	1,200,000円	900,000円	300,000円
積立額	10,771円	10,242円	5,811円
年度末残高	4,621,408円	3,731,650円	3,437,461円

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	5 教育環境の整備		
施策	(6) 教育の機会均等 (その2)		
担当部署	企画管理課	平成28年度 担当部署	企画管理課

○大学等修学支援事業【予算現額2,412千円・支出済額2,320千円】

大学等修学支援事業は、大学等（大学、短期大学、専修学校（専門課程を置き修学年限が2年以上のものに限る。）及び市長が認めた教育施設）修学に係る経済的支援を図るため、毎年6月1日において大学等に在籍している本市出身の学生を有する保護者等で、次に該当するものに対し大学等修学資金利子補給金を交付するものである。

・学生の家族（兄弟姉妹は除く。）の所得等の合計額が、次の金額以下であるとき

種別	所得等の合計額	
給与のみの場合	収入額	770万円
上記以外	所得額	573万円

なお、利子補給金の額は、金融機関の修学貸付に係る利子相当額とし、学生1人につき、1年当たりの利子相当額4万円を上限とする。

区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度
新規交付件数	19件	33件	21件
継続交付年数	43件	36件	43件
交付件数 計	62件	69件	64件
交付額	2,318,653円	2,509,908円	2,320,084円

【周知実績】市内高等学校・大学、金融機関など21機関に配布

平成28年度における改善点・新たな取り組み

事業の効果・課題

○各事業ともに学校や関係機関に対して、制度をわかりやすくまとめたパンフレット、チラシ等を配布するとともに、市のホームページや広報、ハーバーラジオなどを活用し、本支援制度を必要とする市民に広く制度の周知を図った。

○私立高等学校生徒授業料軽減事業は、291件申請があり、交付の対象となったのは95件であった。支給対象となる所得の要件がわかりにくいことが要因と考えられるため、所得要件の変更等を検討する必要がある。

点検結果・自己評価（今後の方向性）

今後の方向性	継続	○周知については、学校や関係機関を通じてある程度実施出来ており、制度自体は一定の役割を果たしている。 ○家庭の経済状況によらず、次代を担う子どもの教育を受ける機会を確保することは必要であり、今後も幅広く周知しながら続ける必要がある。 ○本支援制度を必要とする市民に対し、可能な限り速やかに支援を行うことができるよう、申請の受理から支給までの事務を遅滞なく行うことが必要である。
【参考】27年度今後の方向性	継続	

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ																														
基本施策	5 教育環境の整備																														
施策	(7) 私立学校等の振興																														
担当部署	企画管理課	平成28年度 担当部署	企画管理課																												
施策の目的及び目標																															
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・独自の教育理念のもと、本市の教育振興に貢献している私立高等学校の健全な運営に資する。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済状況及び人口減少などの状況と補助内容を考慮しながら、子どもたちが教育を受ける機会の均等化を図るため補助金を交付する。 																															
平成28年度 主な事業の概要及び実施状況																															
<p>○私学振興補助事業【予算現額3,150千円・支出済額3,150千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本市に住所を有する私立高等学校の健全な運営に資するため、私立高等学校を設置する学校法人に対し、酒田市私立高等学校運営費補助金を交付 																															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成26年度</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>酒田南高等学校運営費補助金</td> <td>1,400,000円</td> <td>1,400,000円</td> <td>1,400,000円</td> </tr> <tr> <td>天真学園高等学校運営費補助金</td> <td>1,400,000円</td> <td>1,400,000円</td> <td>1,400,000円</td> </tr> <tr> <td>和順館高等学校運営費補助金</td> <td>350,000円</td> <td>350,000円</td> <td>350,000円</td> </tr> <tr> <td>交付額 計</td> <td>3,150,000円</td> <td>3,150,000円</td> <td>3,150,000円</td> </tr> </tbody> </table>				区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	酒田南高等学校運営費補助金	1,400,000円	1,400,000円	1,400,000円	天真学園高等学校運営費補助金	1,400,000円	1,400,000円	1,400,000円	和順館高等学校運営費補助金	350,000円	350,000円	350,000円	交付額 計	3,150,000円	3,150,000円	3,150,000円								
区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度																												
酒田南高等学校運営費補助金	1,400,000円	1,400,000円	1,400,000円																												
天真学園高等学校運営費補助金	1,400,000円	1,400,000円	1,400,000円																												
和順館高等学校運営費補助金	350,000円	350,000円	350,000円																												
交付額 計	3,150,000円	3,150,000円	3,150,000円																												
平成28年度における改善点・新たな取り組み																															
<p>事業の効果・課題</p> <p>本市の教育振興等に貢献している私立高等学校の健全な運営のために補助金を交付している。平成28年度においては、16～18歳人口の減少に連動する形で私立高等学校の生徒数も減少している。市内の高校生人数に占める私立高校生徒数の割合は2割を超えており、私立高等学校は本市の教育において大きな役割を担っていると言える。</p>																															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成26年度</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>公立高等学校生徒数…A</td> <td>2,433人 (100.0)</td> <td>2,398人 (98.6)</td> <td>2,329人 (95.7)</td> </tr> <tr> <td>私立高等学校生徒数…B</td> <td>756人 (100.0)</td> <td>704人 (93.1)</td> <td>654人 (86.5)</td> </tr> <tr> <td>市内高等学校生徒数…C = A + B</td> <td>3,189人 (100.0)</td> <td>3,102人 (97.3)</td> <td>2,983人 (93.5)</td> </tr> <tr> <td>私立高等学校生徒数率…B / C</td> <td>23.7% (100.0)</td> <td>22.7% (95.7)</td> <td>21.9% (92.5)</td> </tr> <tr> <td>市内16～18歳人口</td> <td>2,974人 (100.0)</td> <td>2,857人 (96.1)</td> <td>2,787人 (93.7)</td> </tr> <tr> <td>私立高校教員数</td> <td>77人 (100.0)</td> <td>76人 (98.7)</td> <td>72人 (93.5)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※カッコ内は平成26年度の各数値を100として比較したもの ※生徒数及び教員数は各年度5月1日現在の数値から算定（市勢要覧より） ※16～18歳人口は各年度3月末日の数値から算定（住民基本台帳より）</p>				区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	公立高等学校生徒数…A	2,433人 (100.0)	2,398人 (98.6)	2,329人 (95.7)	私立高等学校生徒数…B	756人 (100.0)	704人 (93.1)	654人 (86.5)	市内高等学校生徒数…C = A + B	3,189人 (100.0)	3,102人 (97.3)	2,983人 (93.5)	私立高等学校生徒数率…B / C	23.7% (100.0)	22.7% (95.7)	21.9% (92.5)	市内16～18歳人口	2,974人 (100.0)	2,857人 (96.1)	2,787人 (93.7)	私立高校教員数	77人 (100.0)	76人 (98.7)	72人 (93.5)
区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度																												
公立高等学校生徒数…A	2,433人 (100.0)	2,398人 (98.6)	2,329人 (95.7)																												
私立高等学校生徒数…B	756人 (100.0)	704人 (93.1)	654人 (86.5)																												
市内高等学校生徒数…C = A + B	3,189人 (100.0)	3,102人 (97.3)	2,983人 (93.5)																												
私立高等学校生徒数率…B / C	23.7% (100.0)	22.7% (95.7)	21.9% (92.5)																												
市内16～18歳人口	2,974人 (100.0)	2,857人 (96.1)	2,787人 (93.7)																												
私立高校教員数	77人 (100.0)	76人 (98.7)	72人 (93.5)																												
点検結果・自己評価（今後の方向性）																															
今後の方向性	継続	<p>○私立高等学校は独自の教育理念のもと本市の教育振興等に貢献しており、また、教育の機会均等及び本市の子どもたちの教育を受ける権利の保障の一助として欠かせない存在となっている。本市にある私立高等学校の健全な運営のための支援策としての補助金は必要なものとする。</p> <p>○本市においても、今後とも少子化が進んでいく状況にあるが、本市の子どもたちの教育を受ける機会の均等化において欠かせない役割を担う私立高等学校の健全な運営のために、県の補助制度を踏まえながら引き続き支援を行っていく。</p>																													
【参考】27年度今後の方向性	継続																														

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ														
基本施策	6 信頼される学校、開かれた学校づくりの推進														
施策	(1) 明るく楽しい元気な学校づくりの推進														
担当部署	学校教育課	平成28年度 担当部署	学校教育課												
施策の目的及び目標															
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学校において、地域社会や児童生徒の実態に応じた明るく楽しい元気な学校づくりを進め、自主的・自律的な学校運営が推進されるように支援する。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 各校が設定したテーマ及び観点に沿った評価（5段階）を行い、「4」以上の学校数を85%にする。 															
平成28年度 主な事業の概要及び実施状況															
<p>○明るく楽しい元気な学校づくり支援事業【予算現額4,110千円・支出済額4,041千円】</p> <p>1校あたり13万円を上限とする交付金（13万円27校、10万円6校）をもとに、各学校でテーマ及び具体的な教育活動を設定し実践した。</p> <p>○取り組んだ主な教育活動</p> <table border="0"> <tr> <td>・地域連携、地域学習等の活動</td> <td>22校</td> <td>・児童会、生徒会活動への支援</td> <td>13校</td> </tr> <tr> <td>・児童生徒の感性を育てる活動</td> <td>17校</td> <td>・学級経営、学習活動の推進</td> <td>11校</td> </tr> <tr> <td>・学校美化、地域環境保全活動</td> <td>11校</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>※取り組みの例</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域指導者によるクラブ活動・交流活動等の活動（浜田小、松原小、黒森小等） 外部講師からの特別授業・講演（琢成小、松陵小、宮野浦小、松山小、田沢小、四中、鳥海八幡中等） 地域との交流事業（十坂小、鳥海小等） 動植物を育てる活動（琢成小、亀ヶ崎小、鳥海小等） P T Aと共に学級菜園・学校環境整備（琢成小、西荒瀬小、新堀小、地見興屋小等） 				・地域連携、地域学習等の活動	22校	・児童会、生徒会活動への支援	13校	・児童生徒の感性を育てる活動	17校	・学級経営、学習活動の推進	11校	・学校美化、地域環境保全活動	11校		
・地域連携、地域学習等の活動	22校	・児童会、生徒会活動への支援	13校												
・児童生徒の感性を育てる活動	17校	・学級経営、学習活動の推進	11校												
・学校美化、地域環境保全活動	11校														
平成28年度における改善点・新たな取り組み															
○各学校で、事業評価において達成度の低かった項目については、振り返りの検討を行っており次年度以降の事業に反映し、改善が図られている。															
事業の効果・課題															
<p>○成果については、各学校で設定した2～4項目の観点から、活動の観察やアンケート、学校内外の評価の結果を5段階で評価した。平均「4」以上の学校は、33校中33校で100%となった。（平成27年度93.94%、平成26年度93.94%）</p> <p>○取り組む内容をテーマ化することで、児童生徒が、より豊かな学校生活を送ることができた。</p> <p>○地域連携、地域学習活動の推進を事業に据えた学校は、22校であるが、総じて、地域の方から多大な協力や支援をいただいている。学校と地域の緊密な連携を向うことができ、地域の人々とのふれあいを深め、郷土を愛する心を育んでいる。</p>															
点検結果・自己評価（今後の方向性）															
28年度評価	B	<p>○配当予算に依らず、学校裁量・学校独自の視点から、新たな課題に取り組むことのできる事業である。また、学校毎に計画時に評価観点を設定し、年度の振り返りの際、達成度の低い評価については、改善点なども検証しており、今後も継続し取り組んでいく必要がある。</p> <p>○各学校の特色ある活動に、より効果的に活用できるように事業を推進していく。</p>													
【参考】27年度評価	A	○事業の推進にあたっては、適正な事業執行や事務処理に留意し、また学校からの意見も参考にしながら進めていきたい。													

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	6 信頼される学校、開かれた学校づくりの推進		
施策	(2) 学校運営の公開と学校評価の推進		
担当部署	学校教育課	平成28年度 担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域住民が学校運営に参画し、学校と地域が一体となった地域に開かれ、地域に支えられる学校づくりを進める。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべての学校で教育活動等の成果と検証を行う学校評価に取り組み、学校運営の改善と発展を目指す。 ・良い学校運営につなげる学校評価システムを推進していく。 			
平成28年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○学校評議員会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営に関して第三者の意見を生かしていくために、全小中学校で学校評議員の委嘱を行った。どの学校も学校評議員会を開催し、学校の運営や教育活動について、具体的に意見をいただいている。 <p>○学校評価の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの学校も自己評価、学校関係者評価を実施している。学校経営に関する児童生徒、保護者、教職員のアンケートを実施、分析、改善するとともに、その結果を学校評議員に提示し学校関係者評価を行い、学校運営の改善につなげている。 ・評価項目を絞りこみ、学校の重点やよさ、課題について、PDCAのサイクルに基づいて実施する工夫がみられる。 			
平成28年度における改善点・新たな取り組み			
<p>事業の効果・課題</p> <p>○学校評議員会の開催により、学校の経営方針や教育活動のねらい・内容を説明し理解を得ることで、地域との協力体制づくりが進んでいる。</p> <p>○話し合いの目的によって学校評議員の人選が変わることが考えられるため、年齢構成、役職、男女比などを考慮し、学校評議員を選出する必要がある。</p> <p>○学校評議員会の時間設定を工夫することで、多くの方からの意見を集約することができた。また、事案により、招集メンバーを絞ることでテーマに沿った話し合いができています。</p> <p>○地域の方々に学校経営方針や授業・行事等の実践を公開することで、学校・家庭・地域の方々による学校運営や具体的な教育活動への理解が深まり、開かれた学校づくりが進められている。</p> <p>○アンケート結果をもとにした自己評価や学校関係者評価の実施により、地域の思いや願いが、学校経営に反映し児童生徒の学校生活の充実につながっている。</p> <p>○学校評価の結果を学校便り等で地域の方々や保護者にお知らせすることで、子どもたちの地域での様子やさまざまな情報を学校にいただけるようになってきた。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
28年度評価	B	<p>○学校評議員の人選にあたっては、地域の有識者や教育活動の支援者並びに保護者等から広く意見を集約し、経営の改善に生かせるよう配慮されてきた。</p> <p>○学校評議員にも学校評価のねらいや観点、評価の具体的な場面を示しながら、年間計画に基づいて計画的に、学校経営について意見を求めていくように学校に働きかけていく。</p>	
【参考】28年度評価	B	<p>○学校経営の改善に生きる評価システムにしていくために、年度初めに、重点や学校課題（評価の観点や評価の場面）を具体的に保護者や地域の方々に示すように各校に指導していく。</p>	

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	6 信頼される学校、開かれた学校づくりの推進		
施策	(3) 教職員研修等の充実		
担当部署	学校教育課	平成28年度 担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・信頼される学校づくりを推進するため、教員の指導力向上や資質向上を図る。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校研究に沿った授業研究会への指導主事派遣を充実させ、指導力の向上を図る。 ・各種研修会及び各校での授業研究会を通し、教職員としての資質向上を図る。 ・教員評価を行い、学校教育に対する信頼の確保と資質の向上を図る。 			
平成28年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○初任者研修、中堅教諭等資質向上研修の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初任者研修は学級づくり、市内教育施設の訪問等の研修を実施した。(該当者13名) ・全体研修では「服務研修」「いじめ対応」、知見を広める体験研修では企業や福祉施設等で体験的研修を実施した。(中堅教諭等経験者研修該当者2名) <p>○各種研修会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書専門員研修会(26名参加) ・教科指導力向上のための研修会 理科センター事業として研修会を4回開催。(延べ107名) 市教育研究所の各部会で教科指導等の研修会を合計67回開催 ・児童生徒理解のための研修会 教育相談研修講座を3回開催(延べ504名参加) 教育相談担当者を対象とした実践力を育成する研修会を3回開催 ・特別支援教育のための研修会 特別支援教育研修会を2回開催(延べ207名参加) <p>○教職員評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべての教員が自己目標を設定し、個人や組織としての工夫を図り資質の向上に努めた。 			
平成28年度における改善点・新たな取り組み			
事業の効果・課題			
<p>○初任者研修では、教育公務員としての教師の服務や心構え、児童生徒との関わり方、特に特別支援教育の考え方について研修を深めることができた。また、初任者として職務上の悩みを情報交換できたことは対象者にとって非常に貴重な機会となった。</p> <p>○経験者研修会では、喫緊の課題であるいじめの防止、早期発見、適切な対応について研修を行うことで、児童生徒の見取りについて意識を高めることができた。</p> <p>○図書専門員研修会では経験豊富な専門員の方からの助言も有効だが、基本的な操作に関する利用講習を数年に1回程度、企画・予算化する必要がある。</p> <p>○教科指導力向上のための研修会では、算数・数学において授業改善に向けた実践的な研修を行うと共に、小中が連携した指導の在り方について研修を深めることができた。</p> <p>○教職員評価の実施により、自己目標の設定と達成に向けての取組みの中で、教員の学校経営参画意識を高めることにつながっている。</p>			
点検結果・自己評価(今後の方向性)			
28年度評価	A	<p>○初任者研修では「ユニバーサルデザイン」、経験者研においては「いじめ防止について研修し、教員としての資質の向上につなげることができた。</p> <p>○読書指導や図書館活用型授業の大切さを理解してもらい、それを支える専門員の在り方にも触れることができた。</p> <p>○教育相談研修講座において、特別支援、いじめ予防、学級づくりをテーマに研修会を開催することにより、今日的な課題について研修できた。</p>	
【参考】27年度評価	A		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	6 信頼される学校、開かれた学校づくりの推進		
施策	(4) 体罰根絶に向けた取組みの推進		
担当部署	学校教育課	平成28年度 担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体罰に関する正しい知識をもち、体罰否定の指導観のもと信頼される学校づくりを進める。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体罰の根絶対策と、一人一人の人格や自主性を尊重し、児童生徒理解に基づく適切な学習指導、生徒指導、部活動指導等を実施する。 			
平成28年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○校内倫理委員会における体罰根絶への取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「信頼される学校推進のための具体的取組み」の項目の中に体罰根絶の項目を位置づけ、各校の実態を踏まえながら主体的な取組を計画的に実施できるようにした。 <p>○研修会等の機会を利用した服務にかかわる指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体罰の防止を含め、教職員の服務規律については、市招集校長会や各種経験者研修会等の機会を利用して繰り返し注意喚起を行った。 			
平成28年度における改善点・新たな取組み			
<p>事業の効果・課題</p> <p>○「体罰等の根絶と児童生徒理解に基づく指導のガイドライン」をもとに、学校評価の際に教職員及び保護者アンケートに体罰や不適切な指導に関する項目を設け、児童生徒理解に基づく指導に取り組んでいる。</p> <p>○アンガーマネジメントについて研修し、教職員が怒りに対する自己コントロールができるようにすることで児童生徒一人一人を尊重し、よさを伸ばす指導に努めている。</p> <p>○生徒指導等で児童生徒に対応する場合は、単独ではなく複数で対応するようになっている。</p> <p>○個別に支援を必要とする児童生徒の指導について全教職員で共通理解して行う。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
28年度評価	B	<p>○教職員が児童生徒のことで一人で悩むことのないように、問題行動等への解決にはチームで対処する。</p> <p>○体罰または周囲に体罰と受け取られかねない指導を見かけた場合には、積極的に管理職や他の教員等へ報告・相談できるようにするなど、日常的に体罰を防止しようとする同僚性を育んでいく。</p> <p>○部活動のコーチについても指導のあり方についてお願いと指導を行う。</p>	
【参考】27年度評価	B		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ								
基本施策	6 信頼される学校、開かれた学校づくりの推進								
施策	(5) 学校施設の地域開放の推進								
担当部署	企画管理課	平成28年度 担当部署	企画管理課						
施策の目的及び目標									
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校施設を学校運営や安全管理に支障のない限りにおいて地域に開放し、学校が地域住民の生涯学習及び生涯スポーツ活動の一拠点として役割を担っていくことで、学校と地域の連携を深めていく。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内全ての小中学校において、学校と地域との相互連携のもとに学校開放を実施する。 目標数値：実施率100% 									
平成28年度 主な事業の概要及び実施状況									
○学校開放実施率									
		平成26年度	平成27年度	平成28年度					
小学校	学校数	26校	26校	26校					
	実施校数	26校	26校	26校					
	実施率	100%	100%	100%					
中学校	学校数	8校	8校	8校					
	実施校数	8校	8校	8校					
	実施率	100%	100%	100%					
○平成28年度一校当たりの週平均稼働日数 単位：日／週									
	小学校				中学校				全体
		市街地	旧公民館地区	総合支所管内		市街地	旧公民館地区	総合支所管内	
体育館	4.7	6.2	4.7	3.2	4.1	5.2	2.2	4.0	4.6
グラウンド	2.8	4.4	2.9	0.9	1.0	0.8	0.4	2.1	2.4
※グラウンドについては冬季を除く期間（4月～11月）において週平均を算出									
平成28年度における改善点・新たな取り組み									
事業の効果・課題									
<p>○1校当たりの週平均稼働日数をみると、体育館が4.6日／週、グラウンドが2.4日／週となっている。</p> <p>○中学校においてグラウンドの稼働日数の数値が低いのは、部活動に使用されていることによつて一般の使用が難しくなっているものと分析され、この点を考慮すれば、学校施設は高い頻度で生涯学習や生涯スポーツ等の地域活動に利用されていると言え、学校開放が学校と地域を結び付ける役割を果たしているものと考えられる。</p>									
点検結果・自己評価（今後の方向性）									
今後の方向性	継続	○学校開放の実施率は平成28年度においても100%の実施率であり、過去の実施率からも、学校開放の制度が地域に浸透しているものと考えられる。							
【参考】27年度今後の方向性	継続	○学校施設の利用については、学校が地域の利用団体と連絡を密に取りながら調整して実施している点及び利用頻度が高い点から考慮すると、学校開放が学校と地域の関わりの機会となっている。							
		○今後も、学校が地域の生涯学習及び生涯スポーツの一拠点として機能し、また、学校と地域が繋がる機会とするため継続して実施する。							

基本的方向	Ⅱ 世代を超えて学びあう		
基本施策	7 生涯学習の充実		
施策	(1) 生涯学習推進体制の整備		
担当部署	社会教育文化課	平成28年度 担当部署	社会教育文化課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市内関係課との情報の共有や情報発信の一元化を図りながら連携事業にも取り組み、市全体としてより充実した事業推進に努める。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報化社会の進展に伴い、学習情報の収集と提供を行うシステムや学習相談の体制整備に努める。 ・ 学習しやすい施設や環境づくりの整備。 ・ 関係各団体と互いに連携を図りながら生涯学習を推進。 			
平成28年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○市広報やホームページ、フェイスブックでの講座募集。</p> <p>○生涯学習推進計画関連事業一覧のホームページ掲載 関連課等23</p> <p>○生涯学習指導者登録制度 登録者47名（H28新規登録者4名）※ホームページに掲載</p> <p>○カモンくんこどもニュースの発行（月1回、全小学生へ配布）</p> <p>○総合文化センター耐震改修事業【予算現額554,034千円・支出済額539,492千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 総合文化センターの老朽化した空調設備を全館的に更新した。また、ホールの天井について、大震災時の落下防止のため軽い部材に交換した。 			
平成28年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○カモンくんこどもニュースを片面印刷から両面印刷とし情報量が増加。家庭教育コラムを連載し家庭学習や自宅での生活についての気付きが提供できるように工夫を行った。</p>			
事業の効果・課題			
<p>○生涯学習指導者登録では4名の指導者登録があり、市民企画講座として2講座開催した。</p> <p>○生涯学習推進講座開催事業では、各ライフステージに合わせた、学びを提供し、多様なニーズに対応した。終了後のアンケート調査では高い満足度を得ることができ、年間集計では満足度88%となった。</p> <p>○耐震改修工事により、生涯学習施設である総合文化センターの安全性を確保するとともに施設の延命化を図ることができた。</p> <p>○生涯学習関連事業の一覧を活用し、他課等と連携を深めていきたい。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
28年度評価	B	<p>○市広報、ホームページ、フェイスブック、各種チラシなどいろいろな媒体を通じて学習情報の提供に心がけている。</p> <p>○生涯学習サークルの募集を一覧にして随時更新をしている。</p> <p>○平成26年度から平成28年度までの3か年にわたる耐震改修工事及び施設延命化工事を予定どおり終了した。</p>	
【参考】27年度評価	B		

基本的方向	Ⅱ 世代を超えて学びあう								
基本施策	7 生涯学習の充実								
施策	(2) 生涯学習社会の基礎づくり								
担当部署	社会教育文化課	平成28年度 担当部署		社会教育文化課					
施策の目的及び目標									
○目的									
<ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージに合わせた学びの提供。 ・「個人のニーズ」と「社会の要請」の学習機会をバランスよく提供する。 ・学んだ成果を地域に生かせる学習機会の提供。 ・地域・家庭・学校・幼稚園・保育所等と連携した事業の推進。 ・家庭教育支援の充実。 									
○目標									
・生涯学習事業のアンケート調査の満足度87%以上を達成。									
算出方法		26年度	27年度	28年度	31年度（目標）				
生涯学習事業の満足度 （アンケート調査）		84%	90%	88%	87%以上				
平成28年度 主な事業の概要及び実施状況									
○生涯学習推進講座開催事業【予算額5,168千円・支出済額4,769千円】									
○英語で発信できる子ども育成事業【予算額5,908千円・支出済額5,444千円】									
講座区分	平成26年度			平成27年度			平成28年度		
	講座数	実施回数	延べ参加人数	講座数	実施回数	延べ参加人数	講座数	実施回数	延べ参加人数
幼児講座	4	32	1,512	4	19	1,447	4	31	1,731
少年講座	8	490	8,930	6	408	8,510	10	465	12,717
青年講座	6	25	326	8	26	292	7	31	287
成人講座	11	48	693	14	51	827	12	51	706
家庭教育講座	11	69	3,275	10	82	3,553	8	81	3,444
指導者養成講座	6	11	272	6	9	428	4	10	420
催し	7	25	19,979	12	19	19,356	9	15	18,149
計	53	700	34,987	60	614	34,413	54	684	37,454
満足度	84%			90%			88%		
平成28年度における改善点・新たな取り組み									
○「英語で発信できる子ども育成事業」が市長部局から教育委員会へ事業移管され、1年間4会場で取り組んだ。									
事業の効果・課題									
○各年代ごとに学習の機会を提供し、参加者からの満足度は年間集計の平均で88%となった。									
○青年対象の講座では、単発や回数の少ない講座では人も集まりやすい傾向があるが、10回講座など長期となる場合は参加希望者が少なく、また後半になると仕事などの都合で出席者が少ない目だった。									
○「英語で発信できる子ども育成事業」は前担当課の実施方法を引き継ぎ、ネイティブスピーカーの講師が熱心に生徒の指導にあたった。出席率72.48%、レッスンの満足度87%であった。									
点検結果・自己評価（今後の方向性）									
28年度評価	A	○総合文化センター等で若者の利用者が増加し活動しやすいように支援を行っていくため、ワークショップでの協議や居場所づくりの方策などを検討していく。							
【参考】27年度評価	A	○平成32年度より外国語活動が小学校3・4年生から始まり、外国語が小学校5・6年生より教科化されることから、学校での外国語教育について充実を図ることとなり、平成25年度から実施をしてきた「英語で発信できる子ども育成事業」は、平成28年度いっぱい終了とした。							
		○生涯学習事業のアンケート調査の満足度87%以上を達成。							

基本的方向	Ⅱ 世代を超えて学びあう		
基本施策	7 生涯学習の充実		
施策	(3) 生涯学習機会の提供		
担当部署	社会教育文化課	平成28年度 担当部署	社会教育文化課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「個人の要望」や現代的課題の解決に向けた「社会の要請」に応える様々な学習機会の提供。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会変化に対応していくため、各関係部署、その他関係機関等との連携を深め、多様な学習機会の提供に努める。 			
平成28年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○東北公益文科大学と連携した市民大学講座を総合計画100人ワークショップと連携して「総合計画を考えるシリーズ～もっと酒田を知ろう」をテーマに、昼と夜に分け講座を各4回実施。</p> <p>○生涯学習まつりで各種サークル、団体等の日頃の活動成果発表を行い、交流を深めた。</p> <p>○自主サークル活動の立ち上げ支援を行った。</p> <p>関連事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○春の市民茶会 ○生涯学習施設「里仁館」運営支援 ○酒田市凧あげ大会 			
平成28年度における改善点・新たな取り組み			
○市民企画の講座「酒田甚句で一緒に踊りませんか」を自主サークルとして育成した。			
事業の効果・課題			
○生涯学習まつりでは38団体が参加し、生涯学習の成果を発表。3日間で延べ8,698名の来場者があった。			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
28年度評価	B	<p>○市民大学講座では、総合計画100人ワークショップの参加者からの参加があり若い受講者が増えた。</p> <p>○生涯学習ボランティア育成の目的で指導者として活躍できる体制を整えるため市民企画講座を実施し、新規で4名の指導者を登録した。</p> <p>○春の市民茶会、生涯学習まつりは成果発表の場として多くの参加者があった。</p>	
【参考】27年度評価	B	○凧あげ大会は全国各地から凧あげの愛好者が集まり、市内の参加者との交流も行われた。	

基本的方向	Ⅱ 世代を超えて学びあう		
基本施策	7 生涯学習の充実		
施策	(4) 地域活動の活性化		
担当部署	社会教育文化課	平成28年度 担当部署	社会教育文化課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域活動の中心的役割を果たすコミュニティ振興会に対して、地域に伝わる風習や伝統文化など、地域の特性を生かした青少年の体験活動や健全育成に関わる事業等に支援を行うとともに「地域の先生」として学んだ成果を社会に生かせるように指導者研修会を開催するなど「知の循環」による公益活動の振興を図ります。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導者研修会の参加率の向上と社会教育指導員の訪問活動の充実。 			
平成28年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○地域の教育力向上スキルアップ講座 参加者数30名</p> <p>○各地域担当社会教育指導員の配置 訪問実績465回（相談連絡訪問436回、事業への訪問29回）</p> <p>関連事業</p> <p>○地域人材交流講座</p> <p>○少年団体リーダー研修会</p>			
平成28年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○地域の教育力向上スキルアップ講座に光陵高等学校の先生を講師として招き、地域の事業にも協力してもらえるようコミュニティ振興会の職員との繋がりができた。</p> <p>○まちづくり推進課の地区担当職員とともに社会教育文化課の職員、社会教育指導員と一緒にコミュニティ振興会の訪問を行った。</p>			
事業の効果・課題			
<p>○地域の教育力向上スキルアップ講座の事例発表では若い職員のプレゼンテーションが行われ、他のコミュニティ振興会の良い刺激となった。地域活動の活性化に積極的に取り組む姿勢が伺えた。</p> <p>○研修に参加できないコミュニティ振興会も多く、日程や内容など参加者を増やす方策が課題。</p> <p>○社会教育指導員のスキルアップ。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
28年度評価	B	<p>○地域の教育力スキルアップ講座では充実した内容を実施することができた。ニーズを把握しより多くの対象者に参加してもらえるよう、コミュニティ振興会等の方に丁寧に説明をするなど、参加者増加に努めながら継続して実施していきたい。</p> <p>○社会教育指導員研修については、県の社会教育事業なども活用しながら積極的に参加できるよう業務を配慮する。</p>	
【参考】27年度評価	B		

基本的方向	Ⅱ 世代を超えてまなびあう				
基本施策	8 図書館活動の充実				
施策	(1) 図書館機能の充実				
担当部署	図書館	平成28年度 担当部署	図書館		
施策の目的及び目標					
○目的					
・市民の読書活動の拠点として各種図書資料をバランスよく収集し、窓口サービスの提供等を通して、知識や教養の習得機会を提供する。					
○目標					
	項目	26年度 (実績)	27年度 (実績)	28年度 (実績)	31年度 (目標)
	人口1人当たりの入館回数	3.59回	3.44回	3.29回	3.85回
	人口1人当たりの館外貸出冊数	4.9冊	4.9冊	4.7冊	5.2冊
平成28年度 主な事業の概要及び実施状況					
○図書購入事業【予算現額22,469千円・支出済額22,349千円】					
・一般図書等8,421冊、児童図書等2,790冊、雑誌・新聞等1,637冊を購入して提供した。					
○東北公益文科大図書館との連携					
・東北公益文科大図書館を経由し369冊の貸出が行われた。					
○広報活動					
・市広報、市及び図書館ホームページ、外部情報サイト等を活用し、図書館のPRに努めた。					
○利用者拡大の取り組み					
・定期的にテーマを変えた企画展示を実施し、おすすめ本を紹介した。					
平成28年度における改善点・新たな取り組み					
○雑誌スポンサー制度の周知とさらなる民間活力を利用するため、約130社にダイレクトメールによる周知を行った。また、雑誌の広告媒体効果を高めるため、書架の工夫を行った。					
○更新等により不要になった図書を市民に随時提供する「本のリサイクルコーナー」を設置した。					
○企画展示を年間17回行い、テーマ毎に様々な本を紹介した。児童図書室では市民参加型の展示を行った。企画展示とは別に、時節に応じた本を集めて紹介するコーナーを設けたり、館内に新刊本の紹介や貸出しランキングを掲示するなど積極的な情報提供を行った。					
事業の効果・課題					
○雑誌スポンサー制度は新たに6社から7誌の提供を受けた。雑誌購入費用の軽減により、八幡分館分として新たに育児雑誌を購読することができた。					
○「本のリサイクルコーナー」を設置したことにより、10,000冊以上の本が再活用された。児童書や絵本は、保育園や幼稚園等へ提供を行い、各所での新たな本と触れあう機会を創出した。					
○28年度の人口1人当たりの入館者数及び貸出冊数は、開館日数が少ないことが影響し、前年度より大きく減少したが、人口減の傾向等を勘案し、今後も横ばい又は微減傾向が続くと思われる。そのため、今まで図書館を利用したことのない層への働きかけが必要。					
点検結果・自己評価（今後の方向性）					
28年度 評価	B	○図書の充実			
		・利用者からのリクエスト等を活用して、傾向の把握に努める。			
		・地域に密着した郷土資料の収集等に努めつつ、限られた配架スペースを有効活用できるよう検討していく。			
		○図書館利用の促進			
		・季節や時事、地域イベント等に応じたテーマ展示を他の部署との連携を図りながら積極的に行い、効果的な情報発信を行う。			
		・酒田コミュニケーションポート（仮称）整備事業におけるライブラリーセンターとしての役割を、市民の意見を取り入れながら検討していく。			
【参考】 27年度 評価	A				

基本的方向	Ⅱ 世代を超えてまなびあう		
基本施策	8 図書館活動の充実		
施策	(2) 光丘文庫の保全と活用		
担当部署	図書館	平成28年度 担当部署	図書館
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 光丘文庫の建物は、大正14年に竣工し、平成8年には酒田市指定有形文化財に指定されている歴史的な建造物であり、その維持保存を行う。本間家をはじめ多くの有志から寄贈された典籍や一般図書等が多く所蔵されており、その保管や分類整理及びこれらを活用した企画展示を行う。また、資料の閲覧のため全国各地からの来館者への対応やレファレンス業務を行う。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 常設展示について、さまざまな視点によるテーマのもと、年間数回の展示替えを行い、貴重な資料のPRに努め入館者数の増加を目指す。また、本館とその所蔵資料を本市の歴史的遺産として後世に伝えていくため、建物の現況調査と保存及び活用方法について検討を行う。 			
平成28年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○光丘文庫資料保全活用事業【予算現額11,996千円・支出済額11,977千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> 長年の懸案事項となっていた建物の老朽化への対応として、所蔵資料（新聞・雑誌を除く）及び事務室を中町庁舎に移転した。 <p>○所蔵資料の閲覧サービス等の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 所蔵する貴重な資料について、利用者の閲覧に供したほか、ギャラリートークを実施した。 常設展示 ・「光丘文庫卒寿の歴史を刻んで」 4月12日～7月31日 ギャラリートーク ・「光丘文庫の話 その歴史に思いを馳せて」 6月18日、7月16日 			
平成28年度における改善点・新たな取り組み			
○長年の懸案事項であった所蔵資料の移転を実施したことにより、貴重な市の財産である所蔵資料の保全が図られた。			
事業の効果・課題			
<p>○より適切な資料保管環境の整備について</p> <ul style="list-style-type: none"> 所蔵場所を移転したことにより、保管環境は格段に改善したものの、中町庁舎は旧文庫の書庫と異なり、遮光がなされていないことから、この点について改善を図る必要があるほか、火災時の対応として、ハロゲンガス消火設備が一部にしか設置されていないため、緊急時に対応可能な設備を設置する必要がある。 <p>○より積極的な資料の活用と情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> 貴重な資料を多数所蔵している一方で、現代のICT化に対応した資料の活用が図られてきているとはいえないため、改善を図っていく必要がある。 			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
28年度評価	B	○資料の移転作業については、ほぼ計画通りに実施することができたものの、移転作業計画の策定面において課題があった部分があり、予算の補正を余儀なくされた。	
【参考】27年度評価	B		

基本的方向	Ⅱ 世代を超えてまなびあう				
基本施策	8 図書館活動の充実				
施策	(3) 子どもの読書活動の推進（再掲）				
担当部署	図書館	平成28年度 担当部署	図書館		
施策の目的及び目標					
○目的					
・子どもが読書に親しむ機会の提供と環境づくりに取り組む。特に家庭での読書活動が高まるように努める。					
○目標					
	項目	H26年度	H27年度	H28年度	H32年度（目標）
	15歳までの人口（人）	13,453	13,100	12,754	-
	子ども（15歳以下）一人当たりの年間貸出冊数（冊）	11.9	12.0	12.5	12.7
平成28年度 主な事業の概要及び実施状況					
○子ども読書活動推進事業【予算現額876千円・支出済額855千円】					
<ul style="list-style-type: none"> ・「第2次酒田市子ども読書活動推進計画」に基づいて各種事業を実施した。 ・「土曜おはなし会」を年23回実施し、延べ481人の親子が参加した。 ・「赤ちゃんの読み聞かせ教室」を年12回実施し、延べ152人の親子が参加した。 ・「読み聞かせボランティア講座」を年2回実施し、延べ24人が参加した。 ・「おやこ手作り絵本講座」を開催し、18組の親子44人が参加した。 ・「絵本作家講演会」を開催し、子どもを含め76人が参加した。 					
平成28年度における改善点・新たな取り組み					
○第2次酒田市子ども読書活動推進計画に基づき、新たに読書手帳を作成し園や小学校に配布した。協力校・園にアンケートを実施した結果、半数以上から読書手帳を活用することで、読書をする時間が増えたという回答があった。					
○「家読（うちどく）」を推進するため、新たに家読（うちどく）だよりや家読（うちどく）おすすめ本リストを発行したり、常設の家読（うちどく）本企画展示を行った。					
○読み聞かせの方法や読書活動の大切さについて理解を深めてもらうため、学校や園等に講師派遣する講座を新たに設けた。					
事業の効果・課題					
○「土曜おはなし会」は、幼児期から本に親しむ契機となり、会場が児童図書室であることから、児童図書の利用に繋がっている。					
○「赤ちゃんの読み聞かせ教室」は、ブックスタート事業のフォローアップ事業として、読み聞かせに関心を持たれたお母さんの学習の場となり、児童図書室のPRにも役立っている。					
○ブックスタート事業により、乳児への読み聞かせの有効性が保護者に対して広く周知され、認知されている。					
○「読み聞かせボランティア講座」は基礎編とステップアップ編の2部構成としていることで、経験年数の異なるボランティアにきめ細かく対応でき、小学校や各施設等での読み聞かせボランティアの育成に繋がった。					
○「おやこ手作り絵本講座」は多くの参加者があり、自ら創る絵本への関心の高さが伺われた。また、完成する喜びや達成感、自信にも繋がった。					
点検結果・自己評価（今後の方向性）					
28年度評価	A	○「赤ちゃんの読み聞かせ教室」はブックスタート事業と連携した事業で参加者も多く、長期的な視点で継続・充実させる。			
【参考】27年度評価	A	○講演会や各種講座の開催により、図書館活動への関心を高め、貸出冊数の増加に繋げる。			
		○「絵本だより」や「学校向けパンフレット」等の活用や公立・法人保育園園長会議や図書館専門員研修会等で園・学校等の団体貸出について説明し貸出冊数等の増加を図る。			
○読書習慣を身に付けるため、幼少期から継続して本に親しむことができるよう、第2次子ども読書活動推進計画の施策の実施を園・学校及び関係各課等との連携・協力を図りながら家庭、保護者等も含めた取り組みを行う。					

基本的方向	Ⅲ 生涯スポーツで明るく健やかに生きる		
基本施策	9 スポーツ・レクリエーションの推進		
施策	(1) 子どもの基礎的運動能力の向上（再掲）		
担当部署	スポーツ振興課	平成28年度 担当部署	スポーツ振興課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが夢あふれる未来に向かって、健康で心身ともにたくましく成長していくため、学校や地域等において、子どもがスポーツを楽しむことができるように環境の整備をすすめ、合せて体力の向上を図る。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> スポーツ少年団活動や総合型地域スポーツクラブなどの地域の資源を活用し、地域が連携してスポーツ環境の充実を図ることにより、子どもたちがスポーツに接する機会を増やし、積極的に運動、外遊び等に親しむようにする。 			
平成28年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○スポーツ少年団育成事業補助金【予算現額1,742千円・支出済額1,742千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> 認定養成講習会を実施し38名が受講。また、運動適性テストを実施し773人が受けた。 <p>○スポーツ少年団大会開催事業【予算現額1,630千円・支出済額1,630千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> スポーツ少年団本部大会（サッカー、野球、バレーボール、ミニバスケットボール、卓球、剣道の6種目）を開催し、1,194名の参加があった。スポーツ少年団本部指導者講習会・技術指導講習会（6種目）を実施し、441名の参加があった。 <p>○総合型地域スポーツクラブ</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内の総合型地域スポーツクラブは8団体あり、それぞれ地域にあった形で特色ある活動をしている。部活動を中心とした団体から、子どもから高齢者までを対象とし事業を展開しているクラブもあり、それぞれ子どもの体力向上につなげている。 <p>○B&G平田海洋クラブ（海洋センター）</p> <ul style="list-style-type: none"> 28年度もヨット・カヌー教室を実施し、クラブ員の指導により10名（内小学生4名）の参加があった。また、クラブ員（一定の技量が身につく）になることで、クラブ主催の最上川カヌーツーリングや日本海カヌーツーリングに参加できる。 海洋センターでは小学生を対象に水泳教室や水辺の安全教室（ライフジャケット・救助法）を実施し、水の事故から子ども守ることにもつながっている。 			
平成28年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○新たに総合型地域スポーツクラブ1団体が平成29年度中の設立に向け準備を進めており、地区スポーツ関係団体との話し合いをもっている。</p>			
事業の効果・課題			
<p>○少子化に伴う児童数減少によるスポ少団員数の減少、加入率の低下もあるが、現況としては1,622名（84団）の子どもたちがスポーツ少年団に加入している。運動を「する」、「しない」の二極化が進む中で、運動に接する機会をつくるために、あらゆる関係団体（幼稚園・保育園・小中学校・体育振興会・総合型地域スポーツクラブ・体育協会）と連携していく必要があると考える。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
28年度評価	B	<p>○運動能力を測定するために、団員を対象に運動適性テストを実施しているが、参加者の増加を図るとともに酒田市スポーツ少年団としてのデータを分析し、それを活用して体力向上の動機づけを進めていく必要がある。</p> <p>○今後も継続して、日常的にスポーツに親しむ機会をつくっていくために、施設整備だけでなく、体育協会と連携しながら指導者養成に向けて、研修会等を実施していく。</p>	
【参考】27年度評価	B		

基本的方向	Ⅲ 生涯スポーツで明るく健やかに生きる		
基本施策	9 スポーツ・レクリエーションの推進		
施策	(2) 生涯スポーツの推進		
担当部署	スポーツ振興課	平成28年度 担当部署	スポーツ振興課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人と人との交流及び地域と地域との交流を促進し、地域の一体感や活力を醸成し、人間関係の希薄化等の問題を抱える地域社会の再生に貢献するため、市民が主体的に参画する地域のスポーツ環境の整備に努める。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひとり1スポーツで元気なまちづくりをスローガンに、多くの市民がスポーツに親しむ環境をつくっていくため、スポーツ推進のための指導者等との連携強化と養成を図っていく。 			
平成28年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○スポーツ推進委員会研修活動事業【予算現額5,480千円・支出済額4,993千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ推進委員77名（H28.4月現在） ・全国推進委員研究協議会、東北地区推進委員研修会、山形県推進委員研究大会等へ参加し研鑽を積んだ。 <p>○体育振興会及び総合型地域スポーツクラブの支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内26地区にある体育振興会と8つの総合型地域スポーツクラブが登録されており、施設使用料を減免している。 <p>○スポーツ行事開催事業【予算現額18,608千円・支出済額18,608千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10の行事を開催し、12,726名の参加者があった。 			
平成28年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○スポーツによる地域活性化推進事業【予算現額3,900千円・支出済額3,158千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年目となる事業で、運動に興味を示さない層を含む多くの市民を対象としてスポーツ・レクリエーションに親しんでもらい、合せて健康増進・地域活性化を図り、健康社会の構築を目指すもの。酒田市スポーツ推進委員会の協力により、ノルディック・ウォーキングによる健康づくりに向けた教室、大会およびアンケート調査を実施した。 <p>○スポーツ行事開催事業では、50回を数えるクロスカントリー大会を通して、競技人口の普及・子どもの体力向上等の役割を一定程度達成できたと判断したことから事業終了とし、今後は、酒田つや姫ハーフマラソン大会等への参加を促すこととした。</p>			
事業の効果・課題			
<p>○市内には26地区の地区体育振興会の推薦を受けたスポーツ推進委員がおり、各地区をはじめ市全体の生涯スポーツの中心的な役割を担っていくものと捉え、組織支援が必要と考える。</p> <p>○体育振興会及び総合型地域スポーツクラブは、生涯スポーツの普及を中心とした活動を展開しているが、特に一部の総合型地域スポーツクラブでは、学校部活動の補完等の活動を行っている。今後は、地域との関係を強化し2つの組織が協働し、まちづくりを含めた幅広い組織活動へと変化することが必要となる</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
28年度評価	A	<p>○平成28年度のスポーツ行事においては、目標値13,400人としていたがクロスカントリー大会事業終了に伴い、1事業減の10事業12,726人の参加となった。</p> <p>○2年目となる地域活性化推進事業では、39名のスポーツ推進委員がノルディックウォーキングの指導者資格を取得し、これまで運動に興味を示さなかった市民を中心に事業を展開し、教室・大会・アンケートに延1,522名の参加があった。</p>	
【参考】27年度評価	A	<p>○地区体育振興会による活動及び総合型スポーツクラブの活動等に、より市民がスポーツに親しむことができるように組織・運営のあり方を考える必要がある。</p>	

基本的方向	Ⅲ 生涯スポーツで明るく健やかに生きる		
基本施策	9 スポーツ・レクリエーションの推進		
施策	(3) 競技スポーツの振興		
担当部署	スポーツ振興課	平成28年度 担当部署	スポーツ振興課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・競技力向上のため、各スポーツ団体等と連携し、体育協会加盟団体を中心とした指導者のレベルアップを図る。また、組織的、計画的にトップレベルの選手を育成することで、その選手の活躍が市民のスポーツへの関心を高めるようにする。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元選手が全国や世界の舞台で活躍できるよう、体育協会や競技団体と連携を密にし、トップアスリートの活動を支える環境づくりに努める。またそのための優秀な指導者の育成支援を行う。 			
平成28年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○酒田市体育協会事業補助金【予算現額10,832千円・支出済額10,832千円】</p> <p>○各種大会出場選手賞賜事業【予算現額3,848千円・支出済額2,998千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生690人、中学生98人、高校生・一般160人の計948人に激励金を交付した。 <p>○白崎資金スポーツ振興事業【予算現額1,402千円・支出済額1,170千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・競技スポーツ指導者研修（7回587人）、中央指導者養成研修派遣（7回8人）、スポーツ優秀選手表彰（105人）を実施し、選手育成の一助となった。 			
平成28年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○各種大会出場選手賞賜事業では、賞賜金を積算するにあたり、従来の大会開催地までの往復交通費（上限あり）として支給してきたものを、激励金として実態に即した定額（東北大会5,000円、全国大会8,000円）交付とした。ただし、小学生の県大会区分の交付は、周知期間が短いことから、平成28年度のみの特例措置とした。</p> <p>○白崎資金スポーツ振興事業では、スポーツ優秀選手に対する表彰基準を明確にすることで、被表彰者の各大会での入賞レベルの平準化を図った。</p>			
事業の効果・課題			
<p>○平成28年度の世界大会には、国際一輪車選手権に2人出場している。国民体育大会をはじめ全国大会出場者は、前年度より6人多い273人であった。今後も市体育協会と連携し、講習会等を通じて技術の向上だけにとどまらず、スポーツの意義と価値について次世代に継承しうる選手及び指導者の育成に努める必要がある。</p> <p>○2020年東京オリンピック・パラリンピックをはじめとする世界大会出場に向けた選手の育成強化や指導体制の強化が課題となっている。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
28年度評価	B	○上位大会へ出場した選手に対する賞賜金を激励金としたことで、上位大会出場への意識の高揚が図られた。あわせて、白崎資金の表彰基準を見直したことで表彰人数は減少したものの、「白崎資金スポーツ優秀選手表彰式」が高いモチベーションに繋がるものとなり、今後も世界大会等へ出場する選手をはじめとする優秀選手の支援を図っていく必要がある。	
【参考】27年度評価	B		

基本的方向	Ⅲ 生涯スポーツで明るく健やかに生きる		
基本施策	9 スポーツ・レクリエーションの推進		
施策	(4) スポーツ施設の整備充実		
担当部署	スポーツ振興課	平成28年度 担当部署	スポーツ振興課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 耐震診断の結果に応じた補強工事、老朽化対策等を講じ、施設の環境整備を図る。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 耐震化・老朽化対策を含め、スポーツ環境・施設整備を進める。高齢化の進展により、ユニバーサルデザイン、バリアフリー化に配慮した整備を進めていく。 			
平成28年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○体育施設整備事業【予算現額31,896千円・支出済額22,619千円・翌年度繰越額8,892千円】</p> <p>体育施設の工事、修繕及び備品の整備を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 光ヶ丘プール 冷温水機熱交換器修繕 2,970,000円 松山スキー場 人工ゲレンデ修繕 1,288,440円 国体記念体育館 トイレ洋式化修繕 5,097,600円【翌年度繰越額8,892千円】 光ヶ丘陸上競技場 陸上競技用機器（風速計、スタート信号発生装置） 3,726,000円 光ヶ丘陸上競技場 陸上競技用大会運営ソフト 3,142,800円 国体記念体育館 卓球台10台、サポートセット10セット 1,836,000円 国体記念体育館 バレーボール用選手交代パドル 35,640円 スケートリンク フィギアスケート靴 675,000円 <p>○パークゴルフ場整備検討事業【予算現額150千円・支出済額130千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> パークゴルフ場の整備について、現施設周辺地の動植物生態調査、並びに関係団体との意見交換を実施した。 			
平成28年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○インターハイや今後の大会誘致に向けて、国体記念体育館のトイレを洋式化することにより、ユニバーサルデザインに配慮した施設の整備を行った。</p>			
事業の効果・課題			
<p>○国体記念体育館のトイレ洋式化により、施設環境が向上し利用者から高く評価されている。</p> <p>○施設全般に老朽化が進んでおり、今後の利用見込みやニーズを踏まえ、長寿命化並びに耐震性も含めた、計画的改修等をしていく必要がある。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
28年度評価	B	<p>○全国規模の大会が誘致できるように卓球台など設備の充実を行った。（平成30年11月 日本卓球リーグ大会 誘致決定）</p> <p>○施設の大多数は今後も改修、更新等により安全で安定した機能を確保する必要がある。今後も緊急の故障等の発生があった場合には、適正かつ迅速な対応を行っていく。</p>	
【参考】27年度評価	B		

基本的方向	IV 歴史にはぐくまれた芸術・文化を活かす			
基本施策	10 芸術文化活動の推進			
施策	(1) 芸術文化の振興			
担当部署	社会教育文化課	平成28年度 担当部署	社会教育文化課	
施策の目的及び目標				
○目的				
・市民の芸術文化活動をより活発なものとするため、関係機関との連携を図りながら、次世代を担う人材の育成とすそ野拡大に努める。				
○目標				
・幅広い年代の市民が参加する「市民芸術祭」は、身近な文化活動に触れる場としても有効である。これらの事業をとおり、芸術文化振興に寄与された人材の顕彰に努めながら、活動の活性化とすそ野拡大に努める。				
	算出方法	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	入場者数実績	28,514人	26,974人	26,861人
				平成31年度(目標)
				27,000人
平成28年度 主な事業の概要及び実施状況				
○市民芸術祭開催事業【予算現額2,991千円・支出済額2,991千円】				
	区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	参加事業数	38団体	38団体	38団体
	入場者数	28,514人	26,974人	26,861人
○市民会館利用状況				
・申請書受付数 743件、入場者数 114,879人				
○庄内文化賞・阿部次郎文化賞顕彰事業【予算現額540千円・支出済額501千円】				
・庄内文化賞 齋藤雅子(舞踊/クラシックバレエ) ・阿部次郎文化賞 尾崎彰宏(美学)				
平成28年度における改善点・新たな取り組み				
○酒田市民芸術祭				
・酒田市民芸術祭60年記念事業として、市民公募展を行い、加盟団体以外の市民参加が広く行われた。実行委員会の総力を挙げた取り組みにより、芸術文化活動が活発化され、多くの市民参加のもと、質の高い内容となった。				
○県民芸術祭での受賞				
・酒田市民芸術祭閉幕公演「酒田フィルハーモニー管弦楽団第44回定期演奏会」では、名誉市民であるオペラ歌手(テノール)市原多朗氏を招聘し、ベートーヴェン作曲「交響曲第9番(合唱付)」を市民合唱団とともに演奏し、大賞を受賞した。その他、酒田市民芸術祭閉幕公演等の事業においても優秀賞を受賞した。				
○土門拳記念館<ローマ展の開催>				
・日本イタリア国交150周年記念事業としてイタリアのローマで土門拳の写真展を開催した。				
事業の効果・課題				
○酒田市民芸術祭				
・従来の其々の文化活動を維持・促進するとともに、次世代にいかにより継承し、人材を育成していくかが今後の重要な課題である。				
○庄内文化賞・阿部次郎文化賞顕彰事業				
・阿部次郎文化賞については、候補者の推薦が少ないことから、今後の在り方について検討する必要がある。				
点検結果・自己評価(今後の方向性)				
28年度評価	A	○市民芸術祭では、閉幕公演、閉幕公演など、加盟団体以外の市民参加による質の高い事業を展開し、大変好評であった。		
【参考】27年度評価	B	○酒田市の文化活動拠点施設である市民会館は、酒田市内外の文化団体をはじめ学校等からの利用も多く、アマチュアの発表の場としても有効に活用されている。		
		○文化振興においては、少子高齢化、価値観の多様化を背景に、市民参加型事業を実施するなど、次世代の育成に重点をおいた裾野の拡大に取り組んでいく必要がある。		

基本的方向	IV 歴史にはぐくまれた芸術・文化を活かす																		
基本施策	10 芸術文化活動の推進																		
施策	(2) 市民の鑑賞機会の充実 (その1)																		
担当部署	社会教育文化課	平成28年度 担当部署	社会教育文化課																
施策の目的及び目標																			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 豊かな感性を育み、文化活動や創造活動の動機づけとなる可能性が高いことから、プロのアーティストによる質の高い鑑賞機会の提供に努める。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々なジャンルのアーティストによる質の高い多彩な鑑賞機会を提供するとともに、芸術文化に対する関心を高める。 																			
平成28年度 主な事業の概要及び実施状況																			
<p>○酒田希望音楽祭</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本を代表する指揮者 現田茂夫氏とソプラノ歌手の森麻季氏を招聘し、新日本フィルハーモニー交響楽団コンサートを開催した。吹奏楽部等に所属する中高生等の入場もあり、酒田市内外から来場があった。 新日本フィルハーモニー交響楽団コンサート入場者数 864人 プロと市民の発表による、街かどコンサートを開催した。 希望ホールになかなか足を運ぶ機会の少ない酒田特別支援学校の児童生徒に向けて、新日本フィルが学校を訪れるアウトリーチミニコンサートを開催した。 <p>○希望ホール自主事業</p> <ul style="list-style-type: none"> プロのコンテンポラリーダンサー田畑真希氏の振り付けにより、酒田港まつり S-J i n k u に参加した。 鑑賞型事業としては、松竹(株)による本格的な歌舞伎公演を行ったほか、ジャズコンサート、一流アーティストによるトークショー、ワークショップなど多彩な質の高い公演を行った。そのほか、希望音楽祭街かどコンサートと連携し、マリーン5清水屋や交流ひろばで広く市民に無料でプロの演奏を鑑賞する機会を提供した。 入場者数 5,335人 山形交響楽団庄内定期演奏会酒田公演 入場者数 656人 <p>○質の高い鑑賞機会の提供以外に、市民参加型ワークショップやアウトリーチを実施、美術館やホール等になかなか足を運ぶ機会の少ない市民に対しても鑑賞機会を提供するなど、積極的な取り組みを行った。</p> <p>○土門拳記念館【予算現額44,409千円・支出済額44,409千円】(写真展示館管理事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> 土門拳の作品展示について、公益財団法人土門拳記念館と連携し、質の高い鑑賞機会の提供に努めた。 アジサイライトアップに伴い、他課と連携し、ミュージアムコンサートの開催や呈茶を行うなど、市民を対象にした事業を実施した。昭和の時代を撮影した土門拳の写真は、歴史的資料としての価値も高いことから、小中学校での授業活用について、学校に対し引き続きPRを行った。 <table border="1" data-bbox="268 1691 1204 1769"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成26年度</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入館者数</td> <td>29,574人</td> <td>31,874人</td> <td>26,375人</td> </tr> </tbody> </table> <p>○酒田市美術館【予算現額99,551千円・支出済額99,551千円】(美術館管理事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門性を活かした質の高い企画展の開催や、幅広い年代の人に足を運んでいただけるような教育普及活動を積極的に行うなど、公益財団法人酒田市美術館と連携しながら質の高い鑑賞機会の提供に努めた。 親子で楽しく鑑賞できるような企画展も取り入れるなど、幅広い年代の入館を意識した取り組みを行った。 <table border="1" data-bbox="268 1982 1204 2060"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成26年度</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入館者数</td> <td>47,710人</td> <td>69,627人</td> <td>52,049人</td> </tr> </tbody> </table>				区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	入館者数	29,574人	31,874人	26,375人	区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	入館者数	47,710人	69,627人	52,049人
区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度																
入館者数	29,574人	31,874人	26,375人																
区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度																
入館者数	47,710人	69,627人	52,049人																

基本的方向	IV 歴史にはぐくまれた芸術・文化を活かす		
基本施策	10 芸術文化活動の推進		
施策	(2) 市民の鑑賞機会の充実 (その2)		
担当部署	社会教育文化課	平成28年度 担当部署	社会教育文化課
平成28年度における改善点・新たな取り組み			
事業の効果・課題			
<p>○少子高齢化、価値観の多様化などを背景に、質の高い鑑賞機会だけでは新顧客の獲得が困難になってきている。参加型事業の実施や、芸術文化の魅力を伝えるような取り組みを行うなど、蓄積型文化を意識した取り組みが今後ますます重要になってくる。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
28年度評価	A	<p>○酒田希望音楽祭では、新日本フィルハーモニー交響楽団コンサートを開催し、市民並びに市内小学校6年生に対して、質の高い鑑賞機会の提供を行うことが出来た。</p> <p>○希望ホール自主事業では、主に未就学児と小学生を対象に、プロのアーティストによる「楽しく聴ける」コンサートを開催したほか平成22年から開催していなかった松竹（株）による本格的な歌舞伎公演を行うなど、質の高い鑑賞機会の提供を行った。</p>	
【参考】27年度評価	A	<p>○土門拳記念館・酒田市美術館では、幅広い年代の市民に気軽に足を運んでいただけるような取り組みを積極的に行うなど、質の高い鑑賞機会の提供に努めた。</p>	

基本的方向	IV 歴史にはぐくまれた芸術・文化を活かす				
基本施策	10 芸術文化活動の推進				
施策	(3) 青少年の芸術文化活動の充実				
担当部署	社会教育文化課	平成28年度 担当部署	社会教育文化課		
施策の目的及び目標					
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育や生涯学習と連携・協力し、多様な社会に対応出来るような人材育成を行うとともに、芸術文化活動の充実を図る。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・価値観の多様化、グローバル化の社会の流れを意識しながら、学校教育や生涯学習と連携・協力しながら、より分かりやすい丁寧な文化体験型事業の展開を目指す。 					
平成28年度 主な事業の概要及び実施状況					
<p>○酒田希望音楽祭開催事業【予算現額6,953千円・支出済額6,953千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内小学校6年生を対象に、新日本フィルハーモニー交響楽団コンサートリハーサル鑑賞体験事業を実施。コンサートの鑑賞のみならず、クラシック音楽やホールでの鑑賞マナーを学ぶ機会として位置付け、毎年継続的に実施。（平成28年度：21校641名） ・新日本フィルメンバーによるアウトリーチ事業を実施。（実施校：酒田特別支援学校） ・世界の名器スタインウェイピアノの演奏体験事業を実施。（平成28年度参加者数：37名） <p>○市民会館自主事業等運営事業【予算現額11,005千円・支出済額10,998千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生以下を対象にしたプロ奏者による楽しく聴ける参加型コンサートを開催したほか、プロのフルート奏者による楽器クリニックを行うなど、人材育成を目的にした事業を実施した。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">ワークショップを実施した事業 ()内は参加者</td> <td>①航空自衛隊航空中央音楽隊による楽器クリニック（高校生53名） ②荒川洋（フルート奏者）による楽器クリニック（中学生24名） ③コンテンポラリーダンス事業 S-JINKUに参加（27名） ④こどものスーパーマルチーズ（48名）</td> </tr> </table> <p>○酒田市美術館・土門拳記念館 学校活動の見学時に、学芸員が説明を行うなど、学ぶ機会としても有効に活用された。</p> <p>○「能・狂言」ワークショップ（対象：市内全小学校5年生）</p>				ワークショップを実施した事業 ()内は参加者	①航空自衛隊航空中央音楽隊による楽器クリニック（高校生53名） ②荒川洋（フルート奏者）による楽器クリニック（中学生24名） ③コンテンポラリーダンス事業 S-JINKUに参加（27名） ④こどものスーパーマルチーズ（48名）
ワークショップを実施した事業 ()内は参加者	①航空自衛隊航空中央音楽隊による楽器クリニック（高校生53名） ②荒川洋（フルート奏者）による楽器クリニック（中学生24名） ③コンテンポラリーダンス事業 S-JINKUに参加（27名） ④こどものスーパーマルチーズ（48名）				
平成28年度における改善点・新たな取り組み					
<p>○希望ホール自主事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吹奏楽等の活動を行う中高生を中心に、楽器クリニックを行うなどレベルアップの機会を提供した。また、酒田港まつりS-JINKUに、プロのコンテンポラリーダンサーであり振付家の田畑真希氏を招聘し、オリジナルの振り付けのもと、市民（6歳～75歳までの約30名が参加）がプロのダンサーと一緒に参加したほか、未就学児や小学生もプロのアーティストのもつ高い芸術性や音楽性などに直接触れられるような機会の提供にも努めた。 					
事業の効果・課題					
<p>○価値観の多様化、グローバル化が進む中で、文化の位置付けが高まってきている。</p> <p>○本市の文化拠点である希望ホールを有効活用し、プロによる質の高い鑑賞機会や文化体験事業の機会を提供することは、人材育成の視点から極めて重要なことだと認識している。文化は豊かな感性を育むばかりではなく、個性を認め合える表現は生きる力を育むものだと言われている。また、世代を超えた交流や人と人とを繋ぐ役割も果たせるものであり街づくりとしての有効性も言われている。これらの文化事業を計画的に継続的に進めていくことが重要である。</p>					
点検結果・自己評価（今後の方向性）					
28年度 評価	B	<p>○プロのアーティストが持つ芸術性の高い世界観に触れることは、青少年にとって文化活動への動機づけとなる可能性が高いことから、希望ホール自主事業を中心にワークショップ（クリニック）等を継続的に実施している。</p> <p>○プロのアーティストの演奏を間近で観たり、聴いたり、楽器に触ったり出来るワークショップのような直接的な取り組みは、情操教育のみならず、自己表現の可能性を拓けるものであり、多様化に対応出来る人材育成にも有効であると考えている。</p> <p>○今後は、計画的にアウトリーチ実施校を増やすなど、より多くの青少年に対し、機会の提供が出来るように努めていきたい。</p>			
【参考】27年度 評価	B				

基本的方向	Ⅳ 歴史にはぐくまれた芸術・文化を活かす																						
基本施策	11 歴史・文化遺産の保存と活用																						
施策	(1) 文化財等の保存と活用																						
担当部署	社会教育文化課	平成28年度 担当部署	社会教育文化課																				
施策の目的及び目標																							
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の貴重な財産であり観光資源でもある文化財について、関係機関と連携しながら、地域の活力を活かし有効な保存、活用を図る。 ・市内に存在する資料について調査し、貴重なものについては指定を行う。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画展の充実や観光事業との連携により、文化財施設の入館者数を増やす。 ・文化財施設を良好な状態に保つために適切な維持管理を行う。 																							
平成28年度 主な事業の概要及び実施状況																							
<p>○文化財保護総務管理事業【予算現額8,102千円・支出済額7,140千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試掘調査4箇所（消防本部移転予定地）、（亀ヶ崎一丁目2箇所）、（字内町） ・城輪柵跡東門漆喰の修繕、奉行所跡地の維持管理 ・史跡整備協議会での要望・研修活動 <p>○文化財施設管理運営事業【予算現額31,605千円・支出済額29,563千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市立資料館、旧白崎医院、旧鑑屋、旧阿部家の管理運営事業 <p>○文化財保存活動支援事業【予算現額1,778千円・支出済額1,778千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民俗芸能保存会、国指定史跡名勝の庭園管理等へ支援 <p>【参考】文化財施設入館者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施設名</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>資料館</td> <td>6,482人</td> <td>6,276人</td> <td>6,211人</td> </tr> <tr> <td>旧鑑屋</td> <td>15,874人</td> <td>12,693人</td> <td>10,733人</td> </tr> <tr> <td>旧白崎医院</td> <td>1,997人</td> <td>2,041人</td> <td>1,536人</td> </tr> <tr> <td>旧阿部家</td> <td>2,648人</td> <td>2,752人</td> <td>2,557人</td> </tr> </tbody> </table>				施設名	26年度	27年度	28年度	資料館	6,482人	6,276人	6,211人	旧鑑屋	15,874人	12,693人	10,733人	旧白崎医院	1,997人	2,041人	1,536人	旧阿部家	2,648人	2,752人	2,557人
施設名	26年度	27年度	28年度																				
資料館	6,482人	6,276人	6,211人																				
旧鑑屋	15,874人	12,693人	10,733人																				
旧白崎医院	1,997人	2,041人	1,536人																				
旧阿部家	2,648人	2,752人	2,557人																				
平成28年度における改善点・新たな取り組み																							
<p>○旧鑑屋は前回の修復から約20年が経過し、屋根の雨漏が発生するなど、老朽化が目立つ。このため、修復に向けた予備的な耐震診断をしたところ、耐震性が不足していることが判明した。文化庁調査官と協議して、熊本地震の被害も考慮して耐震診断を実施した。</p> <p>○松山文化伝承館の収蔵品を昆虫やカビの被害から守るために、収蔵庫内をガスによる薫蒸を実施した。これにより、収蔵品の保存状態を良好に保つことができた。</p> <p>○旧白崎医院の外壁は冬季の季節風により塩害の影響を受けやすいので、建物を良好に状態に保つために外壁の洗浄、塗装を行った。</p>																							
事業の効果・課題																							
<p>○貴重な文化財や歴史資料の散逸を防ぐとともに、適正に管理保存し、機会を設けて展示等を実施することにより、多くの市民へ文化財保護の重要性をPRすることができ、理解を深めることができた。</p> <p>○入館者数が減少傾向にある。特に旧鑑屋については近隣の本間家旧本邸と連携して引き続き、集客に努める必要がある。</p> <p>○旧鑑屋の本格的な修復作業を開始した。平成28年度は、耐震診断を実施して、現在の建物の耐震性を調査した。今後、耐震補強案の策定を進める。</p>																							
点検結果・自己評価（今後の方向性）																							
28年度評価	B	<p>○文化財や歴史的資料は地域の貴重な財産であるため、今後も継続して収集と保存に努める必要がある。</p> <p>○旧鑑屋の本格的な修復の前段として、耐震診断を実施した。今後は、この結果を元に耐震補強案、修理計画を策定し、修復作業に着手する。</p>																					
【参考】27年度評価	B																						

基本的方向	IV 歴史にはぐくまれた芸術・文化を活かす		
基本施策	11 歴史・文化遺産の保存と活用		
施策	(2) 地域における民俗文化財の保存と活用		
担当部署	社会教育文化課	平成28年度 担当部署	社会教育文化課
施策の目的及び目標			
○目的			
<ul style="list-style-type: none"> ・無形文化財の保護・継承を行う人材や団体を育成、支援する。 ・「民俗芸能フェスタ」などの各種事業を実施し、伝承活動を支援する。 			
○目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・民俗芸能や伝統文化の保護を目的に、民俗芸能団体の後継者の育成、関係団体の交流を図り団体活動を支援する。 ・酒田市民俗芸能保存会への加盟の促進を図る。 			
算出方法		26年度	27年度
民俗芸能保存会加盟団体数		33	33
		28年度	31年度（目標）
		33	36
平成28年度 主な事業の概要及び実施状況			
○文化財保存活動支援事業【予算現額1,778千円・支出済額1,778千円】			
<ul style="list-style-type: none"> ・酒田市民俗芸能保存会、松山能振興会、松山藩荻野流砲術伝承保存会等に対し支援を行った。 			
○未来へ受け継ぐ伝統文化はぐくみ事業【予算現額5,071千円・支出済額4,840千円】			
<ul style="list-style-type: none"> ・「民俗芸能フェスタ」の開催 11月13日 会場：希望ホール 県内外の民俗芸能を紹介するとともに、市内の保存団体への出演機会を提供した。また、永年の伝統芸能保存継承活動に対する功労者の顕彰を行うとともに、各地域における上演日や演目などをまとめたプログラムを作成し、市民に広く紹介した。 ・「黒森歌舞伎酒田公演」の開催 3月12日 会場：希望ホール 黒森歌舞伎正月公演を黒森地区で終えてから、同じ演目で公演を行い市民へ広く民俗芸能の素晴らしさを鑑賞いただいた。 ・松山城址館で市内の小学校5年生を対象に「狂言ワークショップ」を開催した。 			
区分		26年度	27年度
民俗芸能フェスタ入場者		890人	688人
黒森歌舞伎酒田公演入場者		600人	700人
		28年度	
		700人	560人
平成28年度における改善点・新たな取り組み			
○文化遺産を活かした地域活性化事業として、松山城址館を会場に市内全小学校5年生を対象とした狂言ワークショップを開催した。			
○第36回全国豊かな海づくり大会の開会行事では、黒森歌舞伎が全国の参加者に歓迎の口上を述べた。特に天皇皇后両陛下が御臨席されたことで、全国的に報道されたので、大きな宣伝効果があった。			
事業の効果・課題			
○「民俗芸能フェスタ」は48回を数え、民俗芸能の保存継承だけでなく、地元団体と他県や市外の民俗芸能団体との相互交流や、情報交換の場として重要な役割を果たした。			
○黒森歌舞伎については、テレビでも取り上げられて、県外でも知られるようになった。			
○小学生から高校生まで出演機会の提供に努め、民俗芸能継承の底辺拡大を図ることができた。			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
28年度評価	B	○民俗文化財は地域の貴重な財産であり、後世に継承・保存していくために、一層の周知が必要である。	
		○民俗芸能保存会と連携して未加盟団体の加盟を促進していくとともに、後継者育成などの課題解決に向けて支援を行っていく。	
【参考】27年度評価	B	○「民俗芸能フェスタ」の映像記録、酒田市民俗芸能保存会が行っている各保存会の活動記録、黒森歌舞伎正月公演の映像記録などを後継者育成などに活用を図っていく。	
		○イベントへの出演やマスコミの取材は、酒田の伝統文化をPRするのいい機会にもなるので、積極的に協力していく。	

基本的方向	Ⅳ 歴史にはぐくまれた芸術・文化を活かす		
基本施策	11 歴史・文化遺産の保存と活用		
施策	(3) 地域資料の収集と保存 (その1)		
担当部署	社会教育文化課	平成28年度 担当部署	社会教育文化課

施策の目的及び目標

- 目的
 - ・市立資料館、松山文化伝承館の活用を図り、郷土の歴史等に対する市民の理解を深める。
 - ・文化財の保存と管理を行うとともに、市民への公開に努める。
 - ・歴史的に価値のある郷土の資料の散逸を防止するため、購入や受け入れを行う。

- 目標
 - ・企画展示を工夫するなどしてPRに努め、入館者数の増加を目指す。

算出方法	施設	26年度	27年度	28年度	31年度(目標)
入場者数	市立資料館	6,482人	6,276人	6,211人	7,000人以上
実績	松山文化伝承館	3,889人	4,685人	3,127人	5,000人以上

平成28年度 主な事業の概要及び実施状況

- 文化財施設管理運営事業【予算現額31,605千円・支出済額29,563千円】
 - ・保存資料の購入(御客船帳)
 - ※各地の商船や商人との商い状況の記録 平成27年度に引き続き購入

- 学校教育との連携
 - ・市立資料館
小中学校来館校数11校、来館者総数418人
 - ・松山文化伝承館
小中学校来館校数7校、来館者総数350人
 - ・城輪柵跡
小中学校の見学校数4校、見学者総数196人

- 文化的資料の相談や情報提供業務(レファレンス)
入館者数(人)

施設	26年度	27年度	28年度	備考
市立資料館	6,482	6,276	6,211	企画展 年5回
文化伝承館	3,889	4,685	3,127	企画展 年6回
阿部記念館	167	100	190	

文化財及び歴史資料の収集・保存状況(件)

施設	26年度	27年度	28年度
市立資料館	647	1,531	1,848
松山文化伝承館	23	252	11

レファレンス(調査・問い合わせ等)対応状況(件)

施設	26年度	27年度	28年度
市立資料館	37	61	75
松山文化伝承館	11	14	2

基本的方向	IV 歴史にはぐくまれた芸術・文化を活かす		
基本施策	11 歴史・文化遺産の保存と活用		
施策	(3) 地域資料の収集と保存 (その2)		
担当部署	社会教育文化課	平成28年度 担当部署	社会教育文化課
平成28年度における改善点・新たな取り組み			
<ul style="list-style-type: none"> ○まいづる荘に保管していた出土品を旧鳥海小学校へ移動させた。同時に職員も旧鳥海小学校に移動した。今後は埋蔵文化財整理室や資料館の収蔵庫として活用を図っていく。 ○資料館では、酒田大火から40年の節目の年にあたり、酒田大火の企画展を開催した。予想以上に関心が高く、市内外から多くの来館者があった。 ○歴史的に価値のある郷土の資料等については、購入や寄付の受け入れを行い、散逸を防ぐとともに、収集、保存に努めた。 ○魅力ある展示内容にするよう工夫検討し、ホームページやフェイスブック、マスコミ等を活用してPRに努めた。 ○阿部記念館の収蔵品を活用し、来館者の増加を図るために、絵ビラ展を開催した。 (平成28年9月22日から10月10日) 			
事業の効果・課題			
<ul style="list-style-type: none"> ○資料館での酒田大火の企画展は大火から40年を過ぎてもなお、多くの人たちが関心を持っていることが分かり、入館者数の増加に寄与した。(入館者2,088名) ○平成28年度も廻船問屋の様子を知ることができる御客船帳を購入して貴重な郷土資料の収集、保存に努めた。 ○魅力ある展示内容にするよう工夫検討し、ホームページやフェイスブック、マスコミ等を活用してPRに努めた。 ○阿部記念館の収蔵品は多くの人に関心を持っていることがわかったので、企画次第で来館者が増加する可能性を見出せた。 			
点検結果・自己評価(今後の方向性)			
28年度評価	B	<ul style="list-style-type: none"> ○来館者が増えるような企画展示を考えていく。特に酒田大火に関する展示など、関心事を把握することも重要と考える。 ○阿部記念館については、松山総合支所とも協力してPRを図り、来館者の増加に努める。絵ビラの展示は予想以上の来館があり効果があった。 	
【参考】27年度評価	B		

